

学术交流レポート

—2013—

桐蔭横浜大学

学 長 挨拶

桐蔭横浜大学

学長 小 島 武 司

「学術交流レポート2013」が刊行されて、学術教育活動などの進展が一覧できることになり、有意義な進展の一步であると思います。

このレポート刊行の意義は、いよいよ大きくなっています。研究と教育を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性、そして主体性の基礎があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献が可能になるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学の存在感と大学への期待は一段と大きいものとなっているといえます。

何年か前のことですが、私はイタリアのボローニア大学(世界最古の大学)創立900年記念シンポジウムに参加し、学術報告を行ったことがあります。世界最古の大学の足跡を追いながら、教育と研究のコラボレーションの中に宿る可能性の偉大さを感じること一入でした。近時、具体的ケースに焦点を合わせた双方向的な対話型の授業が展開されていますが、ここに示されている知的リソースが頼りがいのあるものとなると思われれます。

「学術交流レポート2013」は、単年度の専任教員による学術研究と教育活動をまとめたものです。本学は、スポーツ健康政策学部が加わり、法学、医用工学の3学部体制となり、また、3つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されております。こうした進展のなかで、本格的な高等教育機関として総合的体制が整備されつつあると自負しております。そこから生まれるところの学術研究教育活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、学の内外にわたり幅広い知的交流の機会が増大し、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

現在、本学において、地域社会と海外都市を結ぶデルタ型の仮想空間とその仕組みを動かそうとする目的が共有され、本学をいわばコミュニティのハブ組織の一つとして、研究と教育をグローバルに展開するエネルギーが盛り上がってきています。本レポートは、大学が一段と高い役割を果たしていくスプリングボードとなるものと確信しています。

学術交流レポート2013 目次

■	学長挨拶	1	
■	建学の精神	3	
■	大学組織図	4	
■	学長	5	～ 6
■	法学部 法律学科	7	～ 45
■	医用工学部		
	生命医工学科	46	～ 66
	臨床工学科	67	～ 99
■	スポーツ健康政策学部		
	スポーツ教育学科	100	～ 117
	スポーツテクノロジー学科	118	～ 136
	スポーツ健康政策学科	137	～ 155
■	工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	156	～ 176
■	法務研究科 法務専攻	177	～ 201
■	先端医用工学センター	202	～ 204
■	2013年度退職教員	205	～ 216
■	公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	217	～ 229

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

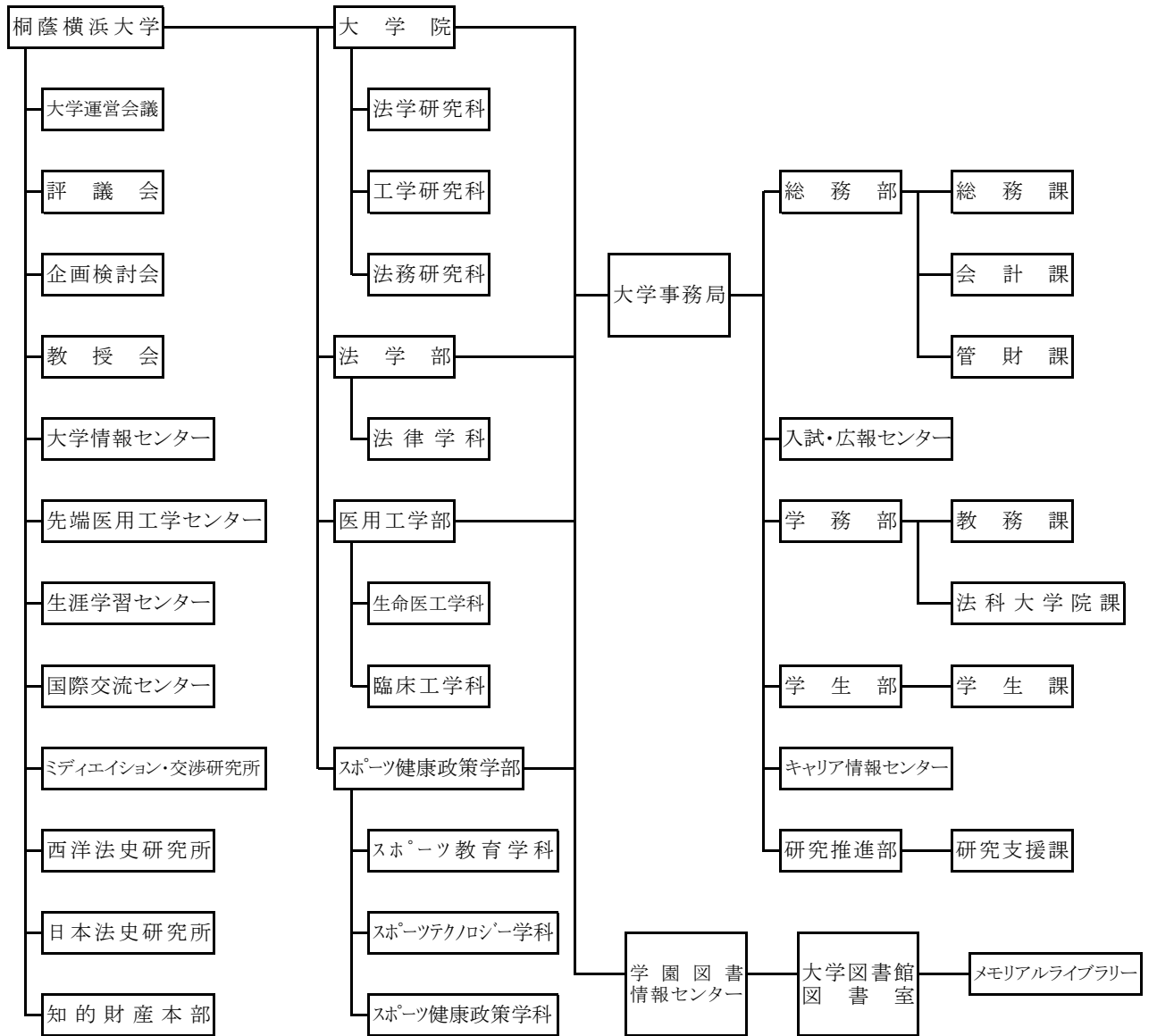
学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

自然を愛し、平和を愛する国際人たれ。

大学組織 2014.4.1現在



小島 武司 (こじま たけし) 学長



出生年：1936(昭和11)年
 在籍：2006(平成18)年9月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科
 学位：法学博士(中央大学)
 学位論文：訴訟制度改革の理論等
 専門分野：民事訴訟法、仲裁法、弁護士法
 前職：中央大学法学部教授、中央大学法科大学院教授
 学内役職等：学長
 留学：ミシガン大学ロースクール(アメリカ)、フィレンツェ大学(イタリア)、ケルン大学(ドイツ)
 客員教授：フランクフルト大学客員教授(ドイツ)、エクスマルセイユ大学客員教授(フランス)、コロンビア大学ロースクール(アメリカ)・ADRセミナー担当、南京大学客員教授(中国)
 資格：法曹資格
 司法試験合格(1958年)、その後司法修習(最高裁判所司法研修所)
 非常勤講師：早稲田大学(学部)、大阪市立大学(大学院)、名古屋大学(大学院)

I 教育活動

○2013年度の教育活動概略
<p>学校という組織の評価にはかねてより様々な立場があり、消極の見解も侮り難く、とりわけ大学の役割に一定の制約があることにはさしたる異論はないであろう。このところMOOCが教育上のオールタナティブとして登場し、その可能性が現実に関花しつつあり、この方向を取り入れようとする大学も増加しつつある。このような進展の中でキャンパスというものを中心とする大学は、その特質を活かし、独自の強みをいかんにして発揮するかが、重要な課題となっている。今日の状況下において、大学は教育と研究とを結合し、若者の頭脳の柔軟さないし知的好奇心に着目し、広大なインテリジェンスの海域やレッド・オーシャンの世界をいかんにして泳ぎ切るかの泳法ないし力量を学生に獲得させることはきわめて重要であると思われる。</p> <p>そこで、大学のいかに問わず高等教育である以上は、研究活動の一段の活性化が求められ、教授陣の中での共同研究などの学際的交流と同時に学生相互間における知的対話の推進がその重要性を益々高めている。この値打ちある気風を育むためには何が必要かについては、いろいろな意見があつてしかるべきであり、むしろその意見の多様さこそが大切である。教授陣、学生グループ、そして教授と学生が集い交流するキャンパスには、自由と平等の気風、とりわけ相互信頼 (mutual respect) が大切であろう。</p> <p>このような基本認識については、教授陣内にさほどの意見対立はないのであり、重要な課題は、いかんにしてこのような気風をキャンパス内に横溢させるかということである。具体的な手法は様々であるが、例えば、教授と学生が多彩な研究会を組織し、地域社会の人材も巻き込んだ活力あるフォーラムを作り、一緒に考え学び合う活動に力を注いでいくべきであろう。このようにして教授と学生との間の双方向的ダイアログ、そして学生相互間の多方向的な討論が活発に展開されていくならば、大学生生活の4年間(あるいは6年間、9年間)は、人生において最良の時間帯として光彩を放ってくるはずである。</p> <p>このような考え方にに基づき、各学部長、研究科長等との間で意見交換が進んでおり、キーパーソンが実践的な活動を試行し始めつつある。</p>

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>専門分野の研究としては、その集大成を図るべく民事訴訟法の体系書(約1000頁)を公刊し、これに引き続き仲裁法の体系書(約700頁)の執筆が今年度中にはほぼ終わり、来年度前半の公刊を予定している。このほか、特定テーマの研究書の執筆にも取り組んでおり、「正義へのアクセス」に関する理論書の執筆を開始しており、その成果の一部は、中国上海における学会で発表する予定である。</p> <p>世界大学学長会議が来年の春に横浜において開催されることになっており、そのシンポジウムにおいて法学教育制度に関する日本の新立法を紹介し、新しい法曹養成システムについて異なる法制をもつ各国の大学が共同して研究を進めることを提言し、国際的な紛争や文化摩擦を越えて未来志向のシステムを築くためのプロジェクトの発足に努めたい(英文報告書執筆済み)。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「よくわかる民事訴訟法」	共著	2013年10月15日	ミネルヴァ書房	小島武司(編著)	

(学術論文)					
「司法アクセスの新たな地平—法テラスの波紋、弁護士業務モデルの刷新、プログレス年次報告—」	共著	2014年3月	総合法律支援論叢4号	小島武司、小林学	1-23頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

○2013年度の学会活動概略	
<p>学会活動としては、日本司法アクセス学会において、司法アクセスに関するプログレス・レポートの作成に向けて調査プロジェクトを発足させ、学者を中心に数十人のメンバーで報告書の執筆作業を始めている。</p> <p>日本法律家協会において法曹倫理の研究会にメンバーとして参加し、その成果は著作として次年度には刊行されることになろう。これまで教育の場で出会った若者たちがいまや裁判官、検察官、弁護士となり、企業や行政の実務に従事していることから、いくつかの私的な研究会が組織され、社会の新鮮な感覚に触れる機会が得られるに至っており、社会のダイナミズムを実感させられている。</p>	
○2013年度の社会活動概略	
<p>日本法律家協会会員(理事)、第二東京弁護士会会員、日米協会会員、東京フルブライト・アソシエーション会員、日本倶楽部会員、中央大学法科大学院フェロー、中央大学南甲クラブ会員、中央大学眞法会会員(会長)などがある。</p>	
所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会(元理事長)、仲裁ADR法学会(前理事長)、日本司法アクセス学会、日米法学会(元評議員)、法社会学会、学術会議同友会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	日本交渉学会理事
～現在	日本法律家協会理事
～現在	日本司法アクセス学会会長

法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期
学位 : 法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
学位論文 : 勸告的意見の機能について
専門分野 : 国際法
前職 : 日本学術振興会特別研究員
学内役職等 : 法律学専攻長 (2012～)
留学 : New York University, School of Law
非常勤講師 : 中央大学法学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2) 法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。 ・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実には生じうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
法の調停モデルに基づく紛争解決に関する研究。紛争解決の質を高めるための制度の模索。国内法学では、裁判における対話的合理性の評価からADRによる紛争解決の重要性の研究がなされたが、国際社会においては、裁判よりもADRのような任意性の強い制度が頻繁に用いられる。紛争の種類によっては裁判モデルよりも調停モデルに基づく解決の方がより高い解決の質をもたらすことがある。どのような種類の紛争に調停モデルは適しているのか。調停モデルによりもたらされる解決の質の高さとは具体的にどのようなものであるのかの研究を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

鹿兒嶋 繁雄 (かごしま しげお) 教授



出生年：1950(昭和25)年
在籍：1993(平成5)年4月～
最終学歴：立教大学大学院文学研究科
学位：文学修士
学位論文：ゴート語の現在分詞について
専門分野：ゲルマン語学
前職：成蹊大学工学部非常勤講師
非常勤講師：中央大学法学部

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

handsomeの語源:「(男性が)ハンサムな、美男子の;りっぱな(特に内面的なものが反映された魅力的な男性をいう)」というhandsomeのhand-はゲルマン語の最古の文献ゴート語handguth「知恵ある」からの派生と仮定すると、3つの候補がある。①ギリシア語 τ ε λ χ ο σ κ ο π ι ε 「町の城壁から観察する者たち」②ラテン語nuntius「伝令」③hastatus「槍で武装した、ローマ軍団の戦闘隊形における最前線で最強の部隊」。これら3つの語彙はいずれも現代語のhandsome, handguthの内容を含んでいる。音韻では③hastatus、意味内容は①②の τ ε λ χ ο σ κ ο π ι ε、nuntiusが担っているように思える。今後は、今までの論文を纏めてドイツで出版するつもりです。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本独文学会

笠原 毅彦 (かさはら たけひこ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位：法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文：法判断権の所在
 専門分野：民事法、法情報学
 前職：常磐大学短期大学部講師
 学内役職等：学生部副部長(2014～)
 留学：ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間、学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開、教材として呈示しながら講義を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材及び講義資料をダウンロードサイト。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
複数大学に亘る電子会議室の利用による学び合い	2013年9月	私立大学情報教育協会教育改革ICT戦略大会発表
オープンソフト(ネットコモンズ)を利用した、複数大学の学びの場作り	2013年9月	明治大学国際総合研究所内 文明とマネジメント研究所での第45回オープンソフトウェア&リソース研究会の場で、インターネット上の掲示板(電子会議室)を利用した複数大学の学び合いの実践に関して、そのシステムを中心に、利用したオープンソフトウェアの観点から発表した。
複数大学に亘る電子会議室の利用による学び合い	2013年11月	平成25年9月、私立大学協会(アルカディア)においてなされた私立大学情報教育協会教育改革ICT戦略大会における発表のオンデマンド配信。 http://www.juce.jp/ondemand/2013/

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>相変わらず、サイバーキャンパス・サイバーコートに関する講演依頼、原稿依頼が多い。最高裁判所にもようやくICT化(デジタル化)の動きが出てきたことも影響している。</p> <p>今年度は、幅を広げる意味で、法情報学全般渡り、講演・原稿の対象を広げた。</p> <p>特に、「通信の秘密」と「特定秘密保護法」は総務省の委託研究、国際学会での報告を入れることで、停滞しがちな研究に弾みを付けた。</p> <p>また、理系の情報学系、論理学系の多い人工知能学会と文系の情報法学系の多い情報ネットワーク法学会の協働、橋渡しに努めている。</p> <p>2冊の本(共著)、1冊の報告書(Web出版)、2本の報告書(総務省委託研究)、大小10回の講演、1本の論文として公表した。(詳細に関しては、著書論文等以下。)</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
インターネットの法律問題	共著	2013年7月	新日本法規出版	編者:岡村久道	第18章「法情報学」担当

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
複数大学に亘る電子会議室の利用による学び合い(シンポジウム講演)	2013年9月	私立大学情報教育協会教育 改革ICT戦略大会	平岡淳
Classified Information in Japan	2013年11月	Asia-Pacific Cyber Law, Cybercrime and Internet Security Research Institute, Waseda University	
プロバイダ概念再考	2013年11月	「インターネットと通信の秘密」 調査グループ研究会	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
オープンソフト(ネットコモンズ)を利用した、複数大学の学びの場作り	2013年9月	オープンソフトウェア&リソース研究会	平岡淳
ネットユーザーの危ない現実	2013年11月	京都文教大学	
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
国立情報学研究所共同研究経費	2013年2月～2014年3月	国立情報学研究所	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ドイツ通信の秘密調査	2014年3月1日～8日	ザールラント大学法情報学研究所, ISP(ドイツ連邦共和国)	
(その他特記事項)			
大学院生論文審査			
情報処理学会法情報学国際ワークショップ(JURISIN2013)開催。プログラム委員・論文審査担当			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1985年 9月～現在	手続法研究所(慶應大学)理事	
1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員	
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員	
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員	
2006年 9月～現在	Japrico Club(キャンパスツール普及促進組織)運営委員	
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー	
2009年 3月～現在	農林水産省沖縄伊江村民泊プロジェクト専門家委員会委員	
2013年11月～現在	人工知能学会法情報学国際ワークショッププログラム委員	
2014年2月～現在	国立情報学研究所共同研究員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
桐蔭学園高校フロンティアセミナー	2013年9月22日	桐蔭学園高校

加藤 幸嗣 (かとう こうじ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
在籍：2004(平成16)年10月～
最終学歴：東京大学法学部
学位：法学士
専門分野：行政法、地方自治法、環境法
前職：参議院法制局参事、山口大学助教授、国士舘大学教授等

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、日本行政学会、自治体学会、日本環境学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	行政経営フォーラム(PMFJ)等における行政関係者等との交流活動等

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：法学部長、法学研究科長(2012～)
 留学：パリ第2大学博士課程
 非常勤講師：一橋大学法科大学院・早稲田大学法学部
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)刑務所参観	2008年2月22日 2010年3月9日 2012年2月22日 2014年3月19日	ゼミ生を引率して府中刑務所参観 ゼミ生を引率して横浜刑務所参観 ゼミ生を引率して千葉刑務所参観 ゼミ生を引率して川越少年刑務所参観
(2)ゼミ合宿	2009年9月3-4日 2010年9月3-4日 2011年9月4-5日 2012年8月30-31日 2013年9月1-2日	山中湖(1泊2日) 伊豆松崎(1泊2日) 熱海網代(1泊2日) 九十九里浜(1泊2日) 河口湖(1泊2日)
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
『學士會会報』第888号		「法学教育の見直しとエリートの役割変化」26頁～30頁
4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本学術会議特任連携会員		大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学教育の参照基準造り

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
科学研究費助成事業 > 新学術領域研究(研究領域提案型)「刑罰と犯罪抑止 厳罰化と死刑の効果を信じる人々はどうすれば意見をかえるのか」研究期間 2011年度～2015年度(平成23年度～平成27年度) 全国規模の本格的意識調査を実施した。日本犯罪社会学会において「刑事施設視察委員会の実情」のテーマセッションを企画し報告した。人事院国家I種採用者初任者研修、警察庁の特別捜幹部研修、矯正研修所において研修講師を務めた。今後、捜査手法と社会変化について著書準備中。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「これからどうする 未来のつくり方」	共著	2013年6月12日	岩波書店	岩波書店編集部編	561-563頁
(学術論文)					
「刑事政策は右傾化しているのか」	単著	2013年9月1日	罪と罰 第50号4号 刑事政策時評	-	81-84頁
「少年非行」	共著	2014年2月10日	論究ジュリスト2014年 冬号	佐伯仁志・金光旭・太田達也・坂野剛崇・川出敏裕・河合幹雄	155-172頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「日本の司法改革:刑事司法の大転換」	2013年9月25日	東アジア司法改革国際学術 シンポジウム(華僑大学 陳 嘉庚記念堂2F会議室)	-
「刑事施設視察委員会の実情」	2013年10月5日～ 6日	日本犯罪社会学会	-
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「防犯における警察官の役割 伝統の再考」	2013年10月8日	福井県警本部 教養課講演 会(福井県警察本部6階大会 議室)	
「法社会学 犯罪統計と実態」	2013年11月1日	矯正研究所	
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持 する 刑事政策における日本の伝統的手法」	2013年11月5日	特別捜査幹部研修所93期生 研修講義 警察大学校特別捜査幹部研 修所	
「森に描かれた物語を求めてーゴリラと人が 分かち合う物語ー」	2014年2月10日	河合隼雄物語賞・学芸賞記 念講演会公開対談小川洋子 ×山極寿一 一般財団法人 河合隼雄財団	紀伊国屋サザンシアター
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2010年4月～2015年3月	新学術領域 刑罰と犯罪防止 研究代表者	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑦ー遠隔操作ウイルス事件に見る対サイ バー人材の不足と偏重」	2013年4月1日	サイゾー・2013年4月号 132-133頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑧ー弁護士増員計画の頓挫と総会屋排斥と の“共通点”」	2013年5月1日	サイゾー・2013年5月号 130-130頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑨ー性犯罪における、“変態度”と実際の罪 状との著しい乖離」	2013年6月1日	サイゾー・2013年6月号 134-135頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑩ーオウム死刑囚の証人尋問に見る日本的 な“司法取引”の成立要件」	2013年7月1日	サイゾー・2013年7月号 114-115頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑪ー“DJポリス”賛美に見る治安維持の本当 の難しさ」	2013年7月23日	サイゾー・2013年8月号 116-117頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑫ーストーカー犯罪の背景に見る安易な警 察叩きの誤り」	2013年9月1日	サイゾー・2013年9月号 112-113頁	
「座談会『犯罪現象と住民意識』～犯罪不安 感はどこから来るのか～」	2013年9月1日	犯罪と非行 No.176 18-65頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑬ー山口“限界集落殺人”に見る「典型的な 日本の殺人」	2013年10月1日	サイゾー・2013年10月号 116-117頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑭ー統計データに見る「振り込め詐欺激 増」の真偽」	2013年11月1日	サイゾー・2013年11月号 114-115頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑮ー広島LINE殺人事件に見る少年犯罪の “不気味”な少なさ」	2013年12月1日	サイゾー・2013年12月号 114-115頁	

「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑯―特定秘密保護法法の裏にある情報管理の“本当”のヤバさ」	2014年1月1日	サイゾー・2014年1月号 114-115頁
「法社会学者・河合幹雄の法治国家ニッポン ⑰―取り調べを可視化できない日本だけの“本当の理由”」	2014年2月1日	サイゾー・2014年2月号 120-121頁
「対談:河合幹雄, 佐伯仁志, 金光旭, 太田達也, 坂野剛崇, 川出敏裕「少年非行」」	2014年2月10日	『論究ジュリスト』・2014年冬号 155-172頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑱―連発する行方不明騒動に見る女兒誘拐犯の”ある法則”」	2014年2月18日	『サイゾー』・2014年3月号 106-107頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン ⑲―コスプレ犯農薬混入事件に見る日本社会における「放火」の持つ意味」	2014年3月18日	『サイゾー』・2014年4月号 100-101頁
(その他特記事項)		
「日本テレビ 世界まる見え!特捜部 コメント提供」(2013年6月17日)日本テレビ 世界まる見え!特捜部 6月17日放送「インチキくさいけど面白いやつらSP」 コメント提供		
「法社会学から見たネットでの青少年の犯罪について」(2013年8月24日)『もっとグッドタイムス』 インタビュワー:鎌田真樹子		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会、比較法史学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1999年1月～現在	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2005年5月～現在	日本法社会学会理事	
2005年10月～現在	日本犯罪社会学会常任理事	
2006年4月3日～現在	警察大学校嘱託教員	
2009年4月1日～現在	日本学術会議特任連携委員	
2010年7月7日～現在	EMA (モバイルコンテンツ審査・運用監視機構) 基準策定委員会委員	
2011年5月20日～現在	全国篤志面接委員連盟評議員	
2012年5月1日～2014年3月31日	日本学術振興会 博士課程教育リーディングプログラム委員会専門委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

竹内明世 (たけうち あきよ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：1998(平成10)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
 専門分野：商法、銀行取引法、民法
 非常勤講師：明治学院大学法科大学院(2006年4月～9月)、横浜国立大学経済学部(2013年10月～2014年3月)、横浜国立大学経営学部(2014年4月～9月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の知的関心を高める工夫 課外での模擬裁判劇指導 【模擬裁判劇】	2013年6月29日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「絵画窃盗等被告事件」 (「画家のまなざし 写実絵画の世界」に因んで)
	2013年7月13日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「覚せい剤取締法違反被告事件(再犯)」
	2013年9月28日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「『藪の中』殺人被告事件」 (「桐蔭文学展 教科書に載った文豪 芥川龍之介」に因んで)
	2013年10月26日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「スノーボード衝突事故損害賠償事件」
	2013年11月30日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「行政処分無効・取消請求事件(自然の権利訴訟)」 (「深海散歩にでかけよう!～神秘と驚異に満ちた世界～」に因んで)
	2013年12月14日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「狩猟法違反被告事件」 (「深海散歩にでかけよう!～神秘と驚異に満ちた世界～」に因んで)
	2014年1月11日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「雇用関係確認等請求事件～内定取消なんてありかよ!!～」
	2014年2月15日	模擬裁判劇 法学部棟法廷教室 「絵画贋作損害賠償請求事件」 (「TOIN ART COLLECTION 2014 桐蔭生作品展」に因んで)
	2014年3月8日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「覚せい剤取締法違反被告事件(再犯)」

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
1.商法の意義を見直す研究。 2.課外での模擬裁判劇の実績をまとめ、教育上の効果等を分析する研究。 3.宗教法人と檀徒との法律関係の研究。 4.保険法の研究。特に、保険の意義からの「第三分野」の保険のあり方の研究。			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
フロンティアセミナー 講演「生活と保険」	2013年9月21日	桐蔭学園高等学校・中等教育学校	桐蔭学園高等学校進学棟

○その他
(その他特記事項)
桐蔭横浜大学第14回おもしろ理科教室に「なりきり裁判官」「車椅子ダンス&社交ダンス」「礼儀作法」を出展し、地域の子供たちと保護者の皆さんに、①裁判を身近に感じてもらうこと、②健常者と身体障害者および高齢者との共生社会のあり方を考えてもらうこと、③お箸の使い方から日本の食文化(特に会食)を見つめ直してもらうこと等を目指した。(2013年8月21日)
県立湘南台高等学校とのシチズンシップ教育に関する協定に基づく模擬裁判の評議指導に参加した。(2013年11月)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマソッドを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2)授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	1993年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所、美祿社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる(博物館網走監獄、月形樺戸博物館、旧釧路集治監)。
(3)ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
・複雑系犯罪学 ・ポストモダン犯罪学 ・刑事科学に関するエピステモロジーとパラダイム ・犯罪・刑罰と社会構造の関係 ・社会統制の形態・位相転化 ・国際(組織)犯罪 ・エコ犯罪とグリーン犯罪学					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表明	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
大災害と犯罪	共著	2013年3月	法律文化社	斉藤豊治	135-161頁
Kriminologie - Kriminalpolitik - Strafrecht, Festschrift für Hans-Jürgen Kerner zum 70. Geburtstag / Criminology - Crime Policy - Penal Law, Festschrift for Hans - Jürgen Kerner on the occasion of his 70th birthday.	共著	2013年12月	Mohr Siebeck	Klaus Boers, Thomas Feltes, Jörg Kinzig, Lawrence W. Sherman, Franz Streng, and Gerson Trüg	pp.275-289
(学術論文)					
“Toward a Time-and-Space Theory for Complex Dynamic Green Criminology : Complexity, Contingency and Nonlinearity of Human-Environment Interactions”	単著	2013年12月	桐蔭論叢 第29号	-	pp.81-91

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Is the Minamata Convention on Mercury feasible? Can the global mercury agreement lift health threats from live of millions worldwide?”	Nov. 2013	65th Annual Meeting of American Society of Criminology, Atlanta, Georgia, U.S.A.	-
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
第65回アメリカ犯罪学会参加・研究発表、共同研究の打ち合わせ	2013年11月	アトランタ・マリオット・ホテル(アメリカ合衆国)	
ハンス＝ユルゲン・ケルナー博士古稀祝賀論文集献呈式、祝念シンポジウムほか参加、共同研究打ち合わせ、資料収集	2013年12月	テュービンゲン大学、同大学犯罪学研究所(ドイツ)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、Australian and New Zealand Society of Criminology、Academy of Criminal Justice Sciences. 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オペラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部、明治学院大学法科大学院

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受 GHQ法律スタッフの法思想の分析 近現代日本における司法制度の変遷 戦時・戦後初期の日本における法及び法学のあり方の実証研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「昭和二十五年の訪米使節団——近藤綸二・穂積重遠両氏の手記から——」	単著	2013年5月10日	人権のひろば91号	-	16-19頁
「戦時・戦後初期の日本の法学についての覚書(2・完)——「戦時法」研究の前提として——」	単著	2013年12月25日	『桐蔭法学』20巻1号	-	33-88頁
(書評)杉原泰雄・樋口陽一・森英樹編『長谷川正安先生追悼論集 戦後法学と憲法——歴史・現状・展望』(日本評論社、二〇一二年)	単著	2014年3月30日	『法制史研究』63号	-	218-223頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
戦時法研究の意義と射程——日本近現代法史の観点から	2013年10月19日	第429回法制史学会近畿部会(大阪大学中之島センター)			
法制史と政治史の対話可能性——戦時下の刑法学の動向を素材に	2014年2月16日	第64回内務省研究会(専修大学)			
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金基盤研究(C): 占領管理体制下における「戦後法学」の形成過程に関する法史的観点からの再検討	2013年4月～2016年3月	日本学術振興会			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、日本法社会学会、日本法哲学会、同時代史学会、占領・戦後史研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年12月～現在	占領・戦後史研究会事務局

2011年12月～現在	占領・戦後史研究会代表
2013年4月～現在	法文化学会理事
2014年4月～現在	法文化学会事務局

西本 靖宏 (にしもと やすひろ) 教授



出生年：1968(昭和43)年
 在籍：2003(平成15)年4月～
 最終学歴：明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 Master of Legal Institutions (University of Wisconsin)
 学位論文：会社合併の法的構造と課税理論
 専門分野：租税法、行政法
 前職：大分大学経済学部 助教授
 学内役職等：学務部副部長(2014～)
 留学：University of Wisconsin Law School(97～99年)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
外れ馬券の購入費用が経費として控除できるのが争点となった大阪地裁平成25年5月23日判決と、コーポレート・インバージョン(アメリカに親会社を置く多国籍企業グループが、タックス・ヘイブンに親会社を移す取引)の新たな動向について研究を行い、それぞれ研究会で報告をした。今後、それぞれを論文にまとめて、公表する予定である。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(司会)「国際管轄権と国際租税法」シンポジウム	2013年10月	租税法学会第42回総会(横浜国立大学)	
(口頭発表)「大阪地裁平成25年5月23日判決」	2014年1月	第751回租税判例研究会(法務省)	
(口頭発表)「コーポレート・インバージョンの新動向」	2014年3月	租税法研究会(東京大学)	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2013年7月	財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所	全国市町村国際文化研修所(大津市)
(講師)「固定資産税の情報開示制度と守秘義務」専門実務研修課程「固定資産課税事務(土地)」(全1回)	2013年8月	財団法人全国市町村研修財団市町村職員中央研修所	市町村職員中央研修所(千葉市)
(講師)「所得課税論～所得課税としての住民税/所得税・法人税の仕組み」専門実務研修課程「住民税課税事務①」(全1回)	2013年9月	財団法人全国市町村研修財団市町村職員中央研修所	市町村職員中央研修所(千葉市)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
租税法学会、公法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2009年8月～現在	一般社団法人アコード租税総合研究所研究顧問
2012年10月～現在	租税法学会理事

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 専門分野：政治思想史
 前職：長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等：入試広報副センター長(2013～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)「英語基礎 1」	2009年3月 2010年3月 改訂	英語A-1, A-2の授業で使用するために作成。音声指導の重視と分かりやすい文法指導を特色とする。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
ジェンダー研究分野において「性の商品化」をめぐる議論の歴史と現状について研究し、論説としてまとめた。
○その他
(その他特記事項)
法学研究科修士論文審査

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

ペマ・ギャルポ (ペま・ぎやるぽ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：モンゴル国立大学
 学位：政治学博士
 学位論文：中国とチベットの国際関係
 専門分野：国際政治
 前職：ダライ・ラマ法王アジア・太平洋地区担当初代代表(1980～1990)
 岐阜女子大学 客員教授(1990～1996)
 岐阜女子大学 教授(1996～2004.3)
 拓殖大学海外事情研究所客員教授(1997～)
 拓殖大学海外事情研究所研究員・講師(1982～1997)

学内役職等：国際交流センター長(2014～)
 受賞・表彰：1995年11月 第32回翻訳出版文化賞
 1998年2月 ベストテューター賞
 2009年7月 モンゴル国友好勲章受章

その他：チベット文化研究所名誉所長
 岐阜女子大学名誉教授

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
中国の悪政下に苦しむチベット、ウイグル、南モンゴルなどについて、研究調査を及び啓蒙活動を行った。インド、もんごるに日本の経済界のリーダー達を案内した。また今日と仏教会の有馬会長以下総勢90余名とブータンを訪問。ブータン王国首相以下、新内閣要人と枢密院、ブータン王国仏教会の法主などトップと交流した。これらの内容は本学学生並びに国内の様々な機関に、公園などを通して紹介した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「日本の危機！中国の危うさ！！」	単著	2013年6月27日	あ・うん	-	全185頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「ダライ・ラマ法王の平和主義と中国」	2013年6月3日	ロータリークラブ	横浜シェラトンホテル		
「ブータンの魅力」	2013年6月14日	日本ツーリズムクラブ	日本ツーリズムクラブ会議室		
「日本を取り巻く国際環境と中国」	2013年6月15日	日本政策研究センター	仙台		
「台湾、チベットと尖閣諸島は中国の核心的利益」	2013年6月16日	李登輝友の会	名古屋		
「チベット問題から学ぶ中国の覇権主義」	2013年7月19日	国家生存戦略研究会	銀座 貸会議室		
「アジアとハピネス」	2013年10月11日	日本文化デザインフォーラム	国立晋美術館		
「中印関係の現状とアジアの安全保障」	2013年12月6日	一般社団法人日本安全保障・危機管理学会	衆議院第二議員会館会議室		
「チベット・モンゴル・ウイグルの未来とアジア」	2013年11月16日	新日本協議会田中塾	神奈川県総合薬事保健センター		
「アジア情勢と日本の現状と展望」	2014年2月11日	日本会議長野支部	日本会議長野支部		

「中国の脅威とアジアの自由」	2014年2月23日	アジア自由民主連帯協議会2周年関西記念講演会	堺市民会館
「日本とチベット」	2014年2月23日	大和氏生涯学習センター	大和市民センター
「チベットの現状について」	2014年3月13日	熊本 蓮華院	熊本 蓮華院本堂
「歴史から学ぶ国護り」	2014年3月18日	致知出版渡辺塾	ホテルニューオータニ
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「自尊心と誇りを取り戻せ」	2013年7月15日	「伝統と革新」12号 たちばな出版 P60～67	
「都知事選を誤導する”原発”」	2014年1月27日	世界日報 ビューポイント	
(その他特記事項)			
2013年6月1日 GNH学会 挨拶			
2013年6月2日 日本会議パネラー出席 砂防会館			
2013年6月17日 世界政経調査会 ランチ報告会			
2013年6月21日 タイ・ラマ法王財団幹部と会食 外国特派員協会			
2013年6月25日 タシ塾 キャリアコンサルティング会議室			
2013年6月28日 南アジア研究会 挨拶			
2013年7月1日 衆議員議員竹本よしかず議員表敬訪問			
2013年7月5日 FECモンゴル訪問団研修会 FEC会議室			
2013年7月5日 国際神道政治連盟 会食会			
2013年7月8日 日本モンゴル経済文化研究会 出席 ホテルニューオータニ			
2013年7月18日 さくらCH出演			
2013年7月27日～8月4日 FECモンゴル訪問団 顧問としてモンゴル訪問			
2013年8月18日 孝道教団夏祭り ゲスト出席			
2013年10月20日 第34回定住難民のつどい 親睦会 新宿文化センター			
2013年11月21日 創刊200号「月刊日本」叱咤激励する会」出席グランドアーク半蔵門			
2014年2月25日 世界連邦仏教徒懇話会新年会 出席 高輪プリンスホテル			
2014年2月26日 アジア太平洋地区日本国大使のつどい 出席 飯倉迎賓館			
2014年2月27日 ブータン王国議員団歓迎会 出席			
2014年3月4日 モンゴル国議員訪問団歓迎会 出席 ホテルニューオータニ			
2014年3月11日 東日本大震災祈りの会 出席 憲政記念館			
2014年3月14日 モンゴル大使スピーチ「モンゴルの政治と経済」モデレーターとして出席 私学会館			
2014年3月18日 前三菱商事会長と昼食			
2014年3月20日 南アジア研究会 勉強会 出席 国際文化会館			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
アジア政経学会、国際政治学会、南アジア学会チベット学会、国際コミュニケーション学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2001年1月～	NPO法人チベット教育福祉基金理事長
1999年4月～	(社)国際青年文化交流協会 理事
2005年5月～	(財)OISCA評議員

1994年～

NPO法人日印親善協会(JIGA)理事 Japan India Goodwill Association

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出 生 年 : 1958(昭和33)年
在 籍 : 1997(平成9)年4月～
最 終 学 歴 : 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
学 位 : 法学博士
学 位 論 文 : J. S. ミルの自由主義思想
専 門 分 野 : 欧州政治思想史
前 職 : 立教大学文学部非常勤講師
学 内 役 職 等 : 学科長、学務部副部長 (2012～)
留 学 : ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

1. 『法の基層と展開』(法学部20周年記念書籍)第13講「政治と法の空間」執筆
ここでは政治が多様な価値選択が保わる紛争であるということを前提に、実践での現場の判断のあり方について考察している。
具体的事例として、沖縄戦と2011年エジプト革命をあげ検討した。
2. Art, scienceの概念史について・・・前年は19世紀のart, scienceの概念史を検討したが、この過程で、これをさらに遡って検討する必要に迫られ、インクラテス、ソクラテスの思想の比較検討に着手した。この中で、知識と実践の関係性について示唆を得る事が出来た。
3. 「修養」「教養」の概念史について

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本政治学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について—chemical mediatorを中心として—(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手,国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員,国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：生涯学習センター長 (2014～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 体育実技(担当種目:バドミントン) 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2) 健康の科学 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1) 健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。

(2)健康科学（改訂版）道和書院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (3)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的实践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。
(4)その他、作成した教材は多数		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)内部疾患と処方(免疫を中心として)	2005年4月～(毎年1回)	国立身体障害者リハビリテーションセンター

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科研費「小規模・高齢コミュニティが持つ「とらわれ」:健康行動を獲得するための「しかけ」	2011年4月～2014年3月	科研費基盤研究(C)研究

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校保健学会、日本公衆衛生学会、日本発育発達学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本肥満学会、日本陸上競技学会、日本ゴルフ学会

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出 生 年 : 1961(昭和36)年
 在 籍 : 2003(平成15)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
 専 門 分 野 : 憲法
 前 職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
 留 学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『新・スタンダード憲法(第4版)』	共著	2013年4月	尚学社	古野豊秋／畑尻剛	32-43頁 297頁、299頁、329頁
『ドイツの憲法裁判(第2版)-連邦憲法裁判所の組織・手続・権限』	共著	2013年4月	中央大学出版部	畑尻剛／工藤達朗	399-412頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～	ドイツ憲法判例研究会運営委員

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出 生 年 : 1956(昭和31)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科
 コース修了
 学 位 : 教育学修士(筑波大学)
 専 門 分 野 : 教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前 職 : 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部
 総括研究官
 資 格 : 中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級
 普通免許状(社会)
 非 常 勤 講 師 : 東京学芸大学、静岡大学人文学部
 受 賞 ・ 表 彰 : 日本教育研究連合会表彰(2010年12月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
東京学芸大学「学生による授業アンケート」	2000年4月～現在	東京学芸大学FD委員会が、毎年前期・後期各期に学生を対象として行う授業評価アンケート。結果は教員に還元され、授業改善のために使用される。大学により指定された「授業の分かりやすさ」「シラバスとの整合性」「宿題等の指示の確かさ」など、約15項目の授業に関するアンケートである。毎年、すべての項目が5段階評価の3以上であるとともに、平均点以上の結果であった。
桐蔭横浜大学授業アンケート	2009年4月～現在	2008年度集中講義「社会科概論」における授業評価を踏まえ、学生の基礎学力、理解能力等を考慮した具体的な教材等を活用した授業を実施している。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
「改訂版政治・経済」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「政治・経済」大項目(3)の課題追究学習の部分を担当し、政治と経済の理論的な学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、大学受験に向けて自学自習にも耐えうるような文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月より～平成19年3月の改訂版である。
「改訂版現代社会」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、大学受験に向けて自学自習にも耐えうるような文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月～平成19年3月の改訂版である。
「改訂版新現代社会」(第一学習社)	2007年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、主に大学に進学しない生徒のために基礎・基本的な内容に厳選してわかりやすい文章を執筆するように心掛けた。平成15年4月～平成19年3月の改訂版である。

「改訂版新政治・経済」(第一学習社)	2008年4月～	教科書作成の企画から、執筆、図版作成、編集、さらには指導書・評価問題集等の作成活動に参加した。特に科目「現代社会」大項目(1)の課題追究学習の部分を担当し、中学校まで真社会科学習をふまえて、主体的に課題追究学習ができるように配慮した。執筆に当たっては、教科書を利用する生徒の立場に立って、図表・写真等を有効に配置するとともに、主に大学に進学しない生徒のために基礎・基本的な内容に厳選してわかりやすい文章を執筆するように心掛けた。 平成16年4月～平成20年3月の改訂版である。
日本公民教育学会編『テキストブック中学校・高等学校公民教育』第一学習社	2004年3月～	日本公民教育学会出版委員会事務局として、テキストブックの企画・編集作業等を行った。この事典は、大学学部における公民科教育法等において活用されることを目的としている。 東京学芸大学「中等社会科・公民科教育法Ⅰ」「中等社会科・公民科教育法Ⅱ」、静岡大学「社会科教育法Ⅳ」において教科書として使用している。
日本公民教育学会編『公民教育事典』第一学習社	2009年6月～	日本公民教育学会出版委員会事務局として、事典の企画・編集作業等を行った。この事典は、大学学部における公民科教育法等において活用されることを目的としている。東京学芸大学「中等社会科・公民科教育法Ⅰ」「中等社会科・公民科教育法Ⅱ」、静岡大学「社会科教育法Ⅳ」において教科書として使用している。
「小学生の社会」(日本文教出版)	2011年4月～	
「高等学校 現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 新現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 政治・経済」(第一学習社)	2013年4月より供給	
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「授業力」向上と校内研修	2013年7月22日	岡山県総合教育センター 15年経験者研修講座(小中高特)授業改善推進リーダー力量向上研修
「授業力」向上と校内研修	2013年7月29日	岡山県総合教育センター 15年経験者研修講座(小中高特)授業改善推進リーダー力量向上研修
新しい中学校社会公民的分野・高等学校公民—対立と合意・効率と公正、幸福・正義・公正を中心に—	2013年8月5日	神奈川県立総合教育センター 自己研鑽講座 「中学校社会公民的分野・高等学校公民」研修講座

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
『テキストブック公民教育』 「公民教育と道徳・総合的な学習の時間・特別活動との関連」	共著	2013年6月	第一学習社	日本公民教育学会	42-45頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名	
自由研究発表「小学生の税金についての認識の現状と潜在的認識能力に関する実証的研究(1)—有権者教育プログラム開発のための基礎調査として—」	2013年6月22日	第24回 日本公民教育学会全国研究大会(岡山大学)		渡部竜也他	
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
社会系教科における発達段階をふまえた小中高一貫有権者教育プログラムの開発研究	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究B 研究分担者			

社会科教科書改善のための調査研究 ー教科書と現実の社会を近づけるためにー	2011年4月～2014年3月	財団法人教科書研究センター 平成23～25年度教科書等調査研究委託事業
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
毎年数回主に調査のために外国出張		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、日本国際理解教育学会、日本生活科総合的学習教育学会、日本NIE学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1998年4月～現在	日本社会科教育学会幹事	
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員	
2002年6月～現在	全国高等学校NIE研究会顧問	
2005年3月～現在	日本NIE学会理事・常任理事	
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事	
2005年11月～現在	中等社会科教育学会副会長	
2012年4月～現在	日本公民教育学会副会長	
2012年4月～現在	日本NIE学会企画委員長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
品川区教育研究会社会科部会年間講師	2011年4月～2016年3月	品川区教育委員会
「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究(その2)」社会科部会部会長	2013～2017年度	公益財団法人教科書研究センター
公益財団法人教科書研究センター 特別研究員	2013年度	公益財団法人教科書研究センター
金融経済教育を推進する研究会委員	2013年4月～現在	日本証券業協会 金融・証券教育支援センター

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
 学位：博士(法学)
 学位論文：芸術と法－英米法を中心とする学際的研究－
 専門分野：英米法、民法
 前職：女子美術大学芸術学部助教授
 留学：ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員(アメリカ合衆国)
 非常勤講師：国立音楽大学音楽学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目における受講生の理解を深め、知識を定着させるための授業の実践		講義科目の授業において、双方向型の授業を展開させ、受講生の理解度を深めるため、毎時間ごとに授業内容を確認する小テストを実施し、次の授業時に解説をすることで知識を定着させるとともに、授業内容に連続性を持たせる工夫を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
『芸術法の基礎』	2013年4月20日	新たな法学研究領域としての芸術法に関するもので、直接には芸術領域の大学生及びその専門家を読者対象とするが、同時に法学教育の中を広げることを目指している。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
『芸術法の基礎』の出版に向けた最終作業を行うと共に、実際に授業でテキストとして同書を使用することにより研究課題の抽出に努めるとともに、この分野の研究として新たな視点を法学部教育に取り入れる試みを開拓すべく、芸術的素材を中心とした視覚的法学教育方法の可能性を検討した。比較契約法の領域においては、イギリス法における黙示的条項を中心にして、契約解釈のあり方に関する新たな展開について研究を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『芸術法の基礎』	単著	2013年4月20日	尚学社	-	総頁数254頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会

相良 憲昭 (さがら のりあき) 特任教授



出生年：1943(昭和18)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京大学文学部仏語仏文学科卒業
 学位：文学士
 専門分野：国際理解教育、文化論
 前職：京都ノートルダム女子大学学長
 留学：フランス国パリ大学文学部(1967.9～1968.6)
 資格：国家公務員試験上級職(行政職)合格
 非常勤講師：京都ノートルダム女子大学大学院人間文化研究科

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「エレンア・ルーズベルト」	共著	2013年6月	集英社	(解説・監修)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本国際理解教育学会、日本比較教育学会、日本フランス教育学会、世界法学会、日本平和学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年10月～現在	(財)国際連合大学協力会評議員
2005年4月～現在	(財)日本高等教育評価機構評価員
2011年5月～現在	(NPO)目黒ユネスコ協会会長
2013年7月～現在	(公財)高等教育評価機構理事

秋田 知子 (あきた ともこ) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
 専門分野：民事法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(2)民事紛争処理法	2007年4月1日～2012年	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(3)消費者と法	2013年	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)英語A-1、A-2で使用した教材	2009年4月1日～	初歩的な英文法テキストを大学生向けに作成した。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
本学法学部20周年記念の論集である「法の基層と展開—法学部教育の可能性」において、「弁護士の役割の変化と拡大」というテーマで原稿を作成した。これは今まで研究してきたアメリカの弁護士倫理の成果をまとめたものである。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「よくわかる民事訴訟法」	共著	2013年10月15日	ミネルヴァ書房	編著者:小島武司 共著者:山城崇夫、小林学、猪股孝史、河村基予、木川裕一郎、清水宏、田中誠人、豊田博昭、萩澤達彦、秦公正、平田勇人	12-13頁、16頁-17頁、104頁-107頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

麻妻和人 (あさづま かずひと) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
 学位：法学修士
 学位論文：捜査の規律に関する一考察 -盗聴-
 専門分野：刑事訴訟法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
2012年度に引き続き、近時の刑事司法改革に伴う新たな制度と刑事裁判の基本構造との関係について検討を行った。刑事裁判の構造に関連する原理的な分析を行った文献にあたった。中央大学刑事判例研究会への参加及び報告(最(三)決平成24年9月18日の研究報告)。比較法研究所米国刑事法研究会への参加および報告(Chaidez v. United States, 81 U.S.L.W. 4112 (2013) についての研究報告)。刑法学会大会、被害者学会大会参加。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(研究報告)最(三)決平成24年9月18日刑事訴訟法448条2項による刑の執行停止決定に対しては、刑事訴訟法419条による抗告をすることができるとし、本件刑の執行停止決定に対する検察官からの抗告を適法であるとした原決定は正当であるとして、本件抗告を棄却した事例についての研究報告	2013年6月15日	中央大学刑事判例研究会(中央大学市ヶ谷校舎)	
(研究報告) Chaidez v. United States, 81 U.S.L.W. 4112 (2013)	2013年9月14日	米国刑事法研究会(市ヶ谷田町キャンパス)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 准教授



出 生 年 : 1973(昭和48)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単
 位取得退学
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : フランス労働法上の非典型協定
 専 門 分 野 : 労働法
 前 職 : 東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師
 学 内 役 職 等 : キャリア情報センター長(2014～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
『社会保障法第4版』(有斐閣、2009)、レジュメ(社会保障法)	2009年～	
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、2011)、レジュメ(労働法)	2011年～	
『アクチュアル労働法』(法律文化社、2014)、レジュメ(労働法)	2014年～	

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
企業における従業員代表制度の研究を継続するとともに、東京都および神奈川県との労働関係行政に協力し、労働法令の啓発・周知活動をおこなった。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『改訂4判 就業規則ハンドブック』	共著	2013年11月22日	経営書院	産労総合研究所 編	12-149頁
(総説・論説)					
「契約からの離脱の自由と規制—解雇規制の正当化根拠」	単著	2013年11月22日	『法の基層と展開』(信山社)	桐蔭法学研究会	69-86頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「労働法とは/労使のルール」、「働くとき・雇うときのルールⅠ、Ⅱ」、「労働条件の決まりあれこれⅠ、Ⅱ」	2013年5月20日～28日	労働法基礎セミナーin八王子	東京都八王子労政会館		
「雇用関係法(労働組合・団体交渉・労働協約)、雇用関係法(労働争議・不当労働行為・労働委員会)」	2013年10月8日～11日	多摩労働カレッジ基礎講座(東京都労働相談情報センター)	東京都国分寺労政会館		
「多摩労働カレッジ専門講座」	2013年12月5日	雇用関係法(労働組合・不当労働行為・団体交渉・労働協約)	東京都国分寺労政会館		
「改正労働契約法・改正高年齢者雇用安定法による労務管理上の留意点」	2013年12月12日	平成25年度労務管理セミナー	藤沢産業センター		
○その他					
(その他特記事項)					
「東京都『どうなる?こんなトラブル!』平成25年度版監修」(2013年10月31日)					

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本労働法学会、日独労働法協会	
2007年5月～2009年4月	日本労働法学会学会誌編集委員

韓 寧 (かん ねい) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学博士
 学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討―日・米法との比較の視点から
 専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
 前職：北京法務局
 留学：群馬大学社会情報学研究所修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程
 資格：中国弁護士

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
2013年度、台湾の調停制度について研究を取り組んでいた。学習院大学でこれに関する研究成果について口頭発表を行いました。また、成年後見制度に関する日中の比較についても研究に取り組んでいた。「国際シンポジウム:高齢社会における法的諸問題とその解決手段」で個別報告に対するコメントをして、日中両国成年後見制度の違いなどについて自分の意見を述べた。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
個別報告に対するコメント	2013年11月16日	「国際シンポジウム:高齢社会における法的諸問題とその解決手段」(学習院大学/東京)	
「台湾の調停制度について」	2013年12月4日	第21回高齢者社会ADR研究会(学習院大学/東京)	
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
東アジア成年後見制度シンポジウムに参加すること	2013年12月25日～2013年29日	台湾東呉大学	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員

小島 奈津子 (こじま なつこ) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院社会科学研究科法律学専攻満期中退
 学位：法学修士
 専門分野：民法

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ミニテスト(授業内)の実施	民法(必修)において	出席を促し、学習を促進するために、授業内テストを期末試験のほかに行っている。学習させるためなので、予告を前回授業でするようにしている。
契約法入門の配布	民法Ⅱにおいて	テスト前の勉強に役立てるため、学生に配布した。
2.作成した教科書、教材、参考書		
契約法入門	2013年5月に学内印刷	2013年の講義のために作成、13年度後期の講義で配布

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
間接的出捐など三者間の出捐について 二当事者に加えて第三者が入ってくる場合の出捐の所在、有償性の判定について研究し、研究会報告を行い、桐蔭法学に寄稿した。完結部分には、寄付のほか、保証と複数契約の問題に触れる予定である。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
研究会報告「贈与者の悔返権と事情変更の原則」	2013年11月14日	ドイツ民法研究会 (於学習院大学)	
研究会報告「忘恩行為について」	2013年12月21日	民法判例研究会(於中央大学)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
私法学会

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
 専門分野：刑法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 非常勤講師：神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
刑法 I・II	2007年～現在	講義用レジュメの作成および授業での活用 双方向授業の実践

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
1.故意と錯誤に関する研究として、「責任無能力者の故意」の研究に取り組んだ。その他として、売春防止法の周旋罪における「周旋」の意義が問題となった判例の評釈を、また、ドイツ刑事訴訟法の翻訳にも取り組んだ。 2.引き続き、故意と錯誤およびこれに関連する問題点についても研究し、さらに発展させていきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「遊客が周旋行為の介在を認識していなくても売春防止法6条1項の周旋罪が成立するとされた事例」	単著	2013年11月1日	判例時報2196号(判例評論657号)		165-170頁
「ロクシン/アッヘンバツハ『君の知識を検討せよー刑事訴訟法(16版)ー』[2]」	単著	2013年12月25日	桐蔭法学 第20巻第1号		135-174頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「責任無能力者の故意」	2013年5月	桐蔭法学研究会			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

土屋 信雄 (つちや のぶお) 准教授



出生年 : 1950(昭和25)年
在籍 : 1990(平成2)年4月～
最終学歴 : 東京大学大学院博士課程
学位 : 理学博士
学位論文 : 「Grow and Depth of Leaves」(博士論文)
専門分野 : 位相幾何学
前職 : 東京工業大学理学部助手

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

葉層構造論について研究を進めた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本数学会

茂木洋平 (もぎ ようへい) 専任講師



出生年：1981年10月
 在籍：2012年4月～
 最終学歴：東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：Affirmative Actionの正当化法理 ～アメリカの判例と学説を中心に～
 専門分野：憲法
 前職：熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科助教
 非常勤講師：横浜市立大学(2013年4月～)
 受賞・表彰：東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門(2010.12)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
博士論文の出版に向けた作業を行った。その過程で、いくつかの論文を公刊した。〔「Affirmative Action正当化のコンセンサス」法学77巻6号(2014年1月)〕、「性別に基づくAffirmative Actionの正当性-Johnson判決の考察を通じて」桐蔭法学20巻1号(2013年12月)、「法の下での平等とAffirmative Action」『法の基層と展開』(信山社)(2014年3月))					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
法の基層と展開-法学部教育の可能性「法の下での平等とAffirmative Action」	共著	2014年3月	信山社	桐蔭法学研究会編	151-168頁
(学術論文)					
「多様性に基づくAffirmative Actionの正当性(3・完)-多様性の価値の意味-」	単著	2013年4月	法学77巻1号	-	35-73頁
「性別に基づくAffirmative Actionの正当性-Johnson判決の考察を通じて」	単著	2013年12月	桐蔭法学20巻1号	-	1-32頁
「Affirmative Action正当化のコンセンサス」	単著	2014年1月	法学77巻6号	-	192-214頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会 憲法理論研究会 全国憲法研究会 東北大学公法判例研究会 九州公法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年5月～2014年5月	憲法理論研究会事務局員(会計担当)

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2001(平成13)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位：法学修士
学位論文：若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的前提
専門分野：ヨーロッパ近代法史
留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2004年7月～2005年3月)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

19世紀ドイツにおける少年問題を研究の中心に置いている。労働者階級の誕生とその階級の子弟の行動が社会的に問題視されたことに関連して、社会情勢、少年への教育そして社会が少年問題についてどのように対応し、法システムを作り上げたのかについて関心を持ち研究を続けている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日独法学会

賤 機 徳 彦 (しずはた のりひこ) 助教

出 生 年 : 1967(昭和42)年
在 籍 : 2011(平成23)年4月～
最 終 学 歴 : 筑波大学体育専門学群
前 職 : 桐蔭学園高等学校教員(保健体育)
資 格 : 高校1種保健体育教員免許
日本サッカー協会公認S級ライセンス

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
<ul style="list-style-type: none">・人間社会におけるスポーツの必要性について・ワールドワイドなスポーツであるサッカーが社会に与える影響について・人をやる気にさせるコーチング法について 人間社会にとってスポーツ活動はなくてはならない重要なものと位置づけ、学内もしくは地域社会にスポーツ普及活動が推進されるように取り組みたい。また、日本でサッカーのすそ野を広げるために、サッカーの持つ魅力を研究し普及させることやコーチング技術を高める研究を進めていきたい。本年度はブラジルワールドカップが開催されたため、社会の関心は高かった。

III 学会等および社会における主な活動

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
日本サッカー協会主催モデル地区トレセン活動	2013年 月1回(第3月曜日)	日本サッカー協会、青葉区サッカー協会

(2014年度 新任教員)

西 謙 二 (にし けんじ) 教授



出生年：1948(昭和23)年
在籍：2014(平成26)年4月～
最終学歴：一橋大学法学部
専門分野：民法学、民事訴訟学、倒産法学
前職：福岡高等裁判所判事
留学：シュツットガルト地方裁判所等・ドイツ連邦共和国(1983年11月)
資格：弁護士

II 研究活動

○著書・論文等					
(総説・論説)					
「調査官判例解説」(平成4年7月17日第二小法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	305頁
「調査官判例解説」(平成4年12月5日第三法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	552頁
「調査官判例解説」(平成5年1月19日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	1頁
「調査官判例解説」(平成5年3月16日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	433頁
「調査官判例解説」(平成6年2月8日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	163頁
「調査官判例解説」(平成6年3月22日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	264頁
「調査官判例解説」(平成6年4月26日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	334頁
「調査官判例解説」(平成6年10月25日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	521頁
「調査官判例解説」(平成7年2月21日第三小法廷判決)	単著	1995年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	85頁
(学術論文)					
「民事再生手続における留置権及び非典型担保の扱いについて」	単著	2008年3月	民事訴訟雑誌54号	-	57頁以下
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
ミニ・シンポジウム「弁論兼和解」	1990年	民事訴訟法学会(香川大学)	上原敏夫、小山稔、西謙二		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1990年4月～1995年3月	最高裁判所調査官(民事系)
2002年4月～2003年3月	東京高等裁判所判事(民事系)
2003年4月～2008年3月	東京地方裁判所判事(民事系)
2010年1月～2013年6月	福岡高等裁判所判事(民事系)

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1990(平成2)年3月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程
 学位：理学博士、学術修士(環境)
 学位論文：Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野：有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職：通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 資格：(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 受賞・表彰：松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返して学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,IIにおいて、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレインストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかだいについての小論文をまとめるための演習としてブレインストーミングを実施した地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁子どもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
日本科学技術振興機構地域科学技術理解増進人材の活動推進・人材育成事業(文部科学省委託事業)	2003年～現在	助成金を受け、こどもわくわく自然教室、「これが身近な自然だ」、「昆虫飼育教室」、「スライムでエネルギー」「色をわける」などを千葉県、東京都、神奈川県の小学校、児童クラブ、保育園、児童館で実施した。2010年度で見学者を除いて、12620人の教室参加者となった。
(7) 日本化学会 化学教育協議会夢化学小委員会副委員長、実験体験TG委員長	2005、2006、2007、2008、2009、2010、2011年	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。2002年～2010年までに本学の学生の(6)の教室のTAとしての活動に日本化学会会長からの感謝状が計250枚授与されている。
(8) 公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012、2013、2014年	(7)の活動を継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくろう」などの資料を作成し、配布した。
(出版教科書・化学分野) 絵解きでわかる「基礎化学」 オーム社	2007年3月発行	大学1,2年向けの教科書を執筆し、必要箇所をコピーして資料として配布。
(出版教科書、教材・環境教育分野) 理科・化学からの提案「総合的な学習の時間」に向けてパート2 日本化学会	2001年 2月発行	日本化学会化学教育協議会 分担執筆で「安全で効果的な実施のための虎の巻」を執筆した。
わくわく化学マジックワールド (DVD) 日本化学会	2001年 8月発行	製作委員として化学普及用デジタルコンテンツを作った。内容の1つも責任担当した。
生命医工学科用の有機化学基礎、有機化学I, I I, 高分子化学(生体高分子)	2010年～現在	臨床検査技師を目指す学生や生命科学志向の学生向けの内容に全面改定した教科書を作成して配布している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012, 2013, 2014 年	本学の学生を出前実験教室のTAとしての活動に参加させて、その活動に対する日本化学会会長からの感謝状の授与が継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
ポリアニリンを用いる活性酸素の発生とその応用 活性酸素発生装置を用いる生体内での反応のモデル反応系の構築 植物由来生理活性物質の活性酸素との反応挙動 植物中の生理活性物質の α -グルコシダーゼ阻害活性の評価			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(国際学会発表) Preparation of a continuous polyaniline active oxygen-generating apparatus and studies to improve its efficiency.	2013年10月26日	Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama	Takuya KOARAI, Yuichi OGAWA, Kouhei NITTA, and Kiyoshi SAITO.
(国内学会発表) ポリアニリン電極を用いた活性酸素の連続発生とその効率化 VIII	2013年10月21日	日本化学会秋季事業第3回 CSJ 化学フェスタ、東京	小荒井拓也・小川勇一・新田功平・齋藤 潔
ポリアニリン電極を用いた活性酸素の連続発生とその効率化 VIII	2013年11月28日	高分子学会第21回ポリマー材料フォーラム、東京	小荒井拓也・小川勇一・齋藤 潔

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
わくわく実験教室	2011年、2012年、2013年	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会の4団体で構成)
基盤研究(B)「モンゴル産フライアッシュの有効利用に関する総合的調査」	2013年、2014年、2015年度	科学研究費補助金、文部科学省、連携研究者
(その他特記事項)		
おもしろ理科教室のブース(参加型実験)を担当(2013年、2014年)		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2011年4月～	公益社団法人日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
科学技術館 夏休み子ども化学実験ショー、わくわくじっけんきょうしつ きみもじっけんかがくしゃ！たべものなかのいろをしらべよう!!	2013年8月3,4日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
国立科学博物館 夏休みサイエンススクエア、わくわくじっけんきょうしつ きみもじっけんかがくしゃ！たべものなかのいろをしらべよう!!	2013年8月13,14,15日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
荒川区東日暮里ふれあい館、荒川区西日暮里ふれあい館、わくわく実験教室、きみもじっけんかがくしゃ！たべものなかのいろをしらべよう!!	2013年8月19日、荒川区	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
桐蔭横浜大学 おもしろ理科教室、きみもじっけんかがくしゃ！たべものなかのいろをしらべよう!!	2013年8月21日、	桐蔭横浜大学
道灌山幼稚園 わくわく実験教室、スライムのなぞー塩とスライムー	2013年8月31日、	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
町田市立南成瀬小学校 わくわく実験教室、きみもじっけんかがくしゃ！たべものなかのいろをしらべよう!!	2013年9月3,4日、	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
江戸川区立小松川小学校 わくわく実験教室、きみもじっけんかがくしゃ！たべものなかのいろをしらべよう!!	2013年10月1日、	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野：分子生物学、免疫工学
 前職：順天堂大学医学部助教授
 学内役職等：工学研究科長、医用工学専攻長(2014～)
 留学：Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 非常勤講師：順天堂大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2)演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (総説・論説)	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「自己免疫疾患におけるSLAMファミリー受容体の関与」	共著	2013年9月1日	臨床免疫60(3)	林青順, 西川桂子, 鶴井博理, 広瀬幸子, 大辻希樹, 西村裕之	258-262頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Peripheral tolerance of antigen-specific Th cell induced with polyethylene glycol-conjugate of protein antigen”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama	Obata, M., Fujii, T., Ohtsujii, M., Kodera, Y. and Nishimura, H.		

“Blockade of TNF α , but not IL-17, ameliorates spontaneously occurring autoimmune arthritis in Fc γ RIIB-deficient mice.”	2013年12月11日	第42回 日本免疫学会総会・ 学術集会記録(幕張)	OKAZAKI Hideki, LIN Qingshun, NISHIKAWA Keiko, TSURUI Hiromichi, OHTSUJI Mareki, NISHIMURA Hiroyuki , SHIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko
“B cell specific deficiency of Fc γ RIIB results in high levels of autoantibodies without severe lupus nephritis in C57BL/6.Yaa mice.”	2013年12月11日	第42回 日本免疫学会総会・ 学術集会記録(幕張)	LIN Qingshun, NISHIKAWA Keiko, TSURUI Hiromichi, OKAZAKI Hideki, OHTSUJI Mareki, NISHIMURA Hiroyuki , AMANO Hirofumi, SHIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko
“Peripheral tolerance of antigen-specific Th cells induced with polyethylene glycol-conjugate of protein antigen.”	2013年12月11日	第42回 日本免疫学会総会・ 学術集会記録(幕張)	OBATA Masaomi, OHTSUJI Mareki, HIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko, NISHIMURA Hiroyuki

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野：生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職：東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等：医用工学部長、先端医用工学センター長(2014～)
 留学：米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格：高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 受賞・表彰：手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高血圧研究会奨励賞(1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
骨形成を制御する因子の探索 遺伝子KOマウスの表現型の解析					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
"Apigenin Inhibits Osteoblastogenesis and Osteoclastogenesis and Prevents Bone Loss in Ovariectomized Mice"	共著	2014年2月6日	Cytotechnology・Published online	Tadashi GOTO, Keitaro HAGIWARA, Nobuaki SHIRAI, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA	DOI 10.1007/s10616-014-9694-3
"Zinc-finger protein ZFP318 is essential for expression of IgD, the alternatively spliced Igh product made by mature B lymphocytes"	共著	2014年3月10日	Proc. Natl. Acad. Sci. USA・Published・111(12)	Anselm Enders, Alanna Short, Lisa A. Miosge, Hannes Bergmann, Yovina Sontani, Edward M. Bertram, Belinda Whittle, Bhavani Balakishnan, Kaoru Yoshida, Geoff Sjollem, Matthew A. Field, T. Daniel Andrews, Hiromi Hagiwara , Christopher C. Goodnow	pp.4513-4518

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「脂肪細胞の分化制御におけるフラボノールとフラバノンの構造相関」	2013年11月23日	第17回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 千里ライフサイエンスセンター	萩原啓実, 飯塚俊介, 吉田薫
“Apigenin promotes bone remodeling in mouse”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013, Toin University of Yokohama	Keitaro HAGIWARA, Tadasu GOTO, Nobuaki SHIRAI, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Expression Analysis of Aquaporin 9 in Human Epidermis and Cultured Keratinocytes”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013, Toin University of Yokohama	Yoshinori SUGIYAMA, Kohei YAMAZAKI, Ayumi KUSAKA-KIKUSHIMA, Hiromi HAGIWARA
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
トリクロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2012年4月～2013年4月	株式会社ネモト・サイエンス	
軟骨組織におけるヒアルロン酸代謝に関する研究	2013年7月～2013年12月	株式会社カネボウ化粧品	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
WCO-IOF-ESCEO Seville 2014	2014年3月30日～4月6日	Seville, Spain	
(その他特記事項)			
Cytotechnology誌のEditorial Boardに選ばれた(2013年3月)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会、日本分子生物学会、日本骨代謝学会、米国骨代謝学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本血管生物医学会、日本環境ホルモン学会、日本動物細胞工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事, 評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森永茂生 (もりなが しげお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院博士課程
 学位：理学博士
 学位論文：A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation-Gas Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野：環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等：学務部副部長(2014～)
 受賞・表彰：とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト	2010年～2014年4月	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト	2010年～2013年9月	臨床工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
植物を利用した重金属等の土壌汚染物質除去(ファイトレメディエーション)に関するデータをもとに、まとめる作業を行った。その結果の一部は、桐蔭論叢に投稿した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「ヨモギ (<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>) を用いた六価クロムならびに鉛の模擬汚染土壌における重金属の吸収・蓄積とそれに伴う生育反応への影響」	共著	2013年6月	桐蔭論叢 第28号	横山和憲, 栗山紘太, 本多志行, 涌井史郎, 土路生修三, 横塚享, 内藤敏, 浅井俊光, 飯島健太郎, 森永茂生	pp.243-248
「アカザ (<i>Chenopodium album</i> var. <i>centrorubrum</i>) を用いた六価クロムならびに鉛の模擬汚染土壌における重金属の吸収・蓄積とそれに伴う生育反応への影響」	共著	2014年	桐蔭論叢 第30号	横山和憲, 涌井史郎, 土路生修三, 横塚享, 内藤敏, 浅井俊光, 飯島健太郎, 森永茂生	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会、ソノケミストリー研究会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2009(平成21)年1月～
最終学歴：東京理科大学 理学部II部 物理学科
専門分野：臨床検査学、病院管理概論(管理運営)
前職：済生会横浜市東部病院
資格：臨床検査技師
受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
イチゴやリンゴに多く含まれるポリフェノール(Fisetin)の脂肪代謝および糖代謝における効果の検討、in vitro および in vivo における実験			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「多様性尊厳社会を目指して」	2013年10月7日	第11回男女共同参画学協会 連絡会(東洋大学 白山キャンパス)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会

飯島 健太郎 (いじま けんたろう) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：東京農業大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程修了
 学位：農学博士、造園学修士
 学位論文：緑化用植物としてのSedumの生育特性の解明に関する研究
 専門分野：造園学、都市緑化、環境植栽学
 前職：東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手
 学内役職等：学生部長 (2014～)
 資格：博物館学芸員資格
 受賞・表彰：大日本農会賞(1992年3月)
 日本造園学会賞・研究奨励賞(2003年5月)
 道路緑化保全協会菊池奨励賞(2008年5月)
 日本造園学会賞(研究論文部門)(2011年5月)
 日本アロマ環境協会賞(2013年1月)
 造園大賞(2014年5月)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
主として緑化環境分野の研究を通じて社会発信することを目指し、受託研究、寄付金研究を誘致して研究活動を進めた。内容は、屋上・壁面緑化による暑熱環境緩和効果(継続研究)、仮設住宅におけるグリーンカーテンによる冷涼効果(継続研究)、同グリーンカーテンによる住民の評価、緑化用植物の品種改良と遺伝子検査、灌水リモート管理システムの研究である。成果は学会発表にて行い、また共同研究先のCSR活動報告には本学との共同研究であることと共にデータの一部が紹介されている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「芝生グラウンドの効用/利点の多い天然芝」	単著	2014年1月14日	静岡県グリーンバンク	-	全4頁
(総説・論説)					
「鉄道軌道敷緑化技術の現状と課題」	単著	2013年6月	桐蔭論叢28号	-	79-88頁
「人の健康に役立つ緑の知覚」	単著	2013年6月	桐蔭論叢28号	-	89-98頁
「ヨモギ(<i>Artemisia indica</i> Var. <i>maximowiczii</i>)を用いた六価クロムならびに鉛の模擬汚染土壌における重金属の吸収・蓄積とそれに伴う生育反応への影響」	共著	2013年6月	桐蔭論叢28号	横山和憲, 栗山紘太, 本多志行, 涌井史郎, 土路生修三, 横塚享, 内藤敏, 浅井俊光, 飯島健太郎 , 森永茂生	243-248頁
「グラウンドサーフェイスによるスポーツ傷害と人工芝・天然芝」	単著	2013年10月20日	芝草研究42(1)	-	1-8頁
「心の健康と緑の役割、そして芝生地」	単著	2014年3月20日	芝草研究42(2)	-	115-125頁
(学術論文)					
「芝ならびにセダムを用いた薄層基盤緑化による断熱効果」	共著	2013年10月20日	芝草研究42(1)	富田春乃, 宮川秀則, 佐藤忠継, 涌井史郎, 飯島健太郎	31-35頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「仮設住宅の緑のカーテンに対する住民の評価」	2013年6月16日	日本芝草学会春季大会	飯島健太郎 ・足立泰美・涌井史郎・大森靖広・吉田一居		

「仮設住宅における緑のカーテンの植栽と暑熱環境緩和効果」	2013年6月16日	日本芝草学会春季大会	足立泰美・涌井史郎・大森靖広・吉田一居・飯島健太郎
「鉄道軌道敷緑化技術の現状と課題」	2013年12月6日	特殊緑化に関する若手研究者・企業関係者の合同発表会、都市緑化機構(東京)	飯島健太郎
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「サボテン・多肉植物・その魅力と都市緑化への応用」	2013年5月27日	東京都造園緑化業協会	総会・講演会
「心の健康に役立つ緑地、そして建築の緑」	2014年2月19日	第4回屋上緑化講演会	大阪
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
緑化用植物(キリンソウ)の種苗特性に関する研究	2013年4月～2014年3月	大日化成(株)	
復興仮設住宅に設置したグリーンカーテンによる暑熱環境緩和効果に関する研究	2013年6月～2014年3月	(株)東急住生活研究所	
灌水リモート管理システムの研究	2013年8月～2014年3月	イビデングリーンテック(株)	
緑化用植物(キリンソウ)の種苗特性に関する研究	2013年11月～2014年1月	東鉄工業(株)	
超保水性建材を用いた環境改善	2014年1月～2014年10月	小松精練(株)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「植物と住まい／緑がもたらす癒し効果／質の高い緑で植物の効用を最大限に発揮する」	2013年9月1日	ハウジング トリビューン457号 50-53頁	
「ゴルフ場の魅力アップとグラウンドカバープランツ」	2013年10月20日	芝草研究42(1) 67-69頁	
園芸活動実践からグラウンドカバープランツの活用とその効果	2014年3月20日	芝草研究42(2) 176-180頁	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本多肉植物の会、日本造園学会、日本緑化工学会、日本芝草学会、日本プロメリア協会、日本生理人類学会、人間植物関係学会、国際多肉植物協会、Sedum Society	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年4月～現在	国際多肉植物協会日本支部(ISIJ)総合学術委員
2001年9月～現在	NPO 法人日本多肉植物の会 顧問
2004年1月～現在	日本緑化工学会論文校閲担当
2005年4月～現在	薄層緑化技術向上協会技術顧問
2006年10月～現在	日本芝草学会編集委員
2006年10月～現在	日本芝草学会グラウンドカバープランツ緑化部会部会長
2007年10月～現在	(社)日本造園学会校閲担当
2009年4月～現在	(財)日本公園緑地協会 公園緑地 有識者校正委員
2010年1月～現在	(財)環境情報科学センター、平成21年度ヒートアイランド現象による環境影響等に関する調査業務委員
2011年4月～現在	高速道路調査会 高速道路のグリーンマネージメント委員会委員
2011年4月～現在	神奈川県公園等審査会委員
2013年10月～現在	県立都市公園指定管理者選定審査委員会委員
2014年2月～現在	沖縄海洋博公園・熱帯亜熱帯環境ゾーン更新整備検討ワーキング委員

落合 晃 (おちあい あきら) 准教授



出生年：1966(昭和41)年
在籍：2003(平成15)年9月～
最終学歴：北海道薬科大学大学院生物薬学専攻
学位：医学博士
学位論文：ラット虚血急性腎不全に対するレンチン化superoxide dismutase(PC-SOD)の抑制効果
専門分野：薬理学、再生医学、衛生科学
前職：生化学工業株式会社
留学：聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター(国内)
ミシシッピ大学 メディカルセンター(米国)
資格：薬剤師 衛生検査技師
非常勤講師：聖マリアンナ医科大学

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床検査学教育学会、日本リウマチ学会、日本DDS学会、日本炎症・再生医学会、日本薬学会、日本臨床薬理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
	日本臨床検査学教育学会 評議委員

小寺 洋 (こでら よう) 准教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：1988(昭和63)年4月～
 最終学歴：東京工業大学理学部
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
 専門分野：生物化学、タンパク質工学
 学内役職等：研究推進部部長(2014～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Peripheral tolerance of antigen-specific Th cells induced with polyethylene glycol-conjugate of protein antigen”	共著	2013年	Open J. Immunol., 3	Obata, M., Fujii, T., Ohtsuji, M., Kodera, Y. and Nishimura, H.	pp.62-70
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Peripheral tolerance of antigen-specific Th cell induced with polyethylene glycol-conjugate of protein antigen”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama	Obata, M., Fujii, T., Ohtsuji, M., Kodera, Y. and Nishimura, H.		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

徳岡 由一（とくおか よしかず） 准教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位：博士(工学)
 学位論文：界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野：バイオインターフェイス/バイオマテリアル、ドラッグデリバリー、
 フォトメディカル
 前職：エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 受賞・表彰：第40回コロイドおよび界面化学討論会ポスター賞「界面活性剤／
 合成香料／水三成分系相状態図」、1997年度材料技術研究協会技術賞「ハロゲン捕
 捉剤の開発」、平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可
 溶化と揮発制御に関する研究」、2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力
 学的療法用新規メタルハライドランプ」、2004年度材料技術研究協会討論会
 ゴールドポスター賞「癌の光線力学的療法における5-Aminolevulinic acidの経皮
 吸収に及ぼすl-menthol誘導体の添加効果」、2005年度材料技術研究協会討論
 会ゴールドポスター賞「ポリエチレングリコールで改質した金基板表面へのタン
 パク質の吸着挙動」、2006年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「発
 光周波数の異なるキセノンフラッシュ光のPDT効果」、2007年度材料技術研究協
 会討論会ゴールドポスター賞「オゾン-UV処理により表面改質された各種高分子
 材料への血漿タンパク質の吸着挙動(II)」、2007年度材料技術研究協会討論
 会ゴールドポスター賞「5-アミノレブリン酸による細胞内プロトポルフィリンIX
 の集積性に及ぼす各種芳香族アミノ酸の添加効果」、第11回日本油化学会エディ
 ター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in
 Phospholipid Bilayer Membranes」、2009年度材料技術研究協会討論会ゴールド
 ポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの間隔制御」、Poster
 Session Award, 2009 TOIN International Symposium on Biomedical Engineering,
 “Effect of crown ethers on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX
 accumulation in U-937 cell”、SPACC-17 Poster Award, “Synthesis of oxovanadium(IV)
 complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity
 against leukemia cells”、Toin International Symposium on Biomedical Engineering
 2010 Presents Poster Session Award, “Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX
 accumulation in cultivated cancer cells”

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
(3) バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明にりようする。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(4) 生命医工学セミナーⅡ(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(1) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2013年～	高校での化学の復習と書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
(2) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師役出版)を教科書として使用	2013年～	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>●ドラッグデリバリー/フォトダイナミックセラピー 光線力学的療法(フォトダイナミックセラピー)に用いる光増感剤の経皮吸収促進を目的に、新たにW/Oエマルションを用いた光増感剤の経皮吸収効果について検討を開始した。これまで、経皮吸収に用いることができそうなW/Oエマルションの組成を確立した。</p> <p>●抗生剤の定量方法の確立 抗生剤の安定性を検討するための前段階として、抗生剤の定量方法を検討した。その結果、逆相クロマトカラムを用いたHPLCを用い、アンピシリンナトリウムおよびセフトキシムナトリウムの定量方法を確立した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Stability of O/W emulsion with synthetic perfumes oxidized by singlet oxygen.”	共著	2013年	Journal of Chemistry	Naoki Watabe, Yoshikazu Tokuoka , and Norimichi Kawashima	Article ID 971805
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
可溶化とマイクロエマルション	2013年6月	第14回日本油化学会フレッシュマンセミナー(界面科学と界面活性剤)	東京理科大学森戸記念館(新宿)		
可溶化の基礎知識と可溶化量向上技術	2013年9月	㈱情報機構主催セミナー	中小企業振興公社(秋葉原)		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本化学会コロイドおよび界面化学部会、日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員

小林 貴 (こばやし たかし) 特任准教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院博士課程
 学位：理学修士
 学位論文：風の乱れの空間構造
 専門分野：地球物理、環境物理、計算機物理
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」における演習実験等の導入	2005年度から導入を開始した。	講義としての板書等だけでは分かり難い各項目において、直接目で見たり耳で聞いたり出来るような演習実験装置を色々と工夫・準備し、教卓等で大きな定性実験として披露している。この為、大きな各種装置をJ棟4階倉庫に置いておき、授業も同階で行っている。
授業補習の導入	2005年度から本格的に導入を開始した。	1年の必修科目を中心に、全体に対する講義・演習だけでは身に入らなかつたり、不十分な学生を対象に、指名者および希望者を授業とは別の空き時間帯にカフェに呼び、個別指導をしている。これによって、個人ごと微妙に異なる不理解具合にかなり対応することが出来る。
4年国試対策特別講座	2012年度より開始した。	学科改変に伴って、大半の学生が臨床検査技師の国家試験を目指すようになり、その4年学生に対して後期に対策講座が数多く行われているが、その中で医用工学概論分野を担当している。2年次までに行った授業を踏まえて、毎回演習資料を行っている。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
2012年度に引き続き、牛込堀の長期振動を音として聞けるようにするテーマを進行する。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、日仏海洋学会、ゆらぎ現象研究会

大辻希樹 (おおつじ まれき) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：放送大学 教養学部
 専門分野：病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前職：順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 資格：臨床検査技師
 非常勤講師：順天堂大学 医学部 非常勤助手

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
疾患モデルマウスを用いた自己免疫疾患発症機序の解明 RAモデルに対するサイトカイン抑制による治療実験					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「病理学における色素の役割と歴史」	共著	2013年6月20日	色材協会誌86(6)号	大辻希樹、会田萌子	212-216頁
「自己免疫疾患におけるSLAMファミリー受容体の関与」	共著	2013年9月1日	臨床免疫60(3)	林青順, 西川桂子, 鶴井博理, 広瀬幸子, 大辻希樹, 西村裕之	258-262頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“A novel locus of B6 mice on chromosome 12 plays a role in common process shared by SLE, RA, and Sjgren syndrome.”	2013年5月30日	The 5th East Asian Group of Rheumatology (ソウル・韓国)	Toshiyuki Kaneko, Hirofumi Amano, Mareki Ohtsuji , Keiko Nishikawa, Shinya Kawano, Naomi Ohtsuji, Qingshun Lin, Toshikazu Shirai, Yoshinori Takasaki, Sachiko Hirose		
“Blockade of TNFa, but not IL-17, ameliorates spontaneously occurring autoimmune arthritis in FcgRIIB-deficient mice.”	2013年12月11日	第42回 日本免疫学会総会・学術集会記録(幕張)	OKAZAKI Hideki, LIN Qingshun, NISHIKAWA Keiko, TSURUI Hiromichi, OHTSUJI Mareki , NISHIMURA Hiroyuki, SHIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko		
“B cell specific deficiency of FcgRIIB results in high levels of autoantibodies without severe lupus nephritis in C57BL/6.Yaa mice.”	2013年12月11日	第42回 日本免疫学会総会・学術集会記録(幕張)	LIN Qingshun, NISHIKAWA Keiko, TSURUI Hiromichi, OKAZAKI Hideki, OHTSUJI Mareki , NISHIMURA Hiroyuki, AMANO Hirofumi, SHIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko		
“Peripheral tolerance of antigen-specific Th cells induced with polyethylene glycol-conjugate of protein antigen.”	2013年12月11日	第42回 日本免疫学会総会・学術集会記録(幕張)	OBATA Masaomi, OHTSUJI Mareki , HIRAI Toshikazu, HIROSE Sachiko, NISHIMURA Hiroyuki		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、超音波検査技師会、日本臨床衛生検査技師会 神奈川県臨床検査技師会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 学内役職等：講師
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ実習教材	2010年～	

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
超長時間持久的負荷における生体反応 発汗と自律神経機能について					
○著書・論文等					
(学術論文)					
「乳酸菌Lactococcus lactis spp.cremoris H61 株含有ヨーグルトの継続摂取が女子大学生の肌、便通、体調に及ぼす影響」	共著	2013年6月1日	New Diet Therapy vol.29 No.1	鈴木良雄、木元宏実、永倉ゆか、児玉千紘、鯉川なつえ、櫻庭景植、鈴木チセ、佐々木啓介、清水智美、奥田美穂	23-30頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
第24回日本体力医学会スポーツ医学研修会	2013年8月9日	日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会	東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室		
○その他					
(その他特記事項)					
臨床検査技師国家試験問題注解 2014年版(金原出版) 2013年5月1日					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床スポーツ医学会

濤川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2011(平成23)年4月～
最終学歴：獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
専門分野：生理学、臨床生理学、
前職：恩賜財団済生会横浜市東部病院
留学：米国(4年)
資格：臨床検査技師

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

2013年度。研究室では学生研究として肥大型心筋症について取り纏めた。HCM, HOCM, ASHなど症例を集め現在最も有効とされている治療について考察した。生命医工学科としては2期生の国家試験並びに就職活動をサポートし、合格率、内定率ともに昨年同様の納得いくものであった。学外では日本臨床衛生検査技師会において国際交流委員としてシンガポールでおこなわれたAAMLSへの通訳として参加した。今後も臨床検査技師の地位向上にむけて国際の分野で活動していく予定である。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、超音波検査学会、

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助教



出 生 年 : 1986(昭和61)年
 在 籍 : 2012(平成24)年4月～
 最 終 学 歴 : 大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学 位 : 健康科学士
 専 門 分 野 : 臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前 職 : 東海大学医学部附属病院 院内感染対策室 技術員
 資 格 : 臨床検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析化学認定士(初級)
 非 常 勤 講 師 : 東京農業大学畜産学科家畜衛生学研究室研究生

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
臨床微生物における色素および呈色反応	共著・筆頭	2013年6月	色材協会誌, 86	蓮沼裕也・落合晃 他	217-224
救命救急センターにおける多剤耐性Acinetobacter baumanniiの多発とその感染制御	共著	2013年	熱傷学	大橋茉耶・蓮沼裕也 他1	
Bacterial Translocation of Campylobacter jejuni in Broiler Chickens	共著	2013年	Avian Pathology	S. Itoh, Y. Hasunuma et al	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本体力医学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会

(2014年度 新任教員)

奥田美穂 (おくた みほ) 特任助教



出生年 : 1986(昭和61)年
在籍 : 2014(平成26)年10月～
最終学歴 : 大東文化大学大学院スポーツ・健康科学研究科
学位 : 修士(スポーツ科学)
学位論文 : 高校生アルペンスキー選手におけるコンディショニングに関する研究-酸化ストレス防御機構の観点から-(2011)
専門分野 : 生理学 臨床生理学
前職 : 健診会 東京メディカルクリニック
資格 : 臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
生理機能検査学	2014年9月～	パワーポイントにおける講義にプラスし、専用のペーパーへの記載させ、どこがポイントとなのかを理解させながら授業を実施した。また、実技においては細かく実施方法を指導し、一人一人確認を行った後、改善点がどこにあったのかを他の生徒とともに確認を行っていた。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「乳酸菌Lactococcus lactis spp.cremoris H61 株含有ヨーグルトの継続摂取が女子大学生の肌、便通、体調に及ぼす影響」	共著	2013年6月1日	New Diet Therapy vol.29 No.1	鈴木良雄、木元宏実、永倉ゆか、児玉千紘、鯉川なつえ、櫻庭景植、鈴木チセ、佐々木啓介、清水智美、奥田美穂	23-30頁

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：1999(平成11)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野：信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職：東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 受賞・表彰：電気学会論文発表賞(1992)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月	毎年新入生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理 I 物理 II	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月 2014年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理 I」、「物理 II」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理 I は静力学、物理 II は電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2011年度に開始した、葉の振動計測による植物の水ストレスの推定に関する研究を継続して行った。今年度は、葉に振動を与える方法として、パラメトリックスピーカによる音響放射圧を利用した方法を開発し、振動計測を自動化した。また、そのシステムを用いて、栽培中の小松菜の葉の固有振動数の経時的な変化を捉えることにはじめて成功した。その結果、葉の固有振動数は、植物の水ストレスが強くなり、葉がしおれはじめると同時に大きく減少することが分かり、これはJJAPに掲載された。また、葉の振動をさらに詳しく解析するために、ハイスピードカメラによる葉の振動の同時多点計測を行うシステムを構築し、葉の振動を基本的な振動に分解し、それぞれの成分が葉のしおれ(植物の水ストレス)に対してどのように振る舞うかを検証しようとしているところである。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Study on Water Distribution Imaging in the Sand Using Propagation Velocity of Sound with Scanning Laser Doppler Vibrometer”	共著	2013年7月	Japanese Journal of Applied Physics, Vol.52 (in Press)	Tsuneyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano , Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa	07HC04
“Basic Study on Estimating Water Stress of a Plant Using Vibration Measurement of Leaf”	共著	2013年7月	Japanese Journal of Applied Physics, Vol.52 (in Press)	Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto, Hiroshi Hosoya, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa	07HC13
“Generation of disk-like domains with nanometer scale thickness in merocyanine dye LB film induced by hydrothermal treatment”	共著	2013年10月17日	Nanoscale Research Letters (NANO EXPRESS)/Vol. 8	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto	429(9pages)

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Study on the real time water distribution imaging in soil using sound vibration, -Study about the Stable Calculation Method of Propagation Velocity of Sound-”	2013年5月3日	International Congress on Ultrasonics(ICU2013) Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore, Singapore	Tsuneoyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano , Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“STUDY ON THE ESTIMATION OF THE VOLUME WATER CONTENT IN SOIL BY ABSORBING WATER OF THE PLANT USING PROPAGATION VELOCITY OF SOUND”	2013年6月27日	5th Asian Conference on Precision Agriculture (ACPA 2013) Ocean Suites Jeju Hotel, Jeju Island, Republic of Korea	Tsuneoyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano , Takashi Shirakawa, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“ESTIMATION OF THE WATER STRESS OF A PLANT BY THE CHARACTERISTIC FREQUENCY OF A LEAF”	2013年6月27日	5th Asian Conference on Precision Agriculture (ACPA 2013) Ocean Suites Jeju Hotel, Jeju Island, Republic of Korea	Motoaki Sano , Hirokazu ano, Toshiaki Sugihara, Tsuneoyoshi Sugimoto, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“The Effect of Hydrothermal Treatment on Merocyanine Dye LB Films”	2013年6月27日	Collaborative Conference on Materials Research (CCMR 2013) Ramada Plaza Jeju Hotel, Jeju Island, Republic of Korea	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano , Tsuneoyoshi Sugimoto
「音波振動を用いた土壌中の水分分布の可視化に関する研究」	2013年7月5日	3次元画像コンファレンス 2013 早稲田大学(西早稲田キャンパス63号館)	杉本恒美、中川裕、白川貴志、 佐野元昭 、杉原敏昭、大幅元吉、澁澤栄
「空中放射音波を用いたコンクリート構造物中の亀裂可視化に関する研究」	2013年7月5日	3次元画像コンファレンス 2013 早稲田大学(西早稲田キャンパス63号館)	杉本恒美、赤松亮、 佐野元昭 、杉原敏昭、歌川紀之、片倉景義
「再帰性反射材を用いたステレオ光学迷彩」	2013年7月5日	3次元画像コンファレンス 2013 早稲田大学(西早稲田キャンパス63号館)	佐野元昭 、関 昌哉、杉原敏昭
“Study on the estimation of the volume water content in the culture soil under plant cultivation using propagation velocity of sound”	2013年7月8日	9th European Conference on Precision Agriculture (ECPA), Lleida University, Spain	Tsuneoyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano , Toshiaki Shirakawa, Kaoru Yamagishi, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil Using SLDV -The soil water measurement during plant cultivation”	2013年7月23日	2013 Joint UFFC, EFTF and PFM Symposium (IEEE)	Tsuneoyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano , Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Study on Estimation of Volume Water Content in Culture Soil using Handheld Sound Source and Sensors”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Toshiaki Sugihara, Motoaki Sano , Tsuneoyoshi Sugimoto
“Study on the Estimation of the Volume Water Content in the Culture Soil during Plant Cultivation using Sound Vibration”	2013年11月21日	The 34th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2013) Kyoto (Kambaikan, Doshisha Univ.)	Yutaka Nakagawa, Tsuneoyoshi Sugimoto, Motoaki Sano , Takashi Shirakawa, Toshiaki Sugihara, Kaoru Yamagishi, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Study on Health Condition Monitoring Method of the Plant by Vibration Measurement of Leaf using Acoustic Radiation Force”	2013年11月21日	The 34th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2013) Kyoto (Kambaikan, Doshisha Univ.)	Motoaki Sano , Yutaka Nakagawa, Tsuneoyoshi Sugimoto, Takashi Shirakawa, Toshiaki Sugihara, Kaoru Yamagishi, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
「土壌水の時空間分布観測システムの開発」	2014年1月29日	CREST「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」研究領域第2回公開シンポジウム(東京ビックサイト)	杉本恒美、 佐野元昭 、杉原敏昭、白川貴志、中川裕、山岬香

「葉の振動計測による植物健康状態評価法に関する検討」	2014年2月5日	テクニカルショウヨコハマ2014 (パシフィコ横浜、展示ホールC・D)	佐野 元昭, 杉本 恒美
「音響放射圧を用いた葉および茎の振動計測による植物健康状態の評価に関する検討」	2014年2月22日	アコースティック・イメージング研究会 JAXA 調布航空宇宙センター 飛行場分室、研究総合C1号館4階 大会議室	杉本恒美, 中川裕, 佐野元昭, 白川貴志, 山岸香, 杉原敏昭, 大幅元吉, 澁澤 栄
「音響振動による作物吸水ニーズの推定に関する研究 -ハイスピードカメラを用いた同時多点計測-」	2014年3月12日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 日本大学(駿河台キャンパス)	佐野元昭, 杉原敏昭, 杉本恒美, 中川裕, 白川貴志, 山岸香, 大幅元吉, 澁澤 栄
「音響振動による植物の作物吸水ニーズの推定に関する研究 -レーザ変位計を用いた長期間連続計測に関する検討-」	2014年3月12日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 日本大学(駿河台キャンパス)	中川裕, 杉本恒美, 佐野元昭, 白川貴志, 杉原敏昭, 山岸香, 大幅元吉, 澁澤 栄
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究 -地中縦挿し型送受信器を用いた植物根圏土壌水分把握-」	2014年3月12日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 日本大学(駿河台キャンパス)	白川貴志, 杉本恒美, 佐野元昭, 杉原敏昭, 山岸香, 中川裕, 大幅元吉, 澁澤 栄
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「農業情報共有の標準化について～遠隔データモニタリングからデータ活用へのロードマップと試作開発～」	2013年12月14日	第3回 農学分野合同ワークショップ「農学から発信する水問題最前線」	東京農業大学 府中キャンパス 2号館-11号室
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
植物の健康状態の評価方法および評価装置ならびに植物の栽培方法	2013年12月13日	出願中(2013-258011)	学校法人桐蔭学園 杉本恒美、佐野元昭、中川裕
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費助成事業	2013年6月～2015年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
5th ASIAN CONFERENCE ON PRECISION AGRICULTURE (ACPA 2013)での発表	2013年6月25日～27日	済州島(韓国)	
(その他特記事項)			
TBS「バカと科学者の蜜談 空飛ぶ車…不老不死…ソレ、全部できてます」(ビデオ収録)(2013年10月3日11:58pmから放映)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会

須藤 昭一 (すどう しょういち) 教授



出生年：1952(昭和27)年
在籍：2005(平成17)年9月～2014(平成26)年8月
最終学歴：金沢大学工学部電子工学科
学位：工学博士(東京大学)
学位論文：Studies on the Vapor-Phase Axial Deposition Method for Optical Fiber Fabrication (東京大学 1982年)
専門分野：光ファイバ、IT、医用センサ、脳科学
前職：NTTマイクロシステムインテグレーション研究所 所長、NTTエレクトロニクス株式会社技師長
学内役職等：工学研究科長(2014～)
留学：Stanford University (米国; 1986～1987)
受賞・表彰：(社)電子通信学会 学術奨励賞(1979)
(社)電子情報通信学会 論文賞(1981)
(社)電子情報通信学会 論文賞(1995)
(財)光産業技術振興協会 第13回桜井健二郎氏記念賞(1997)
米国IEEEフェロー賞(1999)
(社)電子情報通信学会業績賞(2001)
文部科学大臣賞(2002)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
・最新脳科学 ・コミュニケーションの科学

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE(Fellow)、電子情報通信学会、日本医療情報学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年～	横浜市立大学医学部客員教授

竹内 真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 ：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究(修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging(博士)
 専門分野：超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職：(株)キメック研究開発センター計測電子システム部副主事
 学内役職等：医用工学部臨床工学科長(2012～)
 資格：第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・看護学科、理学療法士学科、作業療法士学科
 受賞・表彰：第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびその装置)日本超音波医学会・超音波工学フェロー電子情報通信学会・シニア会員2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞2002年度材料技術研究協会技術賞2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
当研究室では、がん治療、遺伝子注入などの医療分野における高強度超音波を用いる治療技術や半導体、精密加工等の産業分野における超音波洗浄技術において重要視されている音響キャビテーションの発生の様子や音圧の分布を計測する技術の研究を実施している。例えば、キャビテーションセンサや音響キャビテーションが発生しても壊れずに使用可能なマイクロバブルの研究をつくばの産業技術総合研究所・計測標準研究部門・音響超音波標準研究室、本多電子株式会社と産官学共同研究体制で進めている。また、これらのセンサに使用する水熱合成PZT膜は、南カリフォルニア大学のK.K.Shung教授、Qifa Zhou教授の研究グループにも供給し、医療診断用高周波超音波プローブ(100MHz帯)の開発に利用されている。また、脳腫瘍細胞に超音波を照射してアポトーシス誘導することにより周囲の正常細胞に悪影響を及ぼさず治療する技術に関する基礎研究も実施している。さらに、本年度からこの超音波治療技術を膵臓癌の治療に応用する研究を開始した。これらの超音波音場の性質を把握するために、ソノケミルミネセンスの発光パターンや超音波診断装置のBモード画像、PIV (Particle Image Velocimetry)を用いて、音響キャビテーションバブルの空間分布や音響流発生の様子を理解するために研究も行っている。また、昨年度から元首都大学東京教授の守屋正博士、マイクロソニック株式会社社長の入江喬介博士との共同研究を開始した血管内超音波診断(IVUS; IntraVascular Sonograph)に用いる超音波プローブを血管内で回転させるための超小型超音波モーターの研究では、直径0.9mm以下の小型コイル状ステータ型超音波モーターの開発に成功し、その動作特性(圧電振動子の振動特性、トルク一回転速度特性、入出力効率)等も測定できた。本年度は、水熱合成PZT膜の技術を適用してさらに小型の超音波モーター研究開発を実施している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
特集超音波を評価する技術 水熱合成圧電多結晶膜を用いた ニードル型マイクロバブルの構造と 特性	単著	2013年4月	超音波TECHNO VOL.25 3-4月号	-	31-39頁
(学術論文)					
「血液透析患者のシャント音の時 間一周波数解析に基づいた非侵 襲バスキュラーアクセス機能評価 法の提案」	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内 真一, 阿岸鉄三	149-156頁

Basic study on development of cell culture flask with acoustic windows for culture of adherent cell and ultrasound irradiation	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	岩城咲乃、渡邊晶子、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一	177-183頁
Miniature cavitation sensors with hydrothermally PZT film as piezoelectric element deposited on outer surface of hollow cylindrical titanium pipe	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	植村友樹、椎葉倫久、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、 竹内真一	185-190頁
Effect of backing material of tough hydrophone for measurement of high intensity acoustic field with generation of acoustic cavitation on its	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	椎葉倫久、植村友樹、岡田長也、内田武吉、菊池恒男、黒澤「実」、 竹内真一	205-209頁
Novel research on development of ultrasound therapeutic technique for brain tumor treatment 脳腫瘍治療を目的とした超音波治療技術の開発に関する	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	渡邊晶子、岩城咲乃、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一	249-253頁
「ダブルルーメンカテーテルの最適設計を目的とした(Computer Aided Engineering:CAE)の導入(第2報:脱血-返血孔間距離が再循環率に与える影響)」	共著	2013年9月2日	医工学治療 Vol.25 No.2	丸下洋一、石垣秀記、中根紀章、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、 竹内真一 、阿岸鉄三	71-78頁
「自動代表シャント音信号検出機能を備えたシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセスの機能評価法」	共著	2013年12月14日	医工学治療 Vol.25 No.3	本橋由香、佐々木一真、山内 忍、佐藤敏夫、 竹内真一 、阿岸鉄三	200-210頁
「コイル状ステータ超音波モータ駆動用の水熱合成PZT多結晶膜振動子の開発」	共著	2013年12月1日	桐蔭論叢 第29号	阿部峻靖、守屋 正、入江喬介、 竹内真一	13-17頁
Study on decrease in the viability of brain tumor cells by ultrasound exposure	共著	2014年3月	Acoustical Science and Technology, vol.35, No. 3,2014 Vol.53, No.7S	Akiko Watanabe, Sakino Iwashiro, Masatsune Minai, Hiroyuki Nishimura, Shinichi Takeuchi	170-173頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
チタン製前面板を有する堅牢型ハイドロホンの試作及び集束音場の測定 Trial fabrication of tough hydrophone using titanium front layer and measurement of focused ultrasound field	2013年5月24日	日本超音波医学会第86回学術集会(大阪、大阪国際会議場グランキューブ)	椎葉倫久、植村友樹、岡田長也、内田武吉、菊池恒男、黒澤 実、 竹内真一
超音波照射が神経膠芽腫細胞U-87MGの増殖に及ぼす影響に関する基礎検討	2013年5月	日本超音波医学会第86回学術集会、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)、大阪(2013)	渡邊晶子、岩城咲乃、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一
超音波照射用音響窓付き付着細胞培養フラスコの開発	2013年5月	超音波研究会、機械振興会館、東京(2013)信学技報113(68) US2013-9, pp. 7-12	岩城咲乃、渡邊晶子、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一
チタン製前面板を有するHIFU測定用ハイドロホンの試作及び集束音場の測定 Trial fabrication of hydrophone for measurement of HIFU field using titanium front layer and measurement of focused ultrasound field	2013年6月15日	第32回日本脳神経超音波学会総会(徳島、あわぎんホール)	椎葉倫久、岡田長也、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、 竹内真一
超音波を用いた神経膠芽腫細胞U-87MGの細胞死への誘導に関する基礎研究	2013年6月	第32回日本脳神経超音波学会総会、あわぎんホール、徳島(2013)神経超音波医学25(Supplement) p.119	渡邊晶子、岩城咲乃、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一

超音波照射用音響窓付き付着細胞培養フラスコの開発と評価に関する研究	2013年6月	第32回日本脳神経超音波学会総会, あわぎんホール, 徳島 (2013) 神経超音波医学25 (Supplement) p.119	岩城咲乃, 渡邊晶子, 葉袋正恒, 西村裕之, 竹内真一
チタン製前面板の裏面に水熱合成PZT多結晶膜を成膜した hidroホンを用いて高強度超音波音場で計測した受信波形および音場データの妥当性に関する検討	2013年7月	2013年度非線形音響研究会、加藤科学振興会軽井沢研修所	椎葉倫久, 岡田長也, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
Characterization of Hydrophone with Hydrothermal PZT Thick Film Vibrator and Ti Front Layer for Measurement in High Intensity Therapeutic Ultrasound	2013年7月	2013 IEEE 2013 Joint UFFC, EFTF, and PFM Symposium in Prague, Czech Republic	Nagaya Okada, Yoshiyuki Asakura, Michihisa Shiiba, Shinichi Takeuchi , Takeyoshi Uchida, Masahiro Yoshioka, Tsuneo Kikuchi, Minoru K. Kurosawa
「チタン製前面板を有する堅牢型 hidroホンの高強度超音波音場で計測した音場データと受波特性」	2013年9月25日	2013年日本音響学会秋季研究発表会	岡田長也, 朝倉義幸, 椎葉倫久, 内田武吉, 吉岡正裕, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「チタン製前面板を有する堅牢型 hidroホンの出力波形 - 市販 hidroホンとの比較 -」	2013年9月25日	2013年日本音響学会秋季研究発表会	椎葉倫久, 岡田長也, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「脳腫瘍細胞を細胞死へ誘導するための超音波照射方法及び条件の検討に関する研究」	2013年9月26日	2013年日本音響学会秋季研究発表会	渡邊晶子, 岩城咲乃, 葉袋正恒, 西村裕之, 竹内真一
「超音波照射用音響窓付き付着細胞培養フラスコの作製と評価に関する検討 - 音響窓用フィルムとフラスコ本体の接合方法の比較」	2013年9月26日	2013年日本音響学会秋季研究発表会	岩城咲乃, 渡邊晶子, 小野塚善文, 葉袋正恒, 西村裕之, 竹内真一
「水熱合成PZT多結晶膜を用いたコイル状ステータ超音波モータ駆動用振動子の開発」	2013年9月26日	2013年日本音響学会秋季研究発表会	阿部峻靖, 大木駿太朗, 守屋正, 入江喬介, 竹内真一
「時間-周波数解析に基づく飲食物の粘度が嚥下音に与える影響に関する定量的評価」	2013年9月27~29日	第51回日本人工臓器学会大会 (パシフィコ横浜)	佐々木一真, 野田彩華, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音の時間-周波数解析による空気嚥下症の定量的評価」	2013年9月27~29日	第51回日本人工臓器学会大会 (パシフィコ横浜)	佐々木一真, 木村昌功, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
「超音波照射用音響窓付き脳腫瘍細胞培養フラスコの作製と評価」	2013年10月19日	日本超音波医学会第25回関東甲信越地方会 (東京ファッションタウンビル)	岩城咲乃, 渡邊晶子, 小野塚善文, 葉袋正恒, 西村裕之, 竹内真一
「150 kHz の超音波照射を受けた脳腫瘍細胞 U-87 MG の影響の評価に関する研究」	2013年10月19日	日本超音波医学会第25回関東甲信越地方会 (東京ファッションタウンビル)	渡邊晶子, 岩城咲乃, 葉袋正恒, 西村裕之, 竹内真一
「IVUSの先端駆動を目的としたコイル状ステータ水熱合成PZT超音波モータの開発」	2013年10月19日	日本超音波医学会第25回関東甲信越地方会 (東京ファッションタウンビル)	阿部峻靖, 大木駿太朗, 守屋正, 入江喬介, 竹内真一
「チタン前面板の裏面に水熱合成PZT膜を成膜したHIFU用 hidroホンによる受信波形の検討」	2013年10月19日	日本超音波医学会第25回関東甲信越地方会 (東京ファッションタウンビル)	椎葉倫久, 岡田長也, 内田武吉, 菊池恒男, 黒澤実, 竹内真一
「擬似血管狭窄モデルの狭窄下流における血流状態の可視化とシャント音の変化に関する実験的検討」	2013年10月23~25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐々木一真, 外岡知沙, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音評価による吞気症スクリーニング検査方法の基礎的検討」	2013年10月23~25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐々木一真, 木村昌功, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一 , 阿岸鉄三
Ultrasound Transducer with Hydrothermally Synthesized Film for CS_USM (Coiled Stator Ultrasound Motor)	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama., Yokohama (2013)	Toshinobu Abe, Tadashi Moriya, Takasuke Irie, Masakazu Sato, Shinichi Takeuchi

Development of brain tumor cells culture flask with acoustic window film for ultrasound exposure ~Evaluation of welding methods of flask body and acoustic window film~	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama., Yokohama (2013)	Sakino Iwashiro, Akiko Watanabe, Yoshifumi Onozuka, Masatsune Minai, Hiroyuki Nishimura and Shinichi Takeuchi
Relationship between received waveform of commercial hydrophone and tough hydrophone	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama., Yokohama (2013)	Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa, Shinichi Takeuchi
Development of ultrasound irradiation system for treatment of brain cancer cells - Suppression of spurious radial mode vibration of spherical transducer-	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama., Yokohama (2013)	Yusuke Tanaka, Akiko WATANABE, Shinichi TAKEUCHI
Study on identification of damaged region of bone fracture using surface acoustic wave	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama., Yokohama (2013)	Hiroki Tooyama and Shinichi Takeuchi
The trial fabrication of focused type cavitation sensor with hydrothermally synthesized PZT poly-crystalline film	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama., Yokohama (2013)	Yuuki Uemura, Michihisa Shiiba, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa, Shinichi Takeuchi
Study on effect of ultrasound exposure with acoustic intensity of 720mW/cm ² to brain tumor cells	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2013, Toin University of Yokohama., Yokohama (2013)	Akiko Watanabe, Sakino Iwashiro, Masatsune Minai, Hiroyuki Nishimura and Shinichi Takeuchi
“Development and estimation of brain tumor cells culture flask with acoustic window film for ultrasound exposure” 超音波照射用音響窓付き脳腫瘍細胞培養フラスコの開発と評価	2013年11月21日	The 34th Symposium on Ultrasonic Electronics in Kyoto (Dosisya University)	Sakino Iwashiro, Akiko Watanabe, Yoshifumi Onozuka, Masatsune Minai, Hiroyuki Nishimura and Shinichi Takeuchi
“Effect of exposure to standing wave ultrasound field on proliferation of brain tumor cell” 定在波超音波の音場への曝露が脳腫瘍細胞の増殖に及ぼす影響	2013年11月21日	The 34th Symposium on Ultrasonic Electronics in Kyoto (Dosisya University)	Akiko Watanabe, Sakino Iwashiro, Masatsune Minai, Hiroyuki Nishimura and Shinichi Takeuchi
“Experimental Study on the II Shaped Coiled Stator Ultrasound Motor” コイル状ステータを用いたII型構造の超音波モータの検討	2013年11月21日	The 34th Symposium on Ultrasonic Electronics in Kyoto (Dosisya University)	Toshinobu Abe, Tadashi Moriya, Takasuke Irie, Masakazu Sato and Shinichi Takeuchi
“Relationship between the frequency characteristics of receiving sensitivity and received waveform of the anti-acoustic cavitation hydrophone” 耐音響キャビテーションハイドロホンの受波感度の周波数特性と受信波形の関係	2013年11月21日	The 34th Symposium on Ultrasonic Electronics in Kyoto (Dosisya University)	Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
神経膠芽腫細胞株U-87MGを細胞死へ誘導する為の超音波照射条件の検討に関する研究	2014年3月10日	日本音響学会2014年 春季研究発表会(東京駿河台 日本大学)	渡邊晶子, 岩城咲乃, 葉袋正恒, 西村裕之, 竹内真一
コイル状ステータを用いたII型構造の超音波モータのトルク測定	2014年3月10日	日本音響学会2014年 春季研究発表会(東京駿河台 日本大学)	阿部峻靖, 守屋正, 入江喬介, 竹内真一

○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
2013 IEEE 2013 Joint UFFC, EFTF, and PFM Symposium in Prague, Czech Republic	2013年10月7日～10日	Prague, Czech Republic

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2004年05月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員(基礎領域・領域責任者)	
2008年04月～現在	電子情報通信学会誌・Fundamentals Review誌・編集委員	
2008年05月～現在	日本超音波医学会・Scientific Advisory Board委員	
2008年05月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員	
2011年5月～現在	超音波シンポジウム論文委員会委員	
2009年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員	
2009年05月～2013年4月	日本音響学会編集委員会(論文部会)委員	
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー	
2009年08月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域責任者)	
2010年04月～現在	日本超音波医学会・代議員	
2012年11月～現在	日本超音波医学会・関東甲信越地方会・第25回学術集会・実行委員	
2010年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員	
2011年04月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員(再任)	
2013年04月～現在	日本音響学会・理事(国際渉外担当)	
2014年04月～現在	2016年日米音響学会・ジョイントミーティング・プログラム委員会委員	
2014年04月～現在	日本超音波医学会・基礎技術研究会・代表	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
横浜地方裁判所裁判所委員	2012年4月～現在	横浜地方裁判所



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野：(情報処理工学)最適化アルゴリズム、(電子工学)携帯医療機器のハードとソフト
 前職：株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等：精密加工センター長(2011～2013)
 資格：アマチュア無線技士(電話級)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の現在全担当科目用のホームページを作成し、一部の授業の講義内容をそのページで公開	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://www.ajape.org/
(2)本学園の高校の「(理科)課題研究」の指導教員	2012年～2013年	桐蔭学園高等学校の理科課題研究

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
機会学習の分野で分類に用いるkNN(k近傍)法について研究を進め、乳癌の再発生の予測するアルゴリズムの応用について、個人研究でも、4年次の卒業研究でも検討した。成果の一部は、本学出版の学術雑誌「桐蔭論叢」に投稿(2014年6月出版予定)。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“The Use of Evolutionary Concepts to Improve an Immune Algorithm (IA) for Searching”	共著	2013年6月24日	Research Bulletin of the Toin University of Yokohama, Vol.28.	Takahiro Ishikawa, Alberto Palacios Pawlovsky	pp.171-176
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“On the Improvement of an Immune Algorithm (IA) Using Evolutionary Operations”	2013年7月3日	International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2013)	Alberto Palacios Pawlovsky , Takahiro Ishikawa		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NPOの日本・ペルー共生協会	2002年から現在まで	理事長

阿部 憲二 (あべ けんじ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2002(平成14)年9月～
 最終学歴：サンフランシスコ大学教育学部博士課程
 国際化に伴う社会教育学科修了
 学位：教育学博士(Ed.D.)
 学位論文：Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野：国際社会病理
 前職：北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
 学内役職等：国際交流委員(2012～)
 留学：アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
 サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、博士:2000.1
 ～2001.12)
 資格：中学1級・高校2級教員免許、英検1級
 上級心理カウンセラー、サイコパス診断資格

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コミュニケーション上達のための独自テキスト使用	2005年4月～	英語コミュニケーション(I～IV)に関しては、すべて自作のテキストを使用し、話す・聴く・渡米実践編(下・上)と学生たちに必要とされるであろう前半を攻略する独自のシステムを確立し、授業アンケートでも上位に評価され、医用工学部長からも認められる。
米国のESL教授法に則った最先端の英語教授法を展開	2005年4月～	英語III・IVに関しては、学生たちが専門研究に進んだ場合に必要となる英語論文及び国際学会に対応することを想定した実践を最重視した独自の授業を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「英会話攻略はこれしかない」(洋泉社)を副読本として使用	2005年4月～	初級レベルからネイティブレベルに到達するまでの英会話上達の5ステップを具体的に説明。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
米国刑務所を複数回訪れ、アメリカの凶悪犯たちの生い立ちと人格を中心に研究。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“A Comparison of Environmental Backgrounds of Psychopaths and Serial Killers”	単著	2013年	桐蔭論叢30号		
“What we can learn from near-native English speakers”	単著	2013年	桐蔭論叢30号		
“A Comparison of Environmental Backgrounds of Psychopaths and Serial Killers”	単著	2013年	桐蔭論叢30号		
○その他					
(その他特記事項)					
ラジオ日経「大人のラジオ」社会と犯罪コーナー担当(2012年9月～現在)					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年4月～現在	日本私学協会教員免許講習講師	
2009年8月～現在	PFI Japan (国際矯正施設支援連盟 日本支部) 相談役	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者及び満期出所者オリエンテーション担当講師 受刑者心理カウンセリング
赤松正雄厚生労働副大臣 相談役	2005年11月～2009年7月	
山根隆治外務副大臣 相談役	2011年9月～2013年7月	

佐藤敏夫 (さとう としお) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：1997(平成9)年12月～
 最終学歴：慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位：博士(医学)、博士(工学)
 学位論文：Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs(医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究(工学博士論文)
 専門分野：生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職：(株)東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長(2013～)
 資格：第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師：千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科
 受賞・表彰：科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞(1992)
 2002年度材料技術研究協会討論会 技術賞
 2003年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2008年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞(腎臓)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
「生体雑音の時間-周波数解析による生体の機能評価」、「有限要素法(FEM)を用いた各種医療機器内の血液流れ解析」に加え「冠動脈狭窄治療の指標に関する実験的評価」など臨床工学分野の多岐にわたる研究テーマを展開している。これらの研究成果は、国内外の学会(米人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会など)で発表し、医療従事者から高い評価を得ており、日本医工学治療学会、日本人工臓器学会で優秀演題として表彰された。今後も医療技術の発展に貢献できる計測・診断技術の開発と実用化を目指した研究に従事する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づいた非侵襲バスキュラーアクセス機能評価法の提案	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	149-156頁
「ダブルルーメンカテーテルの最適設計を目的とした(Computer Aided Engineering:CAE)の導入(第2報:脱血-返血孔間距離が再循環率に与える影響)」	共著	2013年9月2日	医工学治療 Vol.25 No.2	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	71-78頁
「自動代表シャント音信号検出機能を備えたシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセスの機能評価法」	共著	2013年12月14日	医工学治療 Vol.25 No.3	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	200-210頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による回路内血液凝固の専属的検出方法の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	西川直也, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いた血液凝固過程可視化の基礎検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「粒子画像流速法を用いた透析用血液回路ピロー部の流れの可視化による血液凝固発生要因の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	山内忍, 内田早紀, 西川直也, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いたPCPS回路における流れの可視化と非侵襲的血栓検出方法の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	坂元英雄, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫
「流れ-構造連成解析によるシャント音発生メカニズムの理論検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	中根紀章, 鈴木正明, 村上真広, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「シャント血管狭窄モデル内の流れの可視化によって求めた各種流体パラメータと狭窄に伴うシャント音の変化との関係」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	佐々木一真, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「CFDを用いたエンドホール型DLCの脱血孔角度が再循環率に与える影響に関する理論検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「DLCのへばりつき現象発生に影響を与える各種要因の定量的効果判定に関する試み」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記, 志戸田優, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「サイドホール型及びエンドホール型DLCの血管内留置位置の違いが再循環率に与える影響と流れの可視化」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記, 大城寿乃, 竹中雅登, 頼住啓一, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用穿刺針先端における圧力分布測定と穿刺針の加工による最適形状の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	頼住啓一, 高橋怜美, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
“Particle Image Velocimetry Visualization And Analysis Of Flow At The Tip Of Hemodialysis Needle”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Early Detection Of Blood Coagulation During Hemodialysis Using Non-Invasive Monitoring Of Blood Flow Sounds”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Naoya Nishikawa, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Proposal Of A Method For Noninvasive, On Going Monitoring Of Thrombus Formation Inside PCPS Circuits”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato
“Fluid Parameters Affecting Changes In Shunt Murmurs Arising From Differences In Degree Of Stenosis”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Yuka Motohashi, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
「PIVを用いたピロー部の流れの可視化による回路内凝固発生要因の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	山内忍, 内田早紀, 西川直也, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデル内の流れの可視化により得られた各種流体パラメータとシャント音の関連性」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	佐々木一真, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三

「ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象発生に関与する各種要因の定量化の試み」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	大城寿乃、石垣秀記、志戸田優、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテルの血管内留置位置の違いが再循環率に与える影響」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	竹中雅登、大城寿乃、石垣秀記、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用留置針先端付近における圧力分布測定と先端加工による最適形状の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	高橋怜美、頼住啓一、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による回路内血液凝固の専属的検出方法の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	西川直也、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「血液透析用ダブルルーメンカテーテルの脱血-返血孔間距離がへばりつき現象の発生に与える影響に関する基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「再循環率に基づいたダブルアクシャル型及びコアクシャル型DLCの性能比較」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃、高橋絢香、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルを用いたシャント音測定とPIVによる流れ解析に基づいたシャント音の性質と流体パラメータの関係」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真、本橋由香、山内忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「時間-周波数解析に基づく飲食物の粘度が嚥下音に与える影響に関する定量的評価」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真、野田彩華、本橋由香、山内 忍、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音の時間-周波数解析による空気嚥下症の定量的評価」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真、木村昌功、本橋由香、山内 忍、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三
「光センサを用いたPCPS回路内で発生する血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	坂元英雄、武部康介、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫
「エンドホール型DLCの脱血孔開孔角度が再循環率に与える影響に関する理論的検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃、丸下洋一、滝川千恵美、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用穿刺針先端の圧力分布測定と穿刺針先端の最適形状の検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	高橋怜美、頼住啓一、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「CFD解析を用いた透析用穿刺針先端の最適設計の試み」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	頼住啓一、橋怜美、丸下洋一、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「流れ-構造連成解析による人工血管内シャント吻合部下流の狭窄部位におけるシャント音に関する理論的検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、中根紀章、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による透析回路内血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	島崎直也、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いた透析用血液回路ピロー部の流れの可視化による血液凝固抑制の基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	山内 忍、島崎直也、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「透析用血液回路内における粒子画像流速測定法を用いた血液回路凝固過程可視化の基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	山内 忍、島崎直也、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三

「擬似血管狭窄モデルの狭窄下流における血流状態の可視化とシャント音の変化に関する実験的検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐々木一真, 外岡知沙, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音評価による呑気症スクリーニング検査方法の基礎検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐々木一真, 木村昌功, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「横波超音波センサを利用した血液回路内凝固の専属モニタリング方法の検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫, 井上結渚, 山内 忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた血液透析用穿刺針先端の圧力分布測定」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	橋怜美, 頼住啓一, 重岡未来, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「光センサを用いたPCPS 回路内で発生する血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング方法の検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	坂元英雄, 武部康介, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫
「エンドホール型ダブルルーメンカテーテルの脱血孔先端角度が再循環率に与える影響に関する実験的検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	大城寿乃, 滝川千恵美, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシャル型ダブルルーメンカテーテルの各種パラメータが再循環率に与える影響」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による透析回路内血液凝固の早期モニタリング方法の検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	島直也, 石上由佳, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用穿刺針先端部分における流れの流れ解析」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	頼住啓一, 丸下洋一, 橋怜美, 長谷川海斗, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Flow analysis of the tip of a hemodialysis puncture needle based on computational fluid dynamics”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Keiichi Yorizumi, Satomi Takahashi, Kaito Hasegawa, Youichi Marushita, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Quantitative evaluation of improvement of swallowing function by swallowing viscosity adjusted foods and carbonated beverages”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Non-invasive and continuous monitoring of blood coagulation in a dialysis circuit by wavelet transformation of blood flow sounds in blood circuit”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Basic study of the effect of distance between the arterial inlet and the venous outlet in a hemodialysis double lumen catheter on malpositioning”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Hisano Oshiro, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Non-invasive and continuous monitoring of blood clotting in a percutaneous cardiopulmonary support circuit using optical sensors”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato
“Pressure distribution measurement near the tip of the hemodialysis puncture needle using a pressure guide wire, and optimum shape”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Satomi Takahashi, Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“An investigation of the relationship between shunt murmur characteristics and fluid parameters based on shunt murmur measurement and particle image velocimetry flow analysis”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み-正規化相互相関係数導入による経時変化の定量化」	2014年3月12日	日本音響学会2014年春季研究発表会 (日本大学理工学部1号館)	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み-基準化持続時間導入による経時変化の定量化」	2014年3月12日	日本音響学会2014年春季研究発表会 (日本大学理工学部1号館)	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「複数狭窄病変を模擬した擬似血管狭窄モデルを用いたシャント音の時間-周波数解析と流れ解析」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	佐々木一真, 外岡知沙, 臼田豪, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「基準化持続時間を用いた非侵襲かつ定量的なバスキュラーアクセス機能評価法の検討」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「飲食物の粘度や性状の違いが嚥下音に与える影響に関する定量的評価の試み」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	木村昌功, 佐々木一真, 野田彩華, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「冠動脈狭窄モデルを用いた冠血流予備量比(FFR)に関する実験的検討」	2013年7月19日	桐蔭横浜・横浜総合病院 FFR セミナー with Dr.田中信大	桐蔭横浜大学BMEセンター
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「優秀演題賞」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	西川直也, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コメディカル賞(腎臓)」	2013年9月27日～29日	日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃, 高橋絢香, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Poster Session Award”	2013年10月26日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ASAIO 59th annual conference	2013年6月12日～17日	Chicago(米国)	
(その他特記事項)			
Clinical Engineering 編集協力者に就任、(2013年4月1日)			
日本医工学治療学会 第29回学術大会 一般演題 計測・診断・モニタリング2 座長、(2013年4月19日～21日)			
日本医工学治療学会 第30回学術大会 一般演題 計測・診断・モニタリング2 座長、(2014年3月21日～23日)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員

森下 武志 (もりした たけし) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専門分野：医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学、健康工学
 前職：神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学内役職等：入試広報副センター長 (2013～)
 留学：東京大学大学院知能機械情報学系研究科 情報システム工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 受賞・表彰：3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サンフランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2)医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3)福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
(4)医療系学生への工作機械を用いた機械加工学と体験的学習の指導	2013年4月～現在	医療系技術者育成における、工作物が製造されるまでの設計・製図・加工・評価の一連の流れを体験させ実践力を養う指導を実践
(5)医療系学生への工学的実験検証体験の指導	2014年4月～現在	座学で学ぶ工学的理論を、実験によって確認させることでより深い理解力を養う指導を実践
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:医用工学総論 I	2012年4月～現在	3段式の復習を実現する第2種ME技術実力検定試験対策指導テキストと問題の作成
(2)科目:工学WS I 実習教材	2012年4月～現在	各種計測機器、設計製図、機械加工、実験の評価を系統立てた実践的教材とテキスト開発
(3)科目:工学WS II 実習教材	2012年4月～現在	実験計測と誤差、および統計的処理方に関する、実践的テキスト開発と実験での体験教育
(4)科目:福祉工学	2013年4月～現在	高齢社会、障害者など一般社会人として医療技術者として有用な知識を検定試験形式での教育教材の開発と実践
(5)科目:基礎工学実験教材	2014年4月～現在	交流回路実験を通して、波形、回路、位相、ベクトル等を座学や国試験問題等の裏付けを実験的に検証する教材開発
(6)科目:医用電磁気学	2014年8月～現在	ME検定試験、国家試験の電気系全般に網羅する範囲を確実な資格試験対応力を養う演習教材の開発

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
医用システム統合学に関する研究：メカトロニクス技術と医療機器とを融合した体外循環装置の開発に関する調査研究 マシンインテリジェンスに関する研究：ロボット技術を応用した人工臓器開発に関する調査 福祉環境工学研究：高齢社会対策のための支援機器に関するシステムの開発に関する研究 健康工学に関する研究：科学技術の観点からアプローチする健康維持、美容・アンチエイジングに関する研究

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Integer Inverse Kinematics Method Using Fuzzy Logic	共著	2013年4月1日	In Journal of Intelligent Service Robotics, DOI 10.1007/s11370-012-0115-1, Springer	Takeshi MORISHITA , Osamu TOJO	pp101-108
単身高齢者見守りシステムと福祉社会構築法に関する提案	共著	2013年6月15日	桐蔭論叢, 第28号, ISSN1341-3805	津田裕也, 持田信二郎, 神奈川県高齡福祉課, 森下 武志	151-158頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
単身高齢者と地域をつなぐ社会の後押し支援システムの提案	2013年5月24日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'13 講演論文集, 2A1-C02	持田 信二郎, 津田裕也, 神奈川県高齡福祉課, 森下 武志		
単身高齢者と地域をつなぐ福祉社会の後押し支援システムモデルの検証	2013年9月4日	日本ロボット学会学術講演会'13 講演論文集, 2H3-1	持田 信二郎, 津田裕也, 神奈川県高齡福祉課, 森下 武志		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本ロボット学会、日本機械学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2011年7月～2013年4月	日本ロボット学会RSJ 「ロボット教育論文特集号」拡大査読委員会委員

石河睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランスデューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、人間工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助教
 留学：University of Southern California (USA) (2009年11月～2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業外における定期的な補講の実施	2011年4月～	物理学や電気工学の基礎に関する補講の実施
2.作成した教科書、教材、参考書		
実験系授業における教材	2011年4月～現在	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～現在	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
物理学、電気工学、人間工学におけるそれぞれの教材	2013年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
超音波内視鏡用および超音波顕微鏡用の小型高周波超音波プローブ、高周波超音波治療を実現する超音波トランスデューサの開発を行った。また、主幹技術となる圧電結晶膜の製膜について製膜プロセスを見直し、改善方法を提案した。それぞれの研究成果については超音波に関する主要な国内会議にて発表を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Composition dependency of crystal structure, electrical and piezoelectric properties for hydrothermally-synthesized 3μm-thickness (KxNa1-x)NbO3 films”	共著	2013年	Journal of Ceramic Society of Japan 121 (8)	Takahisa Shiraishi, Hiro Einichi, Shintaro Yasui, Mutsuo Ishikawa , Tomohito Hasegawa, Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida, Yukio Sakashita and Hiroshi Funakubo	pp.627-631
“Ferroelectric and Piezoelectric Properties of (K,Na)NbO3 Thick Films Prepared on Metal Substrates by Hydrothermal Method”	共著	2013年	Journal of the Korean Physical Society, Vol. 62, No.7	Takahisa Shiraishi, Hiro Einichi, Shintaro Yasui, Mutsuo Ishikawa , Tomohito Hasegawa, Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida, Yukio Sakashita and Hiroshi Funakubo	pp.1055-1059

“Small-strain(100)/(001)-oriented epitaxial PbTiO ₃ films with film thickness ranging from nano- to micrometer order grown on (100)CaF ₂ substrates by metal organic chemical vapor deposition”	共著	2013年	J. Mater. Res., Vol.28, No.5	Mohamed-Tahar Chentir, Satoru Utsugi, Takashi Fujisawa, Yoshitaka Ehara, Mutsuo Ishikawa , Titoshi Morioka, Tomoaki Yamada, Masaaki Matsushima Hiroshi Funakubo	p.696-701
“Growth of 130um thick epitaxial KNbO ₃ Film by Hydrothermal Method”	共著	2013年	Mater. Res. Soc. Symp. Proc. Vol.1494	Takahisa Shiraishi, Hiro Einichi, Mutsuo Ishikawa , Tomohito Hasegawa, Minoru Kurosawa, Hiroshi Funakubo	
“Growth of Epitaxial Potassium Niobate Thick Films by Hydrothermal Method and Their Electrical and Ferroelectrical Properties”	共著	2013年	桐蔭論叢 第28号	Mutsuo Ishikawa , Shinichi Takeuchi, Takahisa Shiraishi, Minoru Kurosawa and Hiroshi Funakubo	
(国際会議論文)					
“Effect of heat treatment on crystal structure and electrical properties for hydrothermally-synthesized epitaxial (K,Na)NbO ₃ films”	共著	2013年	International Symposium on Integrated Functionalities (ISIF 2013)	Takahisa Shiraishi, Mutsuo Ishikawa , Shintaro Yasui, Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida, Taisei Hirayama and Hiroshi Funakubo	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
(国際会議)					
“Growth of (K _x Na _{1-x})NbO ₃ Films by Hydrothermal Method and Their Crystal Structure”		2013年6月	The 30th Meeting on Ferroelectric Materials and Their Applications (FMA-30)	Takahisa Shiraishi, Noriyuki Kaneko, Mutsuo Ishikawa , Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida and Hiroshi Funakubo	
“Effect of heat treatment on crystal structure and electrical properties for hydrothermally-synthesized epitaxial (K,Na)NbO ₃ films”		2013年7月	International Symposium on Integrated Functionalities (ISIF 2013)	Takahisa Shiraishi, Mutsuo Ishikawa , Shintaro Yasui, Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida, Taisei Hirayama and Hiroshi Funakubo	
“Development of small ultrasonic probe using KNbO ₃ piezoelectric thin films”		2013年11月	Proceedings of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 34 (2013) pp. 139-140	S. Ishida, M. Hosaki, D. Kameyama, S. Ozeki, T. Shiraishi, H. Funakubo, M. Kurosawa, T. Yamaguchi, M. Ishikawa	
“Growth of Epitaxial KNbO ₃ Thin Films by Hydrothermal Method for Ultrasonic Transducers”		2013年11月	Proceedings of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 34 (2013) pp. 141-142	S. Ozeki, M. Hosaki, D. Kameyama, S. Ishida, T. Shiraishi, H. Funakubo, M. Kurosawa, M. Ishikawa	
(国内会議)					
「水熱合成(K _x Na _{1-x})NbO ₃ 膜の作製と結晶構造評価」		2013年6月	第30回強誘電体応用会議 (fma-30)	白石貴久, 金子祈之, 石河睦生 , 黒澤実, 内田寛, 舟窪浩	
「種々の温度で水熱合成したKNbO ₃ 膜の特徴」		2013年9月	第74回応用物理学会秋季学術講演会	金子 祈之, 白石貴久, 黒澤実, 石河睦生 , 内田寛, 舟窪浩	
「薬剤塗布を目的とした気相染色法の開発と基礎検討」		2013年	日本農芸化学会2013年大会	菅野匠、米山雄二、野口正孝、佐野元昭、川島徳道、小林聖人、下村美文、 石河睦生	
「薬剤塗布を目的とした気相染色法の開発」		2013年	2013年度色材研究発表会	菅野 匠、北村 唯、工藤 孝、米山雄二、野口正孝、川島徳道、下村美文、 石河睦生	
「KNbO ₃ 圧電結晶膜を用いたメカニカルスキャン用超音波プローブの開発」		2013年	日本音響学会 2013年度秋期研究発表会, pp.1233-1234	亀山大輔, 石田智美, 大関 誠也, 保崎 誠, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 竹内真一, 石河睦生	

「KNbO3結晶膜を用いた高周波超音波トランスデューサの開発」	2013年	日本音響学会 2013年度秋期研究発表会, pp.1165-1166	保崎 誠, 亀山大輔, 大関 誠也, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 美, 竹内真一, 石河睦生
「Development of ultrasonic atomization technology for antimicrobial with hinokitiol」	2013年10月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	菅野 匠, 北村 唯, 工藤 孝, 米山雄二, 野口正孝, 川島徳道, 下村美文, 石河睦生
「Needle Type Miniature Hydrophone with KNbO3 Film Deposited by Hydrothermal Method」	2013年10月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Y. Uchida, M. Saito, K. Miyuki, D. Kameyama, S. Ishida, M. Hosaki, S. Ozeki, T. Shisaishi, H. Funakubo, M. Kurosawa, M. Ishikawa
「KNbO3 Films Deposited by Improved Hydrothermal Method for Thickness Mode Ultrasonic Transducer」	2013年10月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	M. Saito, Y. Uchida, D. Kameyama, S. Ishida, S. Ozeki, M. Hosaki, T. Shisaishi, H. Funakubo, M. Kurosawa, M. Ishikawa
「Growth of Epitaxial KNbO3 Thin Films by Hydrothermal Method for Ultrasonic Transducers」	2013年10月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	M. Hosaki, S. Ozeki, D. Kameyama, S. Ishida, T. Shisaishi, H. Funakubo, M. Kurosawa, M. Ishikawa ,
「Development of small single element ultrasonic probe using KNbO3 piezoelectric thin films」	2013年10月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	D.Kameyama, S.Ishida, S.Ozeki, M.Hosaki, H.Funakubo, M.Kurosawa, T.Yamaguchi, M.Ishikawa
「Development of piezoelectric KNbO3 films for actuator materials」	2013年10月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takumi Kurahashi, Seiya Oozeki, Mutsuo Ishikawa
○講演会・研修会・セミナー 講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「高分解能メカニカルスキャン用超音波プローブの開発」についての招待講演	2013年6月10日	スマート・アクチュエータ/センサ委員会講演第99回定例会	東京工業大学附属高校
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「EVを用いた災害時緊急医療支援の検討」	2013年	三菱自動車株式会社	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本音響学会、精密工学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、材料技術研究協会、IEEE、MRS		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年8月～現在	NPO法人健康福祉工学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア「最先端医療機器を用いた手術の模擬体験のコーナー」	2013年7月13日	神奈川県教育委員会、財団法人神奈川科学技術アカデミー

本橋由香 (もとはし ゆか) 専任講師



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：生体音の時間-周波数解析に基づく非侵襲診断方法に関する研究-バスキュラーアクセス及び嚙下機能評価への適応-
 専門分野：生体計測、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 学内役職等：教務委員(2013～)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)
 受賞・表彰：桐蔭工学会賞(2007)
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>これまでの研究テーマについて継続的に研究成果を積み重ねるとともに、透析用穿刺針の最適形状を提案するための理論解析および実験的検証など臨床工学分野における新たな研究テーマを開拓している。医療従事者が日々の業務の中で感じるニーズを捉え、未来の医療へ貢献できるような医療機器開発を目指した研究成果は、国内外の学会(米人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会など)で報告し、医療従事者や工学研究者からも期待されている。2014年度も引き続き、実用化を視野に入れた研究活動を行う予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づいた非侵襲バスキュラーアクセス機能評価法の提案」	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	149-156頁
「ダブルルーメンカテーテルの最適設計を目的とした(Computer Aided Engineering:CAE)の導入(第2報:脱血-返血孔間距離が再循環率に与える影響)」	共著	2013年9月2日	医工学治療 Vol.25 No.2	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	71-78頁
「自動代表シャント音信号検出機能を備えたシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセスの機能評価法」	共著	2013年12月14日	医工学治療 Vol.25 No.3	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	200-210頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による回路内血液凝固の専属的検出方法の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	西川直也, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「粒子画像流速測定法を用いた血液凝固過程可視化の基礎検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		

「粒子画像流速法を用いた透析用血液回路ピロー部の流れの可視化による血液凝固発生要因の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	山内忍, 内田早紀, 西川直也, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いたPCPS回路における流れの可視化と非侵襲的血栓検出方法の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	坂元英雄, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫
「流れ-構造連成解析によるシャント音発生メカニズムの理論検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	中根紀章, 鈴木正明, 村上真広, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「シャント血管狭窄モデル内の流れの可視化によって求めた各種流体パラメータと狭窄に伴うシャント音の変化との関係」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	佐々木一真, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「CFDを用いたエンドホール型DLCの脱血孔角度が再循環率に与える影響に関する理論検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「DLCのへばりつき現象発生に影響を与える各種要因の定量的効果判定に関する試み」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記, 志戸田優, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「サイドホール型及びエンドホール型DLCの血管内留置位置の違いが再循環率に与える影響と流れの可視化」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記, 大城寿乃, 竹中雅登, 頼住啓一, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用穿刺針先端における圧力分布測定と穿刺針の加工による最適形状の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	頼住啓一, 高橋怜美, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Particle Image Velocimetry Visualization And Analysis Of Flow At The Tip Of Hemodialysis Needle”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Early Detection Of Blood Coagulation During Hemodialysis Using Non-Invasive Monitoring Of Blood Flow Sounds”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Naoya Nishikawa, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Proposal Of A Method For Noninvasive, On Going Monitoring Of Thrombus Formation Inside PCPS Circuits”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Fluid Parameters Affecting Changes In Shunt Murmurs Arising From Differences In Degree Of Stenosis”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 59th Annual Conference CHICAGO	Yuka Motohashi , Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「PIVを用いたピロー部の流れの可視化による回路内凝固発生要因の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	山内忍, 内田早紀, 西川直也, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデル内の流れの可視化により得られた各種流体パラメータとシャント音の関連性」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	佐々木一真, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象発生に関与する各種要因の定量化の試み」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	大城寿乃, 石垣秀記, 志戸田優, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテルの血管内留置位置の違いが再循環率に与える影響」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	竹中雅登, 大城寿乃, 石垣秀記, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用留置針先端付近における圧力分布測定と先端加工による最適形状の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	高橋怜美, 頼住啓一, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「血液回路内雑音のウェーブレット変換による回路内血液凝固の専属的検出方法の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	西川直也、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「血液透析用ダブルルーメンカテーテルの脱血-返血孔間距離がへばりつき現象の発生に与える影響に関する基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「再循環率に基づいたダブルアクシヤル型及びコアクシヤル型DLCの性能比較」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃、高橋絢香、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルを用いたシャント音測定とPIVによる流れ解析に基づいたシャント音の性質と流体パラメータの関係」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真、 本橋由香 、山内忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「時間-周波数解析に基づく飲食物の粘度が嚥下音に与える影響に関する定量的評価」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真、野田彩華、 本橋由香 、山内 忍、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音の時間-周波数解析による空気嚥下症の定量的評価」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真、木村昌功、 本橋由香 、山内 忍、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三
「光センサを用いたPCPS回路内で発生する血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	坂元英雄、武部康介、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫
「エンドホール型DLCの脱血孔開孔角度が再循環率に与える影響に関する理論的検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃、丸下洋一、滝川千恵美、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用穿刺針先端の圧力分布測定と穿刺針先端の最適形状の検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	高橋怜美、頼住啓一、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「CFD解析を用いた透析用穿刺針先端の最適設計の試み」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	頼住啓一、橋怜美、丸下洋一、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「流れ-構造連成解析による人工血管内シャント吻合部下流の狭窄部位におけるシャント音に関する理論的検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐藤敏夫、中根紀章、山内 忍、 本橋由香 、阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による透析回路内血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	島崎直也、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いた透析用血液回路ピロー部の流れの可視化による血液凝固抑制の基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	山内 忍、島崎直也、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「透析用血液回路内における粒子画像流速測定法を用いた血液回路凝固過程可視化の基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	山内 忍、島崎直也、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルの狭窄下流における血流状態の可視化とシャント音の変化に関する実験的検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	佐々木一真、外岡知沙、 本橋由香 、山内 忍、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音評価による吞気症スクリーニング検査方法の基礎検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	佐々木一真、木村昌功、 本橋由香 、山内 忍、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三
「横波超音波センサを利用した血液回路内凝固の専属モニタリング方法の検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫、井上結渚、山内 忍、 本橋由香 、阿岸鉄三

「圧力ガイドワイヤーを用いた血液透析用穿刺針先端の圧力分布測定」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	橋怜美, 頼住啓一, 重岡未来, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「光センサを用いたPCPS 回路内で発生する血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング方法の検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	坂元英雄, 武部康介, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫
「エンドホール型ダブルルーメンカテーテルの脱血孔先端角度が再循環率に与える影響に関する実験的検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	大城寿乃, 滝川千恵美, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの各種パラメータが再循環率に与える影響」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用穿刺針先端部分における流れの流れ解析」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	頼住啓一, 丸下洋一, 橋怜美, 長谷川海斗, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Flow analysis of the tip of a hemodialysis puncture needle based on computational fluid dynamics”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Keiichi Yorizumi, Satomi Takahashi, Kaito Hasegawa, Youichi Marushita, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Quantitative evaluation of improvement of swallowing function by swallowing viscosity adjusted foods and carbonated beverages”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Non-invasive and continuous monitoring of blood coagulation in a dialysis circuit by wavelet transformation of blood flow sounds in blood circuit”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Basic study of the effect of distance between the arterial inlet and the venous outlet in a hemodialysis double lumen catheter on malpositioning”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Hisano Oshiro, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Non-invasive and continuous monitoring of blood clotting in a percutaneous cardiopulmonary support circuit using optical sensors”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Pressure distribution measurement near the tip of the hemodialysis puncture needle using a pressure guide wire, and optimum shape”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Satomi Takahashi, Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“An investigation of the relationship between shunt murmur characteristics and fluid parameters based on shunt murmur measurement and particle image velocimetry flow analysis”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013 (桐蔭横浜大学)	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み-正規化相互相関係数導入による経時変化の定量化」	2014年3月12日	日本音響学会2014年春季研究発表会 (日本大学理工学部1号館)	佐々木一真, 本橋由香 , 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み-基準化持続時間導入による経時変化の定量化」	2014年3月12日	日本音響学会2014年春季研究発表会 (日本大学理工学部1号館)	佐々木一真, 本橋由香 , 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「複数狭窄病変を模擬した擬似血管狭窄モデルを用いたシャント音の時間-周波数解析と流れ解析」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	佐々木一真, 外岡知沙, 臼田豪, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「基準化持続時間を用いた非侵襲かつ定量的なバスキュラーアクセス機能評価法の検討」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	佐々木一真, 本橋由香 , 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「飲食物の粘度や性状の違いが嚥下音に与える影響に関する定量的評価の試み」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	木村昌功, 佐々木一真, 野田彩華, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「優秀演題賞」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会	西川直也, 山内忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コメディカル賞」	2013年9月27日～29日	日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 (パシフィコ横浜)	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Poster Session Award”	2013年10月26日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2013年1月1日～2014年12月31日	日本医工学治療学会 評議員

山内 忍 (やまうち しのぶ) 助教



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程修了
 学位：工学修士
 学位論文：透析回路内における血液凝固発生の抑圧を目的としたPIVによるドリップチャンバ内の流れの可視化と最適形状の提案
 専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「血液透析患者のシャント音の時間一周波数解析に基づいた非侵襲的バスキュラーアクセス機能評価法の提案」	共著	2013年6月1日	桐蔭論叢 第28号	本橋由香, 佐々木一真, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	149-156頁
「ダブルルーメンカテーテルの最適設計を目的とした(Computer Aided Engineering:CAE)の導入(第2報:脱血-返血孔間距離が再循環率に与える影響)」	共著	2013年9月2日	医工学治療 Vol.25 No.2	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	71-78頁
「自動代表シャント音信号検出機能を備えたシャント音の時間一周波数解析に基づくバスキュラーアクセスの機能評価法」	共著	2013年12月14日	医工学治療 Vol.25 No.3	本橋由香, 佐々木一真, 山内忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	200-210頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による回路内血液凝固の専属的検出方法の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	西川直也, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「粒子画像流速測定法を用いた血液凝固過程可視化の基礎検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「粒子画像流速法を用いた透析用血液回路ピロー部の流れの可視化による血液凝固発生要因の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	山内忍, 内田早紀, 西川直也, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「粒子画像流速測定法を用いたPCPS回路における流れの可視化と非侵襲的血栓検出方法の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	坂元英雄, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫		
「流れ-構造連成解析によるシャント音発生メカニズムの理論検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	中根紀章, 鈴木正明, 村上真広, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「シャント血管狭窄モデル内の流れの可視化によって求めた各種流体パラメータと狭窄に伴うシャント音の変化との関係」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		

「CFDを用いたエンドホール型DLCの脱血孔角度が再循環率に与える影響に関する理論検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	丸下洋一, 石垣秀記, 中根紀章, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「DLCのへばりつき現象発生に影響を与える各種要因の定量的効果判定に関する試み」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記, 志戸田優, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「サイドホール型及びエンドホール型DLCの血管内留置位置の違いが再循環率に与える影響と流れの可視化」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	石垣秀記, 大城寿乃, 竹中雅登, 頼住啓一, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用穿刺針先端における圧力分布測定と穿刺針の加工による最適形状の検討」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会 (パシフィコ横浜)	頼住啓一, 高橋怜美, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Particle Image Velocimetry Visualization And Analysis Of Flow At The Tip Of Hemodialysis Needle”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 59th Annual Conference CHICAGO	Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Early Detection Of Blood Coagulation During Hemodialysis Using Non-Invasive Monitoring Of Blood Flow Sounds”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 59th Annual Conference CHICAGO	Naoya Nishikawa, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Proposal Of A Method For Noninvasive, On Going Monitoring Of Thrombus Formation Inside PCPS Circuits”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 59th Annual Conference CHICAGO	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato
“Fluid Parameters Affecting Changes In Shunt Murmurs Arising From Differences In Degree Of Stenosis”	2013年6月12日 (～15日)	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 59th Annual Conference CHICAGO	Yuka Motohashi, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「PIVを用いたピロー部の流れの可視化による回路内凝固発生要因の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	山内忍 , 内田早紀, 西川直也, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデル内の流れの可視化により得られた各種流体パラメータとシャント音の関連性」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	佐々木一真, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象発生に関与する各種要因の定量化の試み」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	大城寿乃, 石垣秀記, 志戸田 優, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「ダブルルーメンカテーテルの血管内留置位置の違いが再循環率に与える影響」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	竹中雅登, 大城寿乃, 石垣秀記, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用留置針先端付近における圧力分布測定と先端加工による最適形状の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	高橋怜美, 頼住啓一, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による回路内血液凝固の専属的検出方法の検討」	2013年6月20～23日	第58回日本透析医学会 学術集会・総会(福岡国際会議場他)	西川直也, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用ダブルルーメンカテーテルの脱血-返血孔間距離がへばりつき現象の発生に与える影響に関する基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「再循環率に基づいたダブルアクシャル型及びコアクシャル型DLCの性能比較」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルを用いたシャント音測定とPIVによる流れ解析に基づいたシャント音の性質と流体パラメータの関係」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「時間-周波数解析に基づく飲食物の粘度が嚥下音に与える影響に関する定量的評価」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真, 野田彩華, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音の時間-周波数解析による空気嚥下症の定量的評価」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐々木一真, 木村昌功, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「光センサを用いたPCPS回路内で発生する血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	坂元英雄, 武部康介, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫
「エンドホール型DLCの脱血孔開孔角度が再循環率に与える影響に関する理論的検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	大城寿乃, 丸下洋一, 滝川千恵美, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた透析用穿刺針先端の圧力分布測定と穿刺針先端の最適形状の検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	高橋怜美, 頼住啓一, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「CFD解析を用いた透析用穿刺針先端の最適設計の試み」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	頼住啓一, 橋怜美, 丸下洋一, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「流れ-構造連成解析による人工血管内シャント吻合部下流の狭窄部位におけるシャント音に関する理論的検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	佐藤敏夫, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「血液回路内雑音のウェーブレット変換による透析回路内血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法を用いた透析用血液回路ピロー部の流れの可視化による血液凝固抑制の基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	山内 忍, 島崎直也, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「透析用血液回路内における粒子画像流速測定法を用いた血液回路凝固過程可視化の基礎検討」	2013年9月27～29日	第51回日本人工臓器学会大会(パシフィコ横浜)	山内 忍, 島崎直也, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「擬似血管狭窄モデルの狭窄下流における血流状態の可視化とシャント音の変化に関する実験的検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	佐々木一真, 外岡知沙, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「炭酸飲料嚥下時の嚥下音評価による吞気症スクリーニング検査方法の基礎検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	佐々木一真, 木村昌功, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三
「横波超音波センサを利用した血液回路内凝固の専属モニタリング方法の検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	佐藤敏夫, 井上結渚, 山内 忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「圧力ガイドワイヤーを用いた血液透析用穿刺針先端の圧力分布測定」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	橋怜美, 頼住啓一, 重岡未来, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「光センサを用いたPCPS回路内で発生する血液凝固の非侵襲かつ連続モニタリング方法の検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	坂元英雄, 武部康介, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫
「エンドホール型ダブルルーメンカテーテルの脱血孔先端角度が再循環率に与える影響に関する実験的検討」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	大城寿乃, 滝川千恵美, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシャル型ダブルルーメンカテーテルの各種パラメータが再循環率に与える影響」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会(神奈川県産業技術センター)	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「血液透析用穿刺針先端部分における流れの流れ解析」	2013年10月23～25日	平成25年度神奈川県ものづくり技術交流会 (神奈川県産業技術センター)	頼住啓一, 丸下洋一, 橋怜美, 長谷川海斗, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Flow analysis of the tip of a hemodialysis puncture needle based on computational fluid dynamics”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013(桐蔭横浜大学)	Keiichi Yorizumi, Satomi Takahashi, Kaito Hasegawa, Youichi Marushita, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Quantitative evaluation of improvement of swallowing function by swallowing viscosity adjusted foods and carbonated beverages”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013(桐蔭横浜大学)	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Non-invasive and continuous monitoring of blood coagulation in a dialysis circuit by wavelet transformation of blood flow sounds in blood circuit”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013(桐蔭横浜大学)	Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Basic study of the effect of distance between the arterial inlet and the venous outlet in a hemodialysis double lumen catheter on malpositioning”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013(桐蔭横浜大学)	Hisano Oshiro, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Non-invasive and continuous monitoring of blood clotting in a percutaneous cardiopulmonary support circuit using optical sensors”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013(桐蔭横浜大学)	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato
“Pressure distribution measurement near the tip of the hemodialysis puncture needle using a pressure guide wire, and optimum shape”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013(桐蔭横浜大学)	Satomi Takahashi, Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“An investigation of the relationship between shunt murmur characteristics and fluid parameters based on shunt murmur measurement and particle image velocimetry flow analysis”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013(桐蔭横浜大学)	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試みー正規化相互相関係数導入による経時変化の定量化」	2014年3月12日	日本音響学会2014年春季研究発表会 (日本大学理工学部1号館)	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試みー基準化持続時間導入による経時変化の定量化」	2014年3月12日	日本音響学会2014年春季研究発表会 (日本大学理工学部1号館)	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「複数狭窄病変を模擬した擬似血管狭窄モデルを用いたシャント音の時間-周波数解析と流れ解析」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	佐々木一真, 外岡知沙, 臼田豪, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「基準化持続時間を用いた非侵襲かつ定量的なバスキュラーアクセス機能評価法の検討」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「飲食物の粘度や性状の違いが嚥下音に与える影響に関する定量的評価の試み」	2014年3月21日～23日	日本医工学治療学会 第30回学術大会 (ウインクあいち)	木村昌功, 佐々木一真, 野田彩華, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「優秀演題賞」	2013年4月19日～21日	日本医工学治療学会第29回学術大会	西川直也, 山内忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Poster Session Award”	2013年10月26日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012	
「コメディカル賞」	2013年9月27日～29日	日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 (パシフィコ横浜)	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
ASAIO 59th annual conference	2013年6月12日～15日	Chicago (米国)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

井筒次郎 (いづつ じろう) 教授



出生年 : 1949(昭和24)年
在籍 : 2008(平成20)年4月～
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育研究科修了
学位 : 修士(体育学)
学位論文 : 横浜市における社会体育の振興に関する調査研究
専門分野 : スポーツ教育学、保健体育科教育学、安全教育学
前職 : 流通経済大学スポーツ健康科学部教授

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
保健体育科教育法	2009年9月～	体育・スポーツ専攻学生のための体育科教育法、保健科教育法講義用教科書。学習指導要領の改訂に伴って新たに出版されて。高等学校の「陸上競技」の部分執筆。106-109頁
「学校安全」講義資料	2011年9月～	教職必修科目である「学校安全」16回分の教材を冊子として作成。110頁

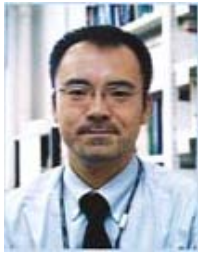
II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2013年度の研究活動を継続					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「学校教育辞典」	共著	2014年3月	教育出版	今野喜清、小嶋邦宏他 300名	6項目執筆

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年9月～現在	日本安全教育学会監事
2007年4月～現在	(財)日本学校保健会健康教育推進学校表彰審査委員会委員

角 替 弘 規 (つのがえ ひろき) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：1997(平成9)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程教育学研究科
 学位：修士(教育学)
 学位論文：イギリスの大学における学術研究体制に関する研究－教育改革以降の財源配分方法を中心に－
 専門分野：教育社会学
 資格：高等学校教諭一種免許状(英語)
 中学校教諭一種免許状(英語)
 非常勤講師：金沢大学(2000)、国立音楽大学(2002～2008)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教職課程科目「総合演習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	「総合演習」においては常に教育実践を念頭において、学生たちに自ら考えさせ知的活動をさせることを念頭において授業を展開できるよう配慮している。「総合演習」では学生数名(2～6名)のグループをつくり、環境問題や青少年文化等それぞれの関心に応じてテーマを設定させ、授業形式の発表を行わせることによって教材研究の方法や討議の方法、発表の仕方などを身につけさせるようにしている。テーマ設定においてはワークショップ的な作業を行わせることによって関心とテーマの明確化やテーマに関する資料収集、調査の計画立案を効率的に立てられるよう工夫した。また個別に学生の事前の発表準備などの相談にのり、教材研究の方法に関するアドバイスなどを行っている。
教職課程科目「事前・事後指導」「教育実習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	教職課程科目「事前事後指導」は教育実習に先立って行われる演習形式の授業である。最初の段階では教育実習についての視聴覚教材を視聴させ教育実習の具体的なイメージを抱かせ、かつそれに対する心構えを形成させている。続いて、各学生が取得しようとする教員免許の教科に対応した指導案の作成を指導する。また生徒の問題行動への対応、実践的な内容に焦点を絞ったディスカッションを行い実習に備えている。「事後指導」は教育実習後に行われるが、ここでは各学生の教育実習における体験の共有化を目標として、各学生から教育実習の様々な側面からの反省点を互いに議論させ、自らの実習の総括と全体への位置づけを行っている。「教育実習」においてはその一環として、他の担当教員と分担し訪問指導を例年行っている。訪問指導は原則として首都圏の受け入れ校について行っているが、可能な限り全学生を訪問できるように努力している。実習先では学生の研究授業(あるいは通常の授業)の参観を行い、また反省会にも同席するなどして、学生の指導を入念に行うよう心がけている。
大学における授業評価の結果 教育上の能力に関する大学等の評価 学生による授業評価の結果	2005年4月～現在	毎年度半期ごとに行われる学生による授業評価によれば、講義内容や授業の進め方について学生から高い評価を得ている。より具体的には、説明の仕方について、身近な具体例や自分自身の体験談を交えながら説明している点や、より難解な語句や概念の説明について多くの時間を割いていること等である。 非常勤講師として勤務していた国立音楽大学における学生による授業評価においても、授業内容や授業方法についてきわめて高い評価を受けていた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
講義での使用教材	2005年4月～現在	一般教育科目「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」、教職課程科目「教育原理」「教育制度論」の講義を主たる方法とした授業においては、毎回の授業ごとに、講義の流れとポイントを明記したB5およびA4サイズのプリントを作成し、学生に配付している。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2012年度で終了したフィリピン系ニューカマーに関する研究を継続して行うため、大和市立柳橋小学校国際教室におけるフィールドワークを継続した。また、外国人支援団体における外国籍の子どもの学習支援にも携わりながら、2014年度以降の科研費獲得に向けての準備を行った。					
○著書・論文等					
(学術論文)					
「フィリピン系ニューカマー家族の教育戦略—母国親族の教育意識と日本における教育戦略—」	単著	2013年6月15日	桐蔭論叢第28号	—	127-135頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本教育社会学会、日本高等教育学会、日本比較教育学会、日本教育制度学会、筑波大学教育学会、日英教育学会、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2007年4月～現在	NPO法人日本ペルー共生協会(AJAPE)会員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大和市立引地台中学校放課後教室支援員(学校ボランティア)	2011年4月～	大和市立引地台中学校
外国人児童生徒に対する学習支援ボランティア	2012年5月～	NPO法人教育支援グループEd.ベンチャー

松原 静郎 (まつばら しずお) 教授



出生年：1951(昭和26)年2月
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了
 学位：理学修士
 学位論文：「鉄-57およびスズ-119を含む化合物のメスバウアー分光学的研究」(修士論文)
 専門分野：科学教育、化学教育
 前職：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
 学内役職等：学務部副部長 (2012～)
 留学：オーストラリア教育研究所(オーストラリア)(1985.8-1986.6)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(理科), 高等学校教諭二級普通免許状(理科)
 非常勤講師：東京理科大学大学院科学教育研究科
 受賞・表彰：日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞(1988年7月)
 日本科学教育学会「年会発表賞」受賞(2007年8月)
 日本化学会「化学教育賞」受賞(2010年3月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
組立ブロックによる表現力育成に関する活動	2009年4月～現在	組立ブロックを用いて組み立てた形を、絵や文字で示し、他の人がそれを読んで同じものを再現する活動を行った。自分の表現方法を評価するとともに、再現に重要な点を確認した。重要な点は、科学におけるレポートの記載にも通じると考えている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
持続可能な発展に関する教材(プリント)	2008年4月～現在	持続可能な発展を目指した科学技術のあり方について、発電を題材として考察する。水力発電から火力発電、原子力発電、新エネルギーへと発電方法が広がっていく過程を知ることで、その過程がそれぞれの発電の問題点を積極的に解決していく努力によるものであることを理解し、自らの判断・意思決定や活動について考察していくとともに、次世代のことも考慮に入れる必要性について理解する。
理科の世界(大日本図書;文部科学省検定済中学校理科教科書)	2012年～現在	第一分野の「粒子」を柱とした内容に関して、構成、プロット、観察、実験活動、解説など、全般にわたって関与している。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
<p>科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1)学習教材の実践、改訂:大気汚染対策教材での「グリーンケミストリーの考えを使う」ことは概ねできていたが、説得力を持たせる記述で改善の余地があり、科学的な考え等を基に概念モデルを構築し、それに続く一連の過程を説得力の育成として利用した。(2)センサを用いた実験等に関する実践:4道県の教育センターで高橋式酸素センサ等の活用事例の研究と学校での授業等での実践をした。また、酸素/二酸化炭素センサの読み上げ機能を使い、視覚障害者を対象とした実践では、生徒の反応が非常によく、活用できることが明らかになった。(3)科学的態度の育成:科学的な考えを基にした概念モデルの構築、実験計画、実験活動、科学的な考察とまとめ、新たなモデルの構築という一連の過程を定型とし、多くの生徒が扱えるモデル化学習の検討を進めた。(4)アジア諸国との協働研究:9月に東京地区で国際ワークショップを開催し、3か国の教育関係者が参加した。モデル化学習の報告と検討を進めるとともに、教材について体験した。また、フィリピンから一枚ポートフォリオ評価法のフィリピン版活用の試みについて発表があった。なお、フィリピンでは現在教育制度の移行中で、新教育課程に大気汚染対策教材の内容が取り入れられている旨の報告があった。</p> <p>そのほか、高等学校において総合理科学科目が誕生した経緯とその変遷、さらにはあり方について検討を行った。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集」	共編著	2013年11月25日	オーム社	松原静郎、岩間淳子編	解答・解説1-3頁、41-44頁、51-58頁
(学術論文)					
「生物教育サポートシステムの活用に向けた実践—初等教育教員養成科目における「魚の解剖」を例に—」	共著	2013年4月30日	生物教育、53巻4号	岩間淳子、松原静郎、鳩貝太郎	245頁
“Implementation of 2012 International Workshop on Educational Co-research for Sustainability”	共著	2013年6月15日	Reseach Bulletin No.28	MATSUBARA Kenji, Roslinda BT ITHNIN, GOTO Kenichi, TERATANI Shousuke and MATSUBARA Shizuo	pp.143-148
「『動物の体のつくりと働き』に関する総合的な理解に影響を及ぼす諸因子の因果モデル—直接経験及び間接経験的な観察・実験を起点として—」	共著	2013年7月19日	理科教育学研究、54巻1号	古澤陽介、松原静郎、岩間淳子、稲田結美、谷友和、小林辰至	71-81頁
「もう一つの大学入学制度-国際的な大学入学資格制度-」	単著	2013年7月20日	化学と教育、61巻7号	—	328頁
「中学校理科における植物教材の適切性—生物多様性及び生命の連続性の理解に向けて—」	共著	2013年11月27日	理科教育学研究、54巻2号	岩間淳子、松原静郎、小林辰至	161-170頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「授業研究・学習指導」座長	2013年8月10日	日本理科教育学会第63回全国大会(北海道大学札幌キャンパス)	—		
「理科教育における体験を通じた生命理解と生命観育成—体験と生命観に関する中学生の調査結果—」	2013年8月10日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第11号、207頁、第63回全国大会(北海道大学)	岩間淳子、松原静郎、荘司隆一、平田豊誠、小林辰至		
「組立ブロックを用いた表現法学習」	2013年8月10日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第11号、150頁、第63回全国大会(北海道大学)	松原静郎、鮫島朋美、後藤頭一、寺谷徹介		
「モデル化学習の考察」	2013年8月10日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第11号、194頁、第63回全国大会(北海道大学)	寺谷徹介、北川輝洋、久保博義、宮内卓也、後藤頭一、松原静郎		
「ろうそくの消炎実験におけるモデル化学習の実践」	2013年8月10日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第11号、196頁、第63回全国大会(北海道大学)	鮫島朋美、寺谷徹介、後藤頭一、松原静郎		
「高橋式酸素センサを使った理科教育における教材開発—過酸化水素水の分解反応における経時変化—」	2013年8月10日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第11号、187頁、第63回全国大会(北海道大学)	高橋三男、青山陽子、菌部幸枝、佐藤道幸、柳澤秀樹、飯田寛志、大平和之、鈴木華奈子、林誠一、三木勝仁、後藤頭一、山本勝博、堀哲夫、寺谷徹介、松原静郎		
「視覚障がい児童生徒への酸素/二酸化炭素センサを用いた学習—音声出力機能—グラフ表示機能の活用—」	2013年8月11日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第11号、329頁、第63回全国大会(北海道大学)	高橋晋司、内田由貴、千葉秀輝、小倉健太、秋山卓也、三木勝仁、高橋三男、松原静郎		
「大気汚染対策教材英語版でGSCを活用するワークシートの実践」	2013年8月11日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第11号、362頁、第63回全国大会(北海道大学)	野内頼一、後藤頭一、寺谷徹介、松原静郎		

「『相互評価表』を活用した高校化学授業実践-未知気体を判断する-」	2013年8月11日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第11号、383頁、 第63回全国大会 (北海道大学)	北川輝洋、飯田寛志、 松原静郎 、 後藤顕一
“Significance of Bioethics in Science Education: Opinions of Japanese University Students about Issues of Bioethics”	2013年9月6日	European Science Education Research Association, p.127, ESERA 13 Conference, University of Cyprus (三重大学)	IWAMA Junko, MATSUBARA Shizuo , HATOGAI Taro and UMEMO Kunio
「音声出力機能付無線型CO2測定器の教具開発-生椎茸の呼吸によるCO2濃度の経時変化-」	2013年9月8日	日本科学教育学会年会論文集第37号、391-392頁、日本科学教育学会第37回年会(三重大学)	高橋三男、青山陽子、堤博貴、川島徳道、羽田宣弘、間々田和彦、 松原静郎 、神澤雅典、中嶋紀夫、皆川藤孝
「PIE(Peer Instructing education)の発案と実践」	2013年11月9日	日本理科教育学会第52回関東支部大会(筑波大学)、研究発表要旨集、42	柳澤秀樹、寺谷敬介、後藤顕一、 松原静郎
「生活科における体験を通じた生命理解と生命観育成—生物教材「はな」と「やさしい」の栽培を例に—」	2013年11月9日	日本理科教育学会第52回関東支部大会(筑波大学)、研究発表要旨集、54頁	岩間淳子、 松原静郎
「生命及び生物多様性理解のための解剖実習の意義」	2014年1月11日	日本生物教育学会第94回全国大会(筑波大学)、予稿集、p.22	岩間淳子、小林辰至、 松原静郎 、鳩貝太郎
「ヨーロッパ科学教育学会隔年会議(ESERA13)報告」	2014年1月12日	日本生物教育学会第94回全国大会(筑波大学)、予稿集、p.67	岩間淳子、 松原静郎 、鳩貝太郎、梅埜國夫
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「科学の有用性を意識させ科学的な態度を育成する持続発展教材の国際協働研究」	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号23300292)研究代表者	
「化学実験レポート作成における「相互評価表」を活用した表現力育成に関する実証的研究」	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号23501087)研究分担者	
(その他特記事項)			
Fourth International Workshop of Science Education for Sustainable Developmentの開催(University of Philippines, Philippine Normal University, University of Malaya等より外国人研究者及び教育関係者4名参加) 2013年9月7-11日			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会、教科「理科」関連学会協議会委員	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～2014年9月	日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会 委員
2014年4月～2015年3月	国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査 国内専門委員
2013年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会 化学教育フォーラム企画小委員会 委員
2011年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会委員
2011年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 学校教育委員会 化学教育カリキュラム構築小委員会委員
2012年7月～現在	日本科学教育学会 評議員
2007年4月～現在	日本理科教育学会 評議員
2007年4月～現在	教科「理科」関連学会協議会 委員(日本理科教育学会代表)
2013年7月～現在	教科「理科」関連学会協議会 議長
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 特別研究員
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 企画運営部会及び理科部会 委員

松 本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出生年：1952(昭和27)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専門分野：体育科教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ教育学科長 (2012～)
 資格：保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非常勤講師：桜美林大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略			
小学校1年から高校3年まで毎年指導する唯一の体育領域「体づくり運動」について、その実践的研究成果を各都道府県の代表者に対して「体力向上指導者養成研修会」(教員研修センター主催)の場で指導する機会があった。加えて、小学校現場でその効果的な指導方法について最も望まれている「器械運動」領域の研修会で、これまでの研究成果をいくつかの自治体で紹介することができた。平成26年度4月より文部科学省で器械運動の指導資料(第10集)の作成が始まったが、小学校部会の担当として参画している。また、学会および研究会にも理事や会員として積極的に参加し、特に小学校体育の教科書の必要性について、意見発表や質問を通して訴えてきた。平成26年度より予備調査も含めて具体的な検討に入った教科書作成に向けて、多様なりとも貢献できたのではないかと考えている。体づくり運動および器械運動の内容と指導の検討、小学校体育科の教科書問題については引き続き本年も力を注ぎたい。			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「体力向上指導者養成研修会」 小学校「体づくり運動」講師	2013年5月14日～ 17日	教員研修センター主催・文部 科学省後援	西日本地区(沖縄県)
全国体育研究連合会全国大会 体づくり運動(中学年)事前指導、大会での講演	2013年5月23日 2013年6月18日 2013年11月15日	全国体育研究連合会	杉並区立天沼小学校
東京都小学校体育研究会 港区研究部会 授業研究会講師	2013年7月3日 2013年12月4日 2014年1月15日	東京都小学校体育研究会	港区立港南小学校
「沖縄県平成25年度・体育指導改善講習会」 講師	2013年7月25日～ 26日	沖縄県教育委員会主催	体育授業の講演、および体づくり 運動の実技講習講師
学校体育研究連合会・夏期実技講習会 「器械運動」指導担当	2013年7月29日	学校体育研究連合会 主催	東京都・ 千代田区立昌平小学校
筑波学校体育研究会・夏期研修会	2013年8月1日～2 日	筑波学校体育研究会主催	東京・筑波大学附属小学校
平成25年度広島県学校体育スポーツ研修会 「器械運動の具体的指導法」	2013年8月21日	広島県教育委員会	広島県立総合体育館

鹿児島県教育委員会 平成25年度「たくましい“かごしまっ子”」育成 推進フォーラムでの講演	2013年8月23日	鹿児島県教育委員会	かごしま県民交流センター
宮崎県小学校体育研究会・秋季研修会 「体づくり運動」講師	2013年10月26日	宮崎県小学校体育研究会	宮崎市立加納小学校
富山県小学校教育課程研究集会体育部会 研究授業参観および授業作りについての講 演	2013年11月6日・7 日	富山県教育委員会	富山県入善町立飯野小学校 高岡市立中田小学校
八千代市教育研究会・小学校体育部会 「器械運動の指導法」講師	2014年2月19日	八千代市教育委員会	八千代市立勝田台小学校
○その他			
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
スポーツの秋スペシャル 「楽しく体を動かそう！体力づくりゲーム	2013年11月号	学研エデュケーショナル教育情報新聞	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2014年4月～現在	研筑波学校体育研究会理事	
2012年4月～現在	日本スポーツ教育学会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
宮崎小学校での体づくり運動の指導 1年生6学級・2年生6学級(計12時間)	2014年1月17日～1月24 日	川崎市教育委員会

宮津大蔵 (みやづ だいぞう) 教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学教育学部卒業
 専門分野：国語科教育学
 前職：東京都新宿区立余丁町小学校教諭
 非常勤講師：東京家政学院大学現代生活学部

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
文部科学省後援事業 日本語検定公式練習問題集改訂版6級)小学校国語指導資料 新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫 文部省		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業 座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師		

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表会記念講演講師「表現力の育成」、東京都世田谷区教育委員会研究課題校世田谷区立玉川小学校国語授業研究会講師、東京都東村山市教育研究会指導講師、静岡県伊東市教育研究会講演講師					
○著書・論文等					
(著書)					
日本教材学会「教材辞典」	共著	2013年10月	日本教材学会		
(総説・論説)					
日本教材学会「教材辞典」	共著	2013年10月	日本教材学会		総論「国語教育の方法」69-71頁、「指導内容・方法」(随筆・詩歌)86-87頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
平成24年度、25年度神奈川県座間市教育委員会研究課題校座間市立東原小学校研究会講師	2012年4月～ 2014年3月	座間市教育委員会	座間市立東原小学校		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、表象文化論学会

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
学位：修士(体育科学)
学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察－世界
トップレベルのセット・オフENSEの傾向－
専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

スペイン指導者育成、強化法に関して、スペイン協会にて出向いて調査(インタビュー)した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、スポーツ方法学会

任期、活動期間等

2006年10月～現在

学会・機関・団体等における役職等

公認バスケットボール上級コーチ

谷本直美 (たにもと なおみ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：教育学
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長 (2013～)
 資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭2種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：東京学芸大学附属竹早小学校(音楽) 早稲田大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～現在	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3～4レベルに編曲し、学生が自分のピアノ経験にあったレベルを選択して練習を始められるような教材を準備した。さらに演奏能力に差がある学生が1つの曲を合奏できるよう、パート毎に難易度を変えて編曲し、合わせる楽しさを経験して音楽指導に前向きになれるような教材を作成した。学生授業評価は2013年度後期3.95であった。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもたうえて模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。学生授業評価は2011年度前期平均値3.84、2012年度後期3.80であった。
小学校における読み聞かせ体験	2010年6月～現在	ゼミ履修学生(3年)に子どもたちの前に立つ体験として、読み聞かせの機会を近隣小学校にいただいている。毎年「なぞなぞライオン」を扱い、なぞなぞやしりとりを通して子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする体験をさせ、児童理解と指導体験の機会としている。その発展として7月に行われる同小学校における保護者会主催の全校お楽しみ会にも読み聞かせで有志が参加し、自分達で作品を選び、脚色も加えながら練習を積んで臨んでいる。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
小学校音楽科における「グラウンド・ルール」に着目し、授業中の教師と子どもの間でどのように共有されているか、もしくはされていないかについて授業を参観・撮影して解釈的分析を行い、その結果を8月の日本学校音楽教育実践学会にて口頭発表した。その後さらに授業を加えて比較し、音楽科のグラウンド・ルールを5つ抽出してまとめ、紀要論文として桐蔭論叢に発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
音楽の授業におけるグラウンド・ルールの共有について	単著	2014年3月	日本学校音楽教育実践学会紀要2014vol.18	-	
「子どもが主体的に取り組む音楽の授業を支えるグラウンド・ルールと教師の関わり」ー小学校2年生の事例をもとにー	単著	2014年3月	桐蔭論叢第30号	-	

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(口頭発表) 音楽の授業におけるグラウンド・ ルールの共有について	2013年8月18日	第18回日本学校音楽教育実 践学会 (お茶の水女子大学/東京)	-

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立鉄小学校において卒業式音楽伴 奏	2014年3月17日	横浜市立鉄小学校

徳田英次（とくだ ひでじ）准教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：2004(平成16)年4月～
最終学歴：筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻中退
学位：修士(心理学)
学位論文：覚醒度変化が注意機能に及ぼす影響－主観的覚醒度2因子モデルからの検討(未公刊)
専門分野：臨床心理学
前職：東京成徳大学文学部講師

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、日本カウンセリング学会、日本催眠医学心理学会、日本心理臨床学会、Society for Clinical and Experimental Hypnosis	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	日本催眠医学心理学会広報委員

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師

出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位：修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文：演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 -1931-45年の日本における体育的身体論を射程として-(教育学)
 専門分野：スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職：筑波大学大学院博士課程
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段
 受賞・表彰：平成23年度第9回茗溪会顕彰

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2013年度は、学術論文を1編作成し、学会発表を1回実施した。 【学術論文1】 体育・スポーツ科学における「持続可能な開発のための教育(ESD)」をめぐる研究動向(『桐蔭論叢』第29号) 1980年代に登場した「持続可能な発展(開発; Sustainable Development, SD)」の理念はその後深化・拡充し、国際的に共有されてきた。しかしながら、学校体育におけるESDに配慮した実践事例は、ほぼ皆無であるのが現状である。そこで、わが国の体育・スポーツ科学における環境問題の研究動向を明らかにすることを試みた。 【学会発表1】 体育・スポーツ科学における環境問題の研究動向 内容は上記論文を参照。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
体育・スポーツ科学における「持続可能な開発のための教育(ESD)」をめぐる研究動向 -ESDに配慮した「体育理論」の授業づくりに向けて-	単著	2013年9月29日	桐蔭論叢第29号	-	31-38頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
体育・スポーツ科学における環境問題の研究動向 -「持続可能な開発のための教育(ESD)」に配慮した学校体育の授業づくりに向けて-	2013年10月19日	神奈川体育学会第17回大会(神奈川県横浜市)	-		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川体育学会、日本体操学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたま小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～(毎週火・木2コマ)	団体等名称: 体操教室

箱崎 (李) 禧承 (はこぎき(い) ひすん) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究(博士論文)
 専門分野：教育工学、教育方法学、教育学
 前職：筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 留学：筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資格：中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非常勤講師：筑波大学、釧路公立大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
新教職教育講座 第3巻『学校教育のカリキュラムと方法』第3章 第1節 インストラクショナルデザインと学習指導	2013年12月21日	効果的・効率的・魅力的な授業づくりのための手法として注目される「インストラクショナル・デザイン」(ID)について、その理論及び必要性について解説した。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
教科特性と関連したデジタル教科書(DT)・ICTの利活用の可能性について社会科と体育科に焦点をあてて検討した。まず、社会科については、社会科固有の授業理論から導出した学習指導上の課題として、①「価値判断」の学習指導のための教材の提供は不可欠であること、②「価値判断」の学習指導のための指導方法が必要であること、の2点を抽出し、DTの特筆すべき機能の「豊富な情報提供」と「学習の指導・管理」からの支援可能性を指摘した【論文投稿及び学会発表】。次に、体育科については、運動技能の習得が不可欠である体育科の教科特性から、①運動技能が手続き的知識であり、言語による説明では習得が難しく、指導内容をイメージ化する必要があること、②Dale, E.の「経験の円錐」に基づくと、実技指導におけるICT活用は一般的な教科指導で行われる抽象的な経験に具体的な経験を加えるための視聴覚教具・教材の利用ではなく、その逆の場合であること、③体育の実技指導におけるICT活用の実践例からも②が確認できたこと、の3点を指摘した【論文投稿】。 また、上述の成果に基づき、2014年度の研究課題として、DT利用の授業分析を実施して教師の教授事象の特徴を捉えることとし、その結果を学会発表と論文投稿で発信する計画をたてた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
新教職教育講座 第3巻『学校教育のカリキュラムと方法』第3章 第1節 インストラクショナルデザインと学習指導	共著	2013年12月1日	協同出版	田中統治・大高泉編	257-266頁
(学術論文)					
社会科におけるデジタル教科書の利用可能性		2013年6月15日	桐蔭論叢 第28号	桐蔭横浜大学	61-67頁
体育授業におけるICT活用の利用可能性を探る—Dale, E.の「経験の円錐」を手掛かりに—		2013年12月15日	桐蔭論叢 第29号	桐蔭横浜大学	63-70頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
教科特性を考慮したデジタル教科書の活用の検討—社会科の授業理論に着目して—	2013年10月19日	日本教材学会 第25回研究発表大会(日本大学文理学部/東京都世田谷区)	箱崎(李) 禧承		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本教育メディア学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
教科書・教材のデジタル化に関する調査研究委員会委員としての韓国調査	2010年7月～現在	(財)教科書研究センター

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
在籍：2006(平成18)年4月～
最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
学位：体育学修士
学位論文：中高年齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
専門分野：体育科学
前職：学校法人了徳寺学園職員
資格：講道館柔道五段

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

2012年11月より全日本柔道男子ナショナルチームのコーチに選ばれたことから国際大会もしくは国際合宿への同行が増え、昨年度と同様諸外国の柔道の実態調査を行っている。また全日本のトップ選手の体力調査および意識調査も継続して実施。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会

任期、活動期間等

学会・機関・団体等における役職等

2008年4月～現在

神奈川県学生柔道連盟 常任理事

2009年4月～現在

神奈川県柔道連盟 強化委員

2010年4月～現在

関東学生柔道連盟 理事

2010年4月～現在

全日本柔道連盟 国際委員会委員

2012年11月～現在

全日本柔道連盟 ナショナルチーム強化コーチ

福井 元 (ふくい げん) 専任講師



出生年：1975(昭和50)年
在籍：2006(平成18)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
学位：修士(体育科学)
学位論文：金属バットの導入が高校野球の技術・戦術に及ぼした影響
－野球の技術史に関する研究の一環として－
専門分野：スポーツ史
前職：国士舘大学大学院 助手
資格：中学校教諭 専修免許状(保健体育)
高等学校教諭 専修免許状(保健体育)
非常勤講師：流通経済大学スポーツ健康科学部、東洋大学ライフデザイン学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
パワーポイント及びVTRを使用したスポーツ実技授業	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技(ソフトボール・野球等)において、実技授業での目標と獲得すべき技能についてパワーポイントで毎時学習を行い、実技の授業を展開し、学生の実際の動きをVTRに記録・放映し学習を促進してきた。
レポートによる実技学習内容の定着工夫	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技において、毎時、実技授業で学習した内容をレポートさせ、提出させ、学習内容を定着させるための工夫を行っている。
自然活動論実習	2008年7月～現在	桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の学外実習(夏冬の登山指導)を担当・指導。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
昨年度に引き続き、「戦後日本における野球の技術史に関する研究」というテーマのもと研究を行っているが、その一部が著書『図表でみるスポーツビジネス』に掲載された。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、スポーツ史学会、日本スポーツ運動学会

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2004(平成16)年7月～
 最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位：博士(学術)、修士(看護学)
 学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究(博士論文)
 専門分野：基礎看護学、健康心理学
 前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
 資格：看護師免許、専門健康心理士資格
 非常勤講師：東京成徳大学応用心理学部スポーツ・健康心理学科
 受賞・表彰：日本ヒューマン・ケア心理学会第一回学会論文賞(2011年7月)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
コロコフ音波形解析による健康管理指標値の研究、学生の健康管理					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「コロコフ音解析による健康指標値の検討-腕モデルと各年代の波形比較-」	共著	2013年6月27日	桐蔭論叢 第28号	小山賢太郎, 杉本恒美, 片山富美代	191-195頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「桐蔭学園における体育授業時の熱中症予防対策について」	2013年8月7日	第1回日本スポーツ健康科学学会	片山富美代, 星秋夫, 小山桂史, 吉鷹幸春		
“Study on the Healthy Index Value by the Korotkoff Sound Analysis, -Waveform comparison using each generation and the arm model (II)-”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Kentaro Koyama, Tsuneyoshi Sugimoto, Fumiyo Katayama		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金 基盤研究(C)、「コロコフ音波形解析による健康管理指標値の研究」	2011年4月～2014年3月	日本学術振興会			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本看護研究学会、日本カウンセリング学会、日本健康心理学会、日本ヒューマン・ケア心理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員
2014年4月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会理事
2014年4月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会広報委員

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：日本体育大学体育学部健康学科卒業
 社会医学技術学院理学療法科卒業
 日本柔道整復専門学校卒業
 専門分野：アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職：日立横浜病院
 学内役職等：スポーツテクノロジー学科長 (2012～)
 資格：日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 理学療法士、柔道整復師
 中学1級・高等学校1級教諭免許(保健体育)
 非常勤講師：東京有明医療大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
女性スポーツにおける傷害予防の実際, 女性スポーツにおける傷害予防トレーニング (シンクロ)	共著	2013年10月	医歯薬出版	加藤知生	128-133頁
(学術論文)					
シンクロナイズドスイミング選手の身体機能評価における問題点と新たな取り組み	共著	2013年6月	水と健康医学研究会誌12	地神裕史、加藤知生ほか	23項
○その他					
(産学協同研究)					
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称			
競技力向上コース事業	2010年4月～	神奈川県立体育センター			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本理学療法士協会、日本アスレティックトレーニング学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年9月～現在(2011～)	日本水泳トレーナー会議役員(代表)	
1996年4月～現在	JOCオリンピック強化スタッフ	
2003年3月～現在(2010～)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー(連携協議員)	
2007年4月～現在(2013～)	日本水泳連盟医事委員会(副委員長)	
2013年6月～現在	日本アスレティックトレーニング学会評議員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会活動および保健体育授業(からだづくり)	2008年～(年3回)	横浜市教育委員会 学校運営評議会(2011年～)

河崎賢三（かわさき けんぞう）教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位：医学博士
 専門分野：整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職：島根医科大学文部教官助手
 資格：医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 受賞・表彰：材料技術研究協会技術賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
医学現場実習を重要視した授業	2006年4月～	医学現場に出向き、スポーツ医学の知識の取得に勤めている

II 研究活動

○その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa
野球肘は防げる	2013年5月～現在 (連載中)	ベースボールマガジン社Hit&Run

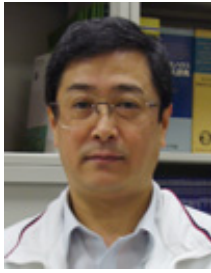
III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員	
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員	
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員	
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員	
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員	
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員	
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ、野球)	
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員	
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学位：体育学修士(日本体育大学)、医学博士(順天堂大学)
 学位論文：mechanical properties of femoral bone in mice
 専門分野：環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前職：日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学内役職等：学務部長(2012～)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「フィットネス施設における中高年齢水中運動実施者の実施運動別にみた飲水意識とその実態」	共著	2013年4月1日	臨床スポーツ医学 30(4)	坂手誠治、清水陽子、寄本 明、星 秋夫	373-378頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)低強度での水中歩行運動による脱水および生体変化～運動前の水分摂取の有無による比較～	2013年6月8日	第17回日本ウォーキング学会(静岡大学)	坂手誠治、柳沢香絵、櫻村修生、星 秋夫		
(口頭発表)桐蔭学園における体育授業時の熱中症予防対策について	2013年8月7日	第1回日本スポーツ健康科学学会大会(東京農大)	片山富美代、星秋夫、小山桂史、吉鷹幸春		
(口頭発表)暑熱環境時の運動における熱中症対策飲料の効果	2013年8月7日	第1回日本スポーツ健康科学学会大会(東京農大)	星 秋夫、櫻村修生		
(口頭発表)低強度での水中歩行前の水分摂取の有無による脱水および生体への影響	2013年8月7日	第1回日本スポーツ健康科学学会大会(東京農大)	坂手誠治、櫻村修生、星 秋夫		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
わが国における熱中症予防研究の変遷と今後の課題	2013年8月7日	第1回日本スポーツ健康科学学会大会(東京農大)学会長講演	東京農業大学		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
日本学術振興会基盤研究(C)	2011年4月～2014年3月	日本学術振興会科学研究費補助金			
日本学術振興会基盤研究(C)	2013年4月～2015年3月	日本学術振興会科学研究費補助金			
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
熱中症 残暑も気をつけて	2013年8月22日	読売新聞			
「夜間の熱中症」	2013年6月15日	健生ニュース 2496号			

熱中症	2013年6月1日	すこやかファミリー6月号(第665号)
「熱中症からあなたを守る」救命マニュアル35」	2013年7月25日	週刊文春 7/25日号
「熱中症からあなたを守る」	2013年8月8日	週刊文春 8/8日号
「熱中症「死亡現場」緊急レポート	2013年8月29日	週刊文春 8/29日号
「灼熱の街に五輪がやってくる米国の都合で決まる競技時間」	2013年9月20日	週刊朝日 9/20日号
(その他特記事項)		
2013年、NHK首都圏ネットワーク「熱中症」7/12		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本運動生理学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員
2009年4月～2014年3月31日	日本生気象学会編集委員長
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
2012年4月～現在	日本スポーツ気象アドバイザー協会理事
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会会長
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会理事
2014年4月～現在	日本生気象学会学会会長

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクスの研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : 入試・広報副センター長(2013～)
 資 格 : 専修免許状(保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、講道館柔道七段
 受 賞 ・ 表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本柔道連盟公認審判員(Aライセンス)	2003年～現在	全日本柔道連盟
講道館・全日本柔道連盟 柔道ルネッサンス委員	2003年4月～現在	全日本柔道連盟
全日本学生柔道連盟理事	2010年4月1日～現在	全日本学生柔道連盟
全日本柔道連盟広報委員	2011年4月1日～現在	全日本柔道連盟

Ⅳ芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学 柔道部総監督 全日本学生柔道優勝大会(団体)	2013年6月	日本武道館	桐蔭横浜大学 団体 ベスト8

箱 木 北 斗 (はこぎ ほくと) 特任教授



出 生 年 : 1949(昭和24)年
 在 籍 : 1990(平成2)年4月～
 最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院制御システム工学専攻博士後期課程
 修了
 学 位 : 工学博士
 学 位 論 文 : 関節拘縮治療支援装置の開発及びその評価に関する研究
 専 門 分 野 : 制御工学、ロボット工学
 前 職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コンピュータと計測デモンストレーション教材実験装置の開発	2010年4月～現在	慣性センサやサーモグラフィを実演するための組み込みマイコンボードや実験装置の開発を行った。
義肢装具論デモンストレーション教材実験装置の開発	2010年4月～現在	歩行動作解析用骨格リンクモデルの制作した。
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学基礎実験Ⅰ(2年)マイコン基礎実験テキスト	2008年4月～現在	マイコンボードの組み立て、加速度センサ、ステッピングモータ、RCサーボ実験のテキスト作成36頁
工学基礎実験Ⅱ(2年)マイコンシーケンス制御実験テキスト	2008年9月～現在	時間制御、コンベア制御、センサ制御、コインホッパーなどのシーケンス制御用実験テキストを作成した。41頁
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
実践を重視したロボティクス教育「桐蔭横浜大学ロボット工学科の取組」第4回高大連携シンポジウムプログラム/東京工芸大学厚木キャンパス	2007年12月1日	IT教育強化のためのマイコン教材開発した実験システムをロボット教育に実践した結果を講演した。
ワンボードマイコン技術修得への新戦略「学生実験用ワンボードマイコンと教材開発について」社団法人 日本工業技術振興協会 月例特別講演会	2009年11月21日	IT教育強化のためのマイコン教材開発した学生用実験ボードを農業分野などで応用出来るようにするための方策を講演した。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
<p>これまでに開発した超小型マイコンボードをもとに、慣性センサ、感圧センサを用いた人体装着型計測システムを構築した。これらを用いて投球動作動作の解析を行った。</p> <p>ストレインゲージを用いた衝撃力測定装置を製作しボクシングのフック動作の衝撃力などの測定を行った。</p>

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
計測自動制御学会、日本ロボット学会、バイオメカニズム学会、電気学会、ライフサポート学会、日本スポーツ健康科学学会

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1991(平成3)年4月～
 最終学歴：東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程
 学位：学術博士
 学位論文：大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野：知能情報処理、感性情報処理
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等：学生部副部長 (2014～)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生の情報通信技術に関する支援	2011年1月～ (継続中)	日頃より、担当して授業を問わず、学生の情報通信技術(ICT)やビデオ映像制作などの支援を教員研究室で行っている。たとえば、ゼミ生以外の学生(2グループ)がビデオ映像の制作のため1カ月程度、栗山研究室の情報機器を利用した。また、ゼミ生以外の学生に対しても「情報処理技術者試験(ITパスポート試験)経済産業省主催 国家試験」の勉強の支援を行い、2011年7月試験において合格者(1名)を輩出した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
スポーツ情報分析室の新設事業	2013年7月～ (継続中)	スポーツ健康政策学部の教育の質を高め、大学および学園のスポーツ競技の向上やスポーツ科学・健康分野の教育・研究に寄与するために、スポーツ情報分析室の新設を提案し、スポーツ分析ソフトウェア等の充実を図っている。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
ボールゲームにおける状況判断とその知識構造を探る研究を進めている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
電子情報通信学会、人工知能学会、日本フuzzy学会、日本教育工学会、日本人間工学会

澤井睦美 (さわい むつみ) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育学研究科
学位：体育学修士
学位論文：静的筋労作の影響と回復に関する研究
—血行動態の観察から—
専門分野：体操(からだづくり・動きづくり)、身体教育、健康科学
前職：流通経済大学社会学部非常勤講師
淑徳大学国際コミュニケーション学部非常勤講師

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
人類働態学会、日本生気象学会、日本産業衛生学会、運動疫学研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2009年～現在	(有)Endose Your Life 健康プログラムアドバイザー
2012年～現在	(株)サロンデイ パーソナルトレーニングプログラムアドバイザーおよびマニュアル監修

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
学位：修士(武道・スポーツ)
学位論文：異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
専門分野：ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化コーチ

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

ハンドボールにおいてボールタッチ数に着目したゲーム分析を行った。男子ハンドボールにおける体力トレーニングの評価基準作りとしてボールスピードとの関係を探った。またメンタル面にもフォーカスし、モチベーション映像の実践利用を試みた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会

(主な活動内容)

活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
愛媛国体ハンドボール競技専属アドバイザー コーチ	2011年4月～	愛媛県ハンドボール協会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(ハンドボール部監督)2013年全日本インカレ	2013年11月		男女インカレ出場

小山桂史 (こやま けいじ) 専任講師



出生年：1984(昭和59)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程
 修了
 学位：博士(スポーツ健康科学)
 学位論文：Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野：スポーツバイオメカニクス
 前職：順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等：陸上競技部女子駅伝部門監督
 資格：中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 受賞・表彰：第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本関夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝
 (2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞
 (2010.9)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2012年度では、足関節の傷害予防器具(足関節テーピング)による足関節固定が、垂直跳びの離地直前の地面反力を低下させ、跳躍高も低下させることが明らかとなった(Koyama et al.,2014)。垂直跳びや歩・走動作の離地直前では、足関節は立位時よりも底屈位にあり、中足指節関節と足指の力によって身体を安定させている。さらにその動作時では、中足指節関節と足指は垂直跳びであれば鉛直方向、歩・走動作では推進方向に力を発揮する。スポーツ競技では速いタイムや高い跳躍が要求されるため、それらの部位の力発揮が非常に重要になると思われる。そこで、2013年度では、まず足指筋力の力発揮特性を理解し、その力発揮とパフォーマンスとの関係性を知り、足関節の傷害予防器具等による足関節固定が足指筋力に及ぼす影響についても検討する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
プライオメトリックトレーニングが試合期の大学女子バレーボール選手におけるジャンプ能力に及ぼす影響	共著	2014年3月	大阪国際大学短期大学部紀要 国際研究論叢、27(3)、1-10.	勝俣康之、小山桂史、田中博史、濱野光之、渡辺圭佑、柳谷登志雄	pp.1-10
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
The effect of ankle taping on the ground reaction force in vertical jump	2013年6月	18th annual Congress of the European College of Sport Science, Mini Oral	KOYAMA Keiji, Honda Ippei, Yanase Raku, Kato Tomoo, Yamauchi Junichirou		
Contribution of the plantar flexion to maximum foot grip force	2013年6月	18th annual Congress of the European College of Sport Science, Mini Oral	KOYAMA Keiji, Miura Takashi, Horiuchi Kentarou, Maruyama Tomoko, Kobayashi Kimi, Kurihara Toshiyuki, Yamauchi Junichirou		
中学生男子バスケットボールチームの競技力と体力特性に関する検討	2013年8月	第1回 日本スポーツ健康科学学会, 口頭発表	小山桂史, 大畑岳		
スプリントスタートダッシュ時の足底圧分布と足底筋力の関係	2013年9月	第68回 日本体力医学会大会, 口頭発表	丸山 智子, 小山桂史, 山内潤一郎		
足関節の固定が足底部の力発揮に及ぼす影響	2013年9月	第68回 日本体力医学会大会, 口頭発表	小山桂史, 三浦隆, 小池 英晃, 堀内 健太郎, 丸山 智子, 小林キミ, 山内潤一郎		

足関節テーピングがジャンプパフォーマンスに及ぼす影響	2013年11月	スポーツアンドヒューマンダイナミクス	小山 桂史, 加藤知生, 山内 潤一郎
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
18th annual Congress of the European College of Sport Science, Mini Oral	2013年6月	The National Institute of Physical Education of Catalonia (Barcelona, Spain)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本バイオメカニクス学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本トレーニング科学学会, 日本バレーボール学会, 日本靴医学会, 日本スポーツ健康科学学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学学会大会庶務・会計理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
運動に関するアドバイザー	2011年4月～現在	西武池袋本店

廣瀬立朗（ひろせ たつろう）専任講師



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2009(平成21)年4月～
最終学歴：東京大学大学院
学位：博士(学術)
学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
専門分野：運動生理学、運動生化学
前職：日本体育大学 助教
非常勤講師：上智大学

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

前年からの神経栄養因子の骨格筋のサイズ変化に与える影響について検討を続けている。また、骨格筋委縮時における骨格筋細胞のアポトーシスを制御する因子の検討を行っている。筋形成因子の一つであるMyoDが骨格筋委縮時に増加し、さらにアポトーシス反応と関連する可能性があることが知られている。そこで骨格筋委縮モデルを用いてMyoDの発現を制御しアポトーシス反応の変化を検証することを計画している。現在、筋委縮モデルの一つである坐骨神経切除と下肢筋群のアポトーシス反応を検証中である。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の 年 月 日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
Wellness, Body and Culture 上智 大学テキスト 翻訳、監修	共著	2013年4月	プリントボーイ	廣瀬立朗	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体力医学会 physiology

(2014年度 新任教員)

殖田友子 (うえだ ともこ) 教授



在籍 : 2014(平成26)年4月～
最終学歴 : 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単位取得後退学
学位 : 修士(経営学)
専門分野 : スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
前職 : 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科准教授
資格 : 管理栄養士、健康運動指導士、公認スポーツ栄養士
非常勤講師 : 神奈川大学人間科学部、神奈川大学国際経営学部

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
スポーツ鍼灸マッサージ指導者講習会講演「今日から使えるスポーツ栄養学」	2013年6月	全日本鍼灸マッサージ師会	東京お台場TFT会館
高等学校における食育推進研修講座にて講演	2013年7月	神奈川県立総合教育センター	神奈川県立総合教育センター
帝京大学秋の公開講座「目指せ！細マッチョ！～メタボにもロコモにもならない秘訣を伝授～」	2013年11月	帝京大学	帝京大学

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本健康運動指導士会、日本栄養改善学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年6月～2013年3月	練馬区食育推進ネットワーク会議委員長
2010年7月～現在	日本スポーツ栄養学会評議員 (2013年12月日本スポーツ栄養研究会から学会に改組)
2013年4月～現在	大田区体育協会評議員

櫻井 智野風 (さくらい ともぶ) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科保健体育学専攻修了
 学位：博士(運動生理学), 教育学修士
 学位論文：運動による骨格筋損傷とその治癒過程における一酸化窒素の関与
 専門分野：運動生理学, スポーツ科学, トレーニング科学
 前職：東京農業大学 生物産業学部 准教授
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：アメリカ・ウィスコンシン州立大学マディソン校キネシオロジー学部 客員研究員(1999～2000)
 資格：小学校教諭一種免許, 中学校教諭一種免許(保健体育), 高校学校教諭専修免許(保健体育), 日本体育協会公認コーチ(陸上競技), 国際陸上競技連盟 レベル I 講師

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学の基礎と発展 (フリースペース)	2002年4月～	体育概論の教科書として使用.
パソコンで学ぶ元気で生きる健康科学 (三共出版)	2011年4月～	体育実技の教科書として使用.
4.その他教育活動上特記すべき事項		
北海道網走市教育委員	2012年4月～2013年3月	市教育委員として学校教育現場の改善に携わっていた.

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
骨格筋損傷とその治癒に関する研究, 遅発性筋痛のメカニズムに関する研究に関して、国内外学会にて口頭発表や論文発表を行った。日本陸上競技連盟普及指導部委員として、全国のジュニア指導者に対する講習やライセンス講習会の講師を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Role of nitric oxide in muscle regeneration following eccentric muscle contractions in rat skeletal muscle”	共著	2013年6月	J Physiol Sci. vol.63	Sakurai T, Kashimura O, Kano Y, Ohno H, Ji LL, Izawa T and Best TM	pp.263-270
“Skeletal Muscle Oxygenation during the Nagewaza Kakari Exercise in Judo”	共著	2013年10月	スポーツ科学研究, 10号	芳賀脩光, 木崎節子, 佐藤章悟, 櫻井智野風, 大野秀樹	pp.233-241
“The Effects of Long-term Exercise on Cerebral Function and the Maintenance of Concentration in the Elderly”	共著	2013年12月	Exerc Sports Orthop, vol.1	Haga S, Sakurai T, Sato S, Sasahara M, Aita F	pp.1-5
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
運動時の体温調節と水分補給	2013年8月	第15回日本体力医学会北海道地方会	櫻井智野風(座長)		

疲労困憊運動時の脳活動における一考察	2013年9月	第1回日本スポーツ健康科学学会大会	桜井智野風, 後藤広太郎
痩せる運動, 痩せない運動	2013年9月	第7回食香粧研究会	桜井智野風(シンポジスト)
高地トレーニングの科学と実践	2013年9月	第68回日本体力医学会	桜井智野風(シンポジスト)
時計遺伝子Rev-erbaはMCP1遺伝子の発現を抑制しマクロファージ免疫機能を制御する	2013年9月	第68回日本体力医学会	佐藤章悟, 木崎節子, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 長澤純一, 桜井智野風, 井澤鉄也, 今泉和彦, 芳賀脩光, 大野秀樹
脂肪細胞および骨格筋組織における時計遺伝子と脂質代謝関連遺伝子の関係	2013年9月	第68回日本体力医学会	加藤久詞, 増田慎也, 高倉久志, 佐藤章悟, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 桜井智野風, 大野秀樹, 井澤鉄也

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会, 日本体力医学会, 日本トレーニング科学会(理事), 日本生理学会, 日本臨床生理学会, 日本発育発達学会, 日本生気象学会, 日本健康医学会, 日本宇宙航空環境医学会, 日本陸上競技学会(理事), 日本スプリント学会, 日本スポーツ健康科学学会(理事), American College of Sports Medicine(アメリカスポーツ医学会)

澁倉 崇行 (しぶくら たかゆき) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)心理発達科学専攻修了
 学位：博士(心理学)
 学位論文：「高校運動部員の心理的ストレスに関する研究:部活動ストレスモデルの構築と介入プログラムの作成」(博士論文)
 専門分野：スポーツ心理学
 前職：新潟県立大学人間生活学部准教授
 資格：中学校教諭専修免許状(保健体育), 高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：新潟県立大学
 受賞・表彰：日本体育学会学会賞(平成26年度)(共著者)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
科学研究費補助金:若手研究(B)研究課題:部活動指導者を対象としたストレスマネジメントプログラムの開発と評価(研究代表者), および科学研究費補助金:基盤研究(B)研究課題:スポーツ活動の効果と般化に関する実証的研究と汎用性モデルの構築(研究分担者)に関わる研究を行い, 関係の学会で発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「スポーツモチベーション—スポーツ行動の秘密に迫る!」	共著	2013年10月	大修館書店	西田保, 澁倉崇行, 他25名	41-50頁, 118-119頁
(学術論文)					
「幼少年のライフスキルを育成するスポーツプログラムの作成と実施, 及びその効果検証:現場での実用化を目指した実践プログラムの開発」	共著	2013年4月	SSFスポーツ政策研究, 第2巻第1号	澁倉崇行, 佐々木万丈	194-203頁
「実践に役立つ研究とは:研究者と実践者の協働関係」	単著	2013年9月	スポーツ心理学研究, 第40巻第2号	澁倉崇行	201-209頁
「小学生の体育学習における動機づけモデルの検討:動機づけ雰囲気認知, 学習動機, および方略使用の関連」	共著	2013年12月	体育学研究, 第58巻第2号	伊藤豊彦, 磯貝浩久, 西田保, 佐々木万丈, 杉山佳生, 澁倉崇行	567-583頁
「途上国におけるスポーツ活動を通じたライフスキル教育プログラムの作成:セブ市の教育的課題と育成の対象とする心理社会的スキルの特定」	共著	2014年3月	新潟体育学研究, 第32巻	澁倉崇行, 松本裕史, 笠巻純一, 西田順一	11-16頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
途上国におけるスポーツ活動を通じたライフスキル教育プログラムの作成:セブ市の教育的課題と育成の対象とする心理社会的スキルの特定	2013年10月	新潟県体育学会平成25年度大会(於新潟大学)	澁倉崇行, 松本裕史, 笠巻純一, 西田順一		
高齢者のスポーツ活動尺度の作成とその主観的幸福感への影響	2013年11月	日本スポーツ心理学会第40回大会(於日本体育大学)	磯貝浩久, 西田保, 佐々木万丈, 北村勝朗, 澁倉崇行		
スポーツ活動の心理社会的効果とそれらの日常生活への般化を測定する尺度の作成	2013年11月	日本スポーツ心理学会第40回大会(於日本体育大学)	佐々木万丈, 西田保, 北村勝朗, 磯貝浩久, 澁倉崇行		

高校運動部活動の心理社会的効果とそれらの日常生活への般化:運動部活動経験と心理社会的効果との関連	2013年11月	日本スポーツ心理学会第40回大会(於日本体育大学)	渡倉崇行、西田保、北村勝朗、佐々木万丈、磯貝浩久
--	----------	---------------------------	--------------------------

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本教育心理学会, 日本健康心理学会, 日本ストレスマネジメント学会

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : A Study on Macbeth
 専 門 分 野 : 英語英文学、英語教育、時事英語
 前 職 : 静岡大学助教授
 学 内 役 職 等 : 桐蔭英語村村長
 資 格 : 中学教員1級、高校教員1級免許
 受 賞 ・ 表 彰 : 市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
2.作成した教科書、教材、参考書		
外国語特別活動の英語教材	2013年～現在	外国語特別活動(英語)の教材は、市販の教材だけではうまく授業展開できないため、殆ど手作り教材である。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
小学校英語教育:小学校の外国語特別活動の現場に入り実際の授業を体験することで、授業展開法や学生への指導法の研究を開始。また、2014年4月の桐蔭英語村開設を視野に入れ、小学校のみならず、中学・高校・大学生をも対象にするアクティブ・ラーニングとしての英語教育法の研究。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会

園山和夫 (そのやま かずお) 教授



出生年：1945(昭和20)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：島根大学教育学部教育専攻科教育学専攻修了
 学位：学士(教育学)
 専門分野：保健体育科教育学、健康教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部長(2012～)
 非常勤講師：川村学園女子大学教育学部(2010～2012)
 受賞・表彰：日本スポーツ教育学会功労賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
多様な方法を用いた授業の展開	2007年～現在	DVD, パワーポイント等を利用した講義、ブレインストーミングやディスカッションなどを用いた授業などの展開
2.作成した教科書、教材、参考書		
スポーツ指導・実務ハンドブック第2版	2013年4月1日	国際的、国内的なスポーツの動向や法規などを学習するのに役立つテキスト。「生涯スポーツ論」で活用

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2012年度まで蓄積した研究活動に加え、講義を担当している生涯スポーツ論や教師論に関する研究の深化に取り組んでいる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「スポーツ指導・実務ハンドブック」第2版ダイジェスト版	共著	2013年4月1日	道和書院	編者:笠原一也、入澤充、 園山和夫 他	239頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「新たなスポーツ文化」の創造と人々の連携・協働の推進	2013年11月21日	第54回全国スポーツ推進委員研究協議会(文部科学省)	全体会シンポジスト及び分科会 コーディネーター:園山和夫		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「小学校における体育学習の考え方・進め方」(教員免許更新講習会)	2013年8月12日～ 8月27日	公益社団法人日本一輪車協会、開催地教育委員会	宮崎県、千葉県		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	公益財団法人日本体育協会評議員
2010年4月～現在	公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会専務理事
2008年6月～現在	公益社団法人全国スポーツ推進委員連合専務理事
2008年4月～現在	公益財団法人日本スポーツクラブ協会理事
2008年6月～現在	公益財団法人スポーツ安全協会理事

2008年10月～現在	公益財団法人日本レクリエーション協会評議員	
2011年4月～現在	公益財団法人日本体育協会総合企画委員会財務部会委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
月刊誌「みんなのスポーツ」編集責任者	2008年4月～現在	公益社団法人全国スポーツ推進委員連合機関紙

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻
 修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸と
 して(博士論文)
 専門分野：メディア論、表象文化論、身体論
 前職：大同大学情報学部教授
 学内役職等：入試・広報センター長(2013～)
 資格：一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)】

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
舞踊について個人研究。また、表象文化論とプロダクト批評の界面での研究を行なう。論文2編を公表、新聞寄稿2回。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
『スポーツの時計とデザイン』	単著	2013年6月	桐蔭論叢第28号		
『ハワイの「フラ」と原初のエクリチュール』	単著	2013年12月	桐蔭論叢第29号		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
Gショック 大人の顔	2013年4月13日(朝刊)	朝日新聞			
「ジュネーブ時計展」	2014年2月12日(夕刊)	読売新聞			
(その他特記事項)					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
表象文化論学会、日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会、情報文化学会

田村 和 寿 (たむら かずひさ) 特任教授



出生年：1941(昭和16)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：早稲田大学第一政治経済学部経済学科
 学位：経済学士
 学位論文：「生活高次化に伴う消費関数の研究…デューゼンバリー論の検証」
 専門分野：理論経済学、都市・地域研究、まちづくり論、文化政策論、地域計画論、都市経営論
 前職：(株)都市計画連合アトリエ代表取締役
 亜細亜大学 学長補佐・地域産学公連携推進室コーディネーター
 早稲田大学 芸術学校 都市デザインコース講師
 受賞・表彰：武蔵野市行政功労者等

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義での専門テーマ性に加えての基礎的教養や社会的常識の重視。 (主対象は2, 3年次生)		講義テーマは主に‘まちづくり’、‘地域文化’そして‘地域スポーツ’であり、豊富な事例、トピックス、周辺関連事項を引き、語彙や概念についての理解を促すよう努めている。講義は各回ごとのレジュメと講話を主軸に充実に努めている。
ゼミナール運営ではゼミ生各個人の自立性向上と良き社会人への成長を念頭に、テーマ学習と議論、プロセス重視の卒研・卒論指導そして地域参加等の活動に力を注いでいる。 (主対象は3, 4年次生)		ゼミの2年間を実社会進出への準備段階と位置付け、その有効化のため広い視野からの‘マイ・プロジェクト’を決めてもらい、ゼミ内での懇親も含め多面にわたるその自主的展開へのサポートを心掛けている。
‘まちづくり’や‘地域研究’と言ったテーマ性からも、出来る限り実際の街や地域との触れ合いと双方向コミュニケーションによる理解、認識の促進機会を設ける。 (ゼミ生プラスその他希望者)		実際には2012年度本学に近い桜台地区の住民組織との協働により地域懇談会での議論やまちづくり提案作成に参加の機会を得るに至った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
授業での講義レジュメ作成への注力。		担当科目の講義全回に当たって、豊富な参考事例に富んだオリジナリティ重視のレジュメ作成に努めている。講義のテーマ、内容から状況の経年的変化も激しく、こうした動向のフォローは自らの調査や研究にも不可欠となっている。
講義に於いてはレジュメ自体が入門書の役割を担っているが、事例集なども含め膨大な参考文献・メディア資料等の存在も事実であり、これらについてはレジュメに載せ、或いは実物を見せ出来るだけ多くを紹介することにしてはいる。ゼミではその他に図書館や大型書店に学生と同道し、実物を見つつ説明し、評価や判断の手助けをしている。		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
‘3・11東日本大震災復旧における大学生ボランティア活動の支援’(NPO法人シャンティ)	2012年7月～	宮城県気仙沼南部地域災害復旧への多数大学参加による活動の支援協力。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
早稲田大学都市計画フォーラム、市民と議会の条例づくり交流会議、社団法人知識資源機構	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年4月～2013年4月	(財)武蔵野市開発公社 理事(非常勤)

1990年4月～現在	武蔵野市自転車等駐車対策協議会 委員長
1996年～現在	早稲田大学都市計画フォーラム 運営委員
2007年～現在	市民と議会の条例づくり交流会議 会員
2010年5月～現在	(社)知識資源機構 理事

中 林 伸 浩 (なかばやし のぶひろ) 特任教授



出 生 年 : 1941(昭和16)年
在 籍 : 2007(平成19)年4月～
最 終 学 歴 : 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻博士課程
単位修得退学
学 位 : 博士(人間科学)(大阪大学)
学 位 論 文 : 「国家を生きる社会・・・西ケニア・イスハの氏族」
専 門 分 野 : 文化人類学
前 職 : 金沢大学文学部人間学科教授
留 学 : 英国ケンブリッジ大学(1969.9～1971.3)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『植民地近代性の国際比較』	共著	2013年5月	お茶の水書房	永野善子 編	219-246頁
(学術論文)					
「アフリカ植民地文化における儀礼と政府」	単著	2013年12月	桐蔭論叢 第29号		47-53頁

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 准教授



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
 単位修得退学
 学位：修士(文学)
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 資格：中学校教員専修免許状(国語)
 高等学校教員専修免許状(国語)
 博物館学芸員資格
 非常勤講師：法政大学非常勤講師(文学Ⅰ、文学Ⅱ)

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「幽霊能における告白—その類型と表現に関する覚書(前編)—」	単著	2013年6月15日	桐蔭論叢 第28号	-	111-117頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名	
(パネルディスカッションパネラー)「八尾・高安と能楽の関わりを探る講座—高安能の今後の展望」	2013年10月19日	主催 高安新能実行委員会・高安ルーツの能実行委員会、共催 大阪経済法科大学、後援 八尾ライオンズクラブ・八尾市・八尾市教育委員会・八尾文化財調査研究会・八尾市文化振興事業団・エリーニユネスコ協会・日本ユネスコ協会連盟、大阪経済法科大学(大阪府八尾市)		西野春雄、棚橋利光、高安勝久、橋本久、浅見緑、坂上弘子、橋場夕佳、今泉隆裕	
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
(曲目解説)「醜女と鬼と山の神—狂言(鬼瓦)の周辺—」	2014年1月	新春わかさ能パンフレット			
(その他特記事項)					
(発表要旨)「能にみる告白とっその語彙について」日本宗教学会 第72回学術大会(第6部会)、宗教研究87(4)、2014年3月					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

大野 哲也 (おおの てつや) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2012(平成24)年～
最終学歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程 指導認定退学
学位：博士(人間・環境学)、修士(社会学)、修士(人間・環境学)
学位論文：書き換えられる記憶, 定型化する物語—日系アルゼンチン移民の過去の再構成の試みから—(修士論文:社会学)
『自分探し』の旅という神話を超えて —アジアにおける日本人バックパッカーの調査から—(修士論文:人間・環境学)
冒険的な旅から冒険的な生き方へ—アジアにおける日本人バックパッカーの「自分らしさ」の軌跡から(博士論文:人間・環境学)
専門分野：文化人類学、社会学、環境人間学
前職：京都大学GCOE短時間研究員
資格：中学校教諭1級普通免許(保健体育)
高等学校教諭2級普通免許(保健体育)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本社会学会、日本文化人類学会、環境社会学会、社会学研究会、観光学術学会

田中 暢子 (たなか のぶこ) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2013(平成25)年～
 最終学歴：ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位：博士(スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文：“An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability” (ラフバラ大学2013年)
 専門分野：スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学
 前職：中央大学保健体育研究所 客員研究員
 留学：ラフバラ大学
 資格：弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許、障害者職業カウンセラー、上級介護予防運動スペシャリスト
 非常勤講師：中央大学
 受賞・表彰：1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞(高齢者エアロビックプログラム開発)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業の内容をまとめたパワーポイントやワードを資料として配布。		資料には、参考資料は必ず掲載する。特に学生の学習意欲を高めるために、映像やグループディスカッションといった参加型の授業も展開する。たとえば、高齢化社会論では、高齢者の身体特性を学んだ後に、運動プログラムを班ごとに作成し、発表する機会を提供した。なお、発表に至るまでは、教員が何度もプログラム内容についてアドバイスする時間も設けた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
		文部科学省(2010)スポーツ政策調査研究(共著)、田中暢子(2012)障がい者とスポーツ、川西正志と野川春夫(編)、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会(2012)パラリンピック選手の競技環境 その実態と意識調査(共著)他
4.その他教育活動上特記すべき事項		
		科研究などのテーマは国際比較(特に政策学的分析)を行っているが、2013年10月には、専門とする精神障害者の国際シンポジウム・のコーディネーター及び、国際会議の議長を務めた(日英で)。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
科学研究基盤Cの助成を受け、精神障害者スポーツの推進システムの国際比較研究1年目とし、日本を含む8カ国とした推進状況に関するアンケート調査を実施した。この結果は、第1回精神障害者国際シンポジウム・国際会議にて報告され、また推進する競技種目がサッカーであったことがわかり、第1回国際会議にて、サッカーをモデルとして、精神障害者スポーツを国際的に推進することが合意された。この報告は、あさひ新聞を初めとし、記事として取り上げられた。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「21世紀のスポーツ社会学:理論、焦点、未来」	共訳	2013年6月	21世紀のスポーツ社会学, 創文企画	ドミニク・マルコム(著)菊幸一, 田中暢子, カタリン(訳)	9-38頁
(総説・論説)					
「東南アジアにおけるスポーツ振興の一元化推進策に関する国際比較」	共著	2013年4月	2012年度笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書, 笹川スポーツ財団	野川春夫, 岡田梓, 佐々木朋子, 田中暢子, 工藤康宏	40-49頁
「東南アジアにおけるスポーツ振興の一元化推進策に関する国際比較」	共著	2013年8月	日本体育学会第64回大会体育社会学専門領域発表論文集第21号	野川春夫, 岡田梓, 佐々木朋子, 田中暢子, 工藤康宏	116-121頁
「ドイツの医療保険制度を用いた地域におけるリハビリテーション・スポーツ」	共著	2013年9月	スポーツ精神医学, vol.10, 日本スポーツ精神医学会		
「精神障害者スポーツ推進システムに関する国際比較研究一年次報告」	共著	2013年10月	「精神障害者スポーツ推進システムに関する国際比較研究」平成22-24年度科学研究費基盤研究C(25350785)研究成果報告書		全36頁
「精神障害者スポーツの国際化と国内の発展に向けて～国内外の動向～」	共著	2013年10月	健康づくり, No426, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団		14-17頁
「2012ロンドンパラリンピック大会の成功がもたらしたもの～英国障害者スポーツ政策過程から学ぶ～」	単著	2013年11月	現代スポーツ評論29, 特集「障害者スポーツをどのように考えるか」, 特集論文		91-100頁
(学術論文)					
「男子車椅子バスケットボール日本代表への心理検査の意義と課題」(査読付)	共著	2013年8月	スポーツ精神医学, 第10巻, 日本スポーツ精神医学会	渋谷英雄, 田中暢子, 加藤千恵子, 土田健省, 内田桃人, 江健一	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
(学会)					
「東南アジアにおけるスポーツ振興の一元化推進策に関する国際比較」		2013年8月	日本体育学会第64回大会(開催場所:立命館大学)	野川春夫, 岡田梓, 佐々木朋子, 田中暢子, 工藤康宏	
「ドイツの医療保険制度を用いた地域におけるリハビリテーション・スポーツ」		2013年9月	スポーツ精神医学第11回大会, (開催会場:犬山市国際観光センターフロイデ)	奥田睦子, 田中暢子	
“Creating a development pathway for Paralympians - A case study of Paralympic sports in Japan”		2013年11月	SPLISS Conferencem elite sport success: society boost or not? (開催会場:Hotel and Conference center Elzenveld, Antwerp, Belgium)	岡田梓, 野川春夫, 田中暢子	
「精神障害者スポーツ推進にかかわる国際動向～7カ国の国際比較研究からの一考察」		2013年12月	日本体育・スポーツ政策学会第23回大会, (開催場所:筑波大学)	田中暢子, 佐々木朋子	
(シンポジウム)					
「オリンピック・パラリンピック」		2013年6月	流通経済大学(開催場所:竜ヶ崎市民会館)		

「オリンピック・パラリンピック招致リレーセミナー」(コーディネーター)	2013年8月	桐蔭横浜大学(開催場所:桐蔭横浜大学)	
パラリンピアンズ協会設立10周年記念シンポジウム「なぜ、今、パラリンピックなのか～オリンピックムーブメントから学ぶ」(パネリスト・コーディネーター)	2013年9月	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会(開催場所:味の素ナショナルトレーニングセンター)	
「第1回精神障害者スポーツ国際シンポジウム」(コーディネーター)	2013年10月	精神障害者スポーツ国際化実行委員会、日本精神保健福祉連盟、日本障害者スポーツ協会/日本パラリンピック委員会(開催場所:明治学院大学)	田中暢子, 内田直
「第1回精神障害者スポーツ国際会議」(議長)	2013年10月	精神障害者スポーツ国際化実行委員会、日本精神保健福祉連盟、日本障害者スポーツ協会/日本パラリンピック委員会(開催場所:日本精神保健福祉連盟)	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
“Development of Olympic and Paralympic Movement Focusing on Elite Sport Policy and Sport for All Policy”(講師)	2013年7月	English Olympic Education at Tsukuba University(開催場所:筑波大学)	
「精神障害者スポーツの国際化に向けて」(招待講演・通訳)	2013年10月	大阪医科大学(開催会場:大阪医大)	
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「パラリンピック選手の競技環境」	2013年6月～	ヤマハ発動機スポーツ振興財団, 筑波大学, 一橋大学, 同志社大学ほか	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
精神障害者スポーツ推進システムの国際比較研究	2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
科学研究費研究	2013年7月	イングランドサッカー協会, イングランド障害者スポーツ協会, ドイツ障害者スポーツ協会, ラフバラ大学, デンマーク労働者スポーツ協会 など	
海外体験実習(大学旅費)	2014年2月～3月	イングランドナショナルフットボールセンター, ラフバラ大学, フリーメイソンズパブなど	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「世界に広がれ精神障害者スポーツ 国内初のシンポ 5日間」	2013年10月3日(夕刊)	朝日新聞(9面スポーツ)	
「障害者競技会場がない「国、やっど動く」	2013年10月12日(夕刊)	朝日新聞(11面)	
『心の病抱える人のフットサルチーム、苦手なチーム運営「社会」への一歩(中)』	2013年12月2日	神奈川新聞(21面:論説;特報)	
ソチ・パラリンピック「東京」へ求められる環境整備 選手 厳しい経済事情	2014年3月8日	産経新聞(30面社会)	
運動と心をつなぐ医学のプロの知識・プロの技術 第7回「精神障害者スポーツの国際化と国内の発展に向けて～国内外の動向～」	2013年10月	健康づくり(2013年10月号 通巻426号)運動と心をつなぐ医学のプロの知識・プロの技術 第7回「精神障害者スポーツの国際化と国内の発展に向けて～国内外の動向～」	

(その他特記事項)
2013年10月18日 NHKラジオ「ラジオあさいちばん」 出演

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会、障害学会、日本障害者体育・研究会 他	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～	NPO法人山下ウェルキャブの会ドルフィンズ理事(現在に至る)
2011年5月～	神奈川県エアロビック連盟諮問委員会委員長(現在に至る)
2012年3月～	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー(現在に至る)
2012年4月～	日本スポーツ精神医学会役員理事(現在に至る)
2012年10月～	精神障害者スポーツ国際化実行委員会委員・事務局長(現在に至る)
2013年1月～2013年4月	2020東京オリンピック・パラリンピック私的懇談会委員
2013年2月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事/国際委員会委員長(現在に至る)
2013年3月～	文部科学省スポーツ青少年局 技術審査委員会委員(現在に至る)

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の指導場面に着目して－(修士論文)
 専門分野：スポーツ哲学、バレーボール、コーチング
 前職：宮城県石巻市立稲井中学校臨時的教員(保健体育科)
 資格：国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
 公益財団法人日本バレーボール協会公認講師
 財団法人日本体育協会上級コーチ資格
 財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
 中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
 実用フランス語技能検定3級

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
「スポーツと暴力」、「バレーボール」に関するテーマを設定し、研究活動に取り組んでいる。「スポーツと暴力」に関する研究では、「からだ」に着目して論考した。「バレーボール」に関する研究では、「文化としてのバレーボールとは何か」に着目し、研究活動を進めた。 今後もこれらに関連する研究をそれぞれ継続していくものとする。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
スポーツと暴力に関する一考察－からだへの認知に着目して－	単著	2013年9月27日	桐蔭論叢第29号	－	39－45頁

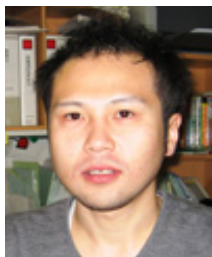
III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本オリンピックアカデミー	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年6月1日～2015年5月31日	日本オリンピックアカデミー総務委員会委員

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(バレーボール部部長兼監督) ・2013年度春季関東大学バレーボールリーグ戦男子6部Aリーグ、女子5部	2013年4月～5月	獨協大学、埼玉大学、他	男子4勝2敗(3位／6部Aリーグ／総合3位)、女子4勝2敗(3位)
2013年度神奈川県知事杯大学バレーボールリーグ戦男子2部、女子1部	2013年6月	神奈川大学	男子2勝2敗(3位)、女子4敗(5位)
2013年度東日本バレーボール大学選手権大会男子・女子	2013年6月	墨田区総合体育館、他	トーナメント1回戦敗退
2013年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦男子6部Aリーグ、女子5部Aリーグ	2013年9月	東京都市大学、成蹊大学、他	男子3勝2敗(2位／6部Aリーグ／総合3位)、女子4勝1敗(2位／5部Aリーグ／総合3位)
2013年度神奈川トーナメント(男子)(女子)	2013年11月	神奈川大学	男子:1回戦敗退、女子:2回戦敗退

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
 単位取得後退学
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体育政策」から「スポーツ政策」への転換－
 専門分野：スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
映像を用いた実技授業	2008年4月から現在	実技科目(剣道・剣道指導法)において、習得すべき技術を映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。
レポートによる種目特性の習得	2008年4月から現在	実技科目(剣道・剣道指導法)において実技技能以外の種目特性の習得のためレポートの作成等の工夫を行っている

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
これまでの研究会での成果として「戦後日本におけるスポーツ政策過程に関する研究」の執筆作業を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
剣道部監督	2013年4月	日本武道館・東京武道館	関東学生剣道選手権大会、関東女子学生剣道選手権大会、関東学生剣道優勝大会、関東学生剣道新人戦大会 出場

乗松 優 (のりまつ すぐる) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
在籍：2012(平成24年)～2014(平成26)年4月
最終学歴：九州大学大学院比較社会文化学府日本社会文化専攻博士後期課程修了
学位：博士(比較社会文化)
学位論文：国際労働力としてのフィリピン人ボクサーに関する一考察—サスキア・サッセンの議論から(修士論文)
プロボクシング東洋選手権とは何だったのか(博士論文)
専門分野：スポーツ社会学、文化社会学、社会史
前職：九州大学大学院特別研究者
資格：プロボクシングプロテスト合格(C級)
NAUIスクーバダイビングライセンス取得
非常勤講師：関東学院大学

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本スポーツ社会学会、日本社会学会、東南アジア学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
岩手県・野田村での復興支援	2012年3月～現在 (不定期)	受け入れ先:野田村役場

(2014年度 新任教員)

吉田 勝光 (よしだ まさみつ) 教授



出生年：1949(昭和24)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：東亜大学大学院総合学術研究科法学専攻修士課程
 学位：博士(体育学) 法学修士
 学位論文：①体育・スポーツ事故に関する法学的研究(博士) ②スポーツ基本条例の制定に係る憲法上の諸問題に関する一考察(修士)
 専門分野：スポーツマネジメント、スポーツ行政・政策、スポーツ法学
 前職：松本大学人間健康学部スポーツ健康学科
 資格：①総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー、②行政書士、③日本テニスボール協会上級公認指導者資格
 非常勤講師：松本大学
 受賞・表彰：学会賞(平成16年度日本体育・スポーツ経営学会)「法務経営の観点から見た学校体育・スポーツ事故に関する一考察」

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「スポーツ法学教育」に関する調査報告	2014年3月8日	「スポーツ法学教育に関する研究会」(日本スポーツ法学会、場所:筑波大学東京文京キャンパス)にて、大学におけるスポーツ法学関係科目の開講状況等(対象:全国の大学)を調査し、報告したものを。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2013年4月から長野県大町市のスポーツ推進審議会委員として「大町市スポーツ推進計画」策定(2014年3月)に関与し、現在、松本市(スポーツ推進審議会)塩尻市(スポーツ推進計画懇話会)の会長として両市のスポーツ推進計画策定に携わっている。このため、スポーツ推進計画の策定に関する研究を重点的に行っている。長野県は健康への関心が高く、同計画への運動(運動指導)による健康の増進の盛り込みに関心を持っている。前勤務先では、総合型地域スポーツクラブ関係の支援事業が、COC事業(文部科学省:「地(知)の拠点整備事業」)の一環として採用されていたことから、三者連携協定(長野県体育センター・長野県総合型クラブ連絡協議会・松本大学間)に基づく事業展開に関する研究を行った。日本スポーツ法学会では「スポーツ法学」科目の調査を行った。この結果を踏まえて、2014年度学会大会で、「スポーツ法学教育の在り方検討委員会」委員長として、テーマ「スポーツ法学教育の在り方を考える」の下、シンポジウムを開催することになっている。今年度は、これまでの成果を論文化する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「スポーツ六法2013」	編共著	2013年4月1日	信山社	小笠原正・塩野宏・松尾浩也編集代表(編集委員、執筆者として関与)	200,202-203,222-223,240-241,749-750,754-755,757-761
「体育・部活のリスクマネジメント」	共著	2014年2月25日	信山社	小笠原正・諏訪伸夫編	19-40
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)運動指導による健康づくり政策への学生のかかわりに関する研究ー健康寿命延伸都市・松本市での展開を考えるー	2013年12月	日本体育・スポーツ政策学会第23回大会(筑波大学東京文京キャンパス)	根本賢一		

(口頭発表)スポーツ政策と文化政策との比較－条例による政策の展開にみる－	2013年12月	日本スポーツ法学会第21回大会(早稲田大学東伏見キャンパス)	吉田隆之
シンポジウム「地域スポーツジャーナルと地域スポーツ」(コーディネータ)	2014年1月	長野県体育センター・長野県総合型クラブ連絡協議会・松本大学主催(松本大学)	
セミナー「長野県の総合型地域スポーツクラブと大学との協働」(コーディネータ)	2014年2月	長野県体育センター・長野県総合型クラブ連絡協議会・松本大学主催(松本大学)	
○講演会・研修会・セミナー 講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
(研修会)スポーツ指導者における体罰問題について	2013年4月	長野県上松町教育委員会・上松町公民館主催	木曾勤労者福祉センター(長野県上松町)
(研修会)体罰防止研修会	2013年11月	長野県松川町立松川中学校	長野県松川町立松川中学校
(講演)スポーツ行政のリスクマネジメント(長野県19市体育担当課長並びに体育担当主任者会議)	2013年11月	長野県19市体育担当課長並びに体育担当主任者会議(当番市:伊那市)	長野県伊那市役所
(講演)スポーツ指導法について	2013年11月	(公財)長野県体育協会	ホテル信濃路(長野市)
(研修会)「スポーツと法」(日本体育協会上級指導員養成講習会)	2013年12月	(公財)愛知県体育協会	愛知県教育会館(名古屋市)
(講演)スポーツ指導における暴力廃絶に向けて	2013年12月	木曾郡体育協会スポーツ指導講習会	木曾福島会館(木曾町)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育・スポーツ政策学会、日本スポーツ法学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本教育行政学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツ社会学会、日本公法学会、日本私法学会、文理シナジー学会等		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2003年4月～現在	日本体育・スポーツ政策学会理事、理事長(2009年4月～現在)	
2006年12月～現在	日本スポーツ法学会理事、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～現在)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
2013年10月～現在	松本市スポーツ推進審議会委員(会長)	
2014年4月～現在	塩尻市スポーツ推進計画懇話会委員(会長)	
2013年4月～現在	大町市スポーツ推進委員会委員	
2000年4月～現在	日本ティールボール協会評議員	
2008年7月～現在	日本スポーツ仲裁機構仲裁人・調停人候補者	
2008年7月～現在	日本スポーツ法学会理事、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～現在)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
「アスリートおにぎり」開発(コーディネーター)	2013.8.26記者発表・試食会[信州スカイパーク松本平広域公園陸上競技場内併設喫茶設「ジョイフル」]	依頼先:NPO法人ジョイフル、TOYBOX(長野県信州スカイパーク指定管理者)。前所属大学(呉研究室)との共同開発。

小笠原 一 彰 (おがさわら かずあき) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
在籍：2014(平成26)年4月～
最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科健康・スポーツ系教育専攻
学位：修士(教育学)
学位論文：競泳選手のクリティカル・スイム・スピードの決定
専門分野：コーチング学、トレーニング科学、運動生理学、スポーツ心理学
前職：桐蔭学園中高社会科教員(専門:日本史)
資格：中高社会科教員1種免許(地理歴史)
受賞・表彰：早稲田大学体育名誉賞(1993)、神奈川県水泳連盟特別功労賞(2012)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

水泳競技における、全国大会レベルの中学・高校・大学スイマー間のピークパフォーマンスを比較・検討。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本体力医学会、運動生理学会、水泳水中運動学会、スポーツ心理学会

任期、活動期間等

学会・機関・団体等における役職等

1995年4月～現在

神奈川県水泳連盟強化委員

2000年4月～現在

神奈川県高校体育連盟水泳専門部常任委員

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
関東学生水泳選手権大会(男子監督)	2013年8月	千葉国際水泳場	関東1部昇格

大学院

工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～
最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
学位 : 博士(工学)
学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
学内役職等 : 研究推進部副部長(2011～)
資格 : 第一種情報処理技術者
受賞・表彰 : 日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999～)
Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
Scilabプログラミング基礎	2010年6月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。3年セミナーで使用。
CAD演習I	2010年9月～	機械製図の基礎とSolidworksの入門
工学基礎実験II	2010年9月～	工学基礎実験II用の学内テキスト
CAD演習II	2011年4月～	Solidworksの応用
デジタル信号処理	2011年4月～	Scilabを用いてさらに応用信号処理として、最大エントロピー法、短時間フーリエ変換、ウェーブレット変換、ケプストラム解析およびヒルベルト変換を実行する方法について解説

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
農工融合計測 1. 超節水精密農業技術の開発(JST CREST 分担研究者 4年目) ・地中計測 1. 遺跡遺構の探査のための地中探査ソナーの研究 2. 空中放射音波を用いた非接触音響探査(国土交通省委託研究 本研究3年目) ・医用計測 1. コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究(科研費 基盤研究(C) 分担研究者 3年目)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「音波を用いた土壌探査技術」	単著	2014年2月7日	騒音制御 Vol.38 No.1		22-27頁

(学術論文)					
“Study on Water Distribution Imaging in the Sand Using Propagation Velocity of Sound with Scanning Laser Doppler Vibrometer”	共著	2013年06月20日	Jpn. J. Appl. Phys., Vol.52	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, T.Shirakawa, M. Sano, M.Ohaba, and S.Shibusawa	07HC04
「音波振動を用いた土壌水分分布計測に関する検討」	共著	2013年6月27日	桐蔭論叢 第28号	中川裕, 杉本恒美	231-235頁
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート非破壊検査 —表層部における剥離欠陥検出の検討—」	共著	2013年6月27日	桐蔭論叢 第28号	赤松亮, 杉本恒美	163-169頁
「逆位相音波を用いた非接触音響探査法の騒音制御に関する検討」	共著	2013年6月27日	桐蔭論叢 第28号	渡邊友規, 杉本恒美	255-260頁
“Development of handheld soil-water sensor for agricultural purposes”	共著	2013年6月27日	桐蔭論叢 第28号	Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto	pp.217-220
「コロナ音解析による健康指標値の検討 -腕モデルと各年代の波形比較-」	共著	2013年6月27日	桐蔭論叢 第28号	小山賢太郎, 杉本恒美, 片山富美代	191-195頁
“Basic Study on Estimating Water Stress of a Plant Using Vibration Measurement of Leaf”	共著	2013年7月22日	Japanese Journal of Applied Physics, Vol.52 (2013)	Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto, Hiroshi Hosoya, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa	07HC13
“Proposal of Non Contact Inspection Method for Concrete Structures Using High-Power Directional Sound Source and Scanning Laser Doppler Vibrometer”	共著	2013年7月22日	Japanese Journal of Applied Physics Vol.52 (2013)	Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura	07HC12
“Generation of disk-like domains with nanometer scale thickness in merocyanine dye LB film induced by hydrothermal treatment”	共著	2013年10月17日	Nanoscale Research Letters (NANO EXPRESS)/Vol. 8	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto	429(9pages)
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
“Study on the real time water distribution imaging in soil using sound vibration, -Study about the Stable Calculation Method of Propagation Velocity of Sound-”		2013年5月3日	International Congress on Ultrasonics(ICU2013) Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore, Singapore	Tsuneyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa	
“Study on non contact acoustic imaging using the realistic crack model”		2013年5月4日	International Congress on Ultrasonics(ICU2013) Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore, Singapore	Tsuneyoshi Sugimoto, Ryo Akamatsu, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura	
「非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -剥離欠陥検出の検討-」		2013年6月5日	物理探査学会第128回学術講演会	杉本恒美, 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義	
“STUDY ON THE ESTIMATION OF THE VOLUME WATER CONTENT IN SOIL BY ABSORBING WATER OF THE PLANT USING PROPAGATION VELOCITY OF SOUND”		2013年6月27日	5th Asian Conference on Precision Agriculture (ACPA)	Tsuneyoshi Sugimoto, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa	
“ESTIMATION OF THE WATER STRESS OF A PLANT BY THE CHARACTERISTIC FREQUENCY OF A LEAF”		2013年6月27日	5th Asian Conference on Precision Agriculture (ACPA)	Motoaki Sano, Hirokazu Sano, Toshiaki Sugihara, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa	

“The Effect of Hydrothermal Treatment on Merocyanine Dye LB Films Structural Control of Dye LB Films”	2013年6月27日	Collaborative Conference on Materials Research (CCMR)2013 (韓国濟州島/Ramada Plaza Jeju Hotel, 1255 Samdo 2-dong, Jeju City, Jeju-do 690-032, R. of Korea)	Yasuhiro F. Miura, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
「音波振動を用いた土壌中の水分分布の可視化に関する研究」	2013年7月5日	3次元画像コンファレンス 2013 早稲田大学(西早稲田キャンパス63号館)	杉本恒美 , 中川裕, 白川貴志, 佐野元昭, 杉原敏昭, 大幅元吉, 澁澤栄
「空中放射音波を用いたコンクリート構造物中の亀裂可視化に関する研究」	2013年7月5日	3次元画像コンファレンス 2013 早稲田大学(西早稲田キャンパス63号館)	杉本恒美 , 赤松亮, 佐野元昭, 杉原敏昭, 歌川紀之, 片倉景義
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil Using SLDV -The soil water measurement during plant cultivation”	2013年7月23日	2013 Joint UFFC, EFTF and PFM Symposium (IEEE)	Tsuneyoshi Sugimoto , Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa, Motoaki Sano, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Study on Non Contact Acoustic Imaging Method for Concrete Structures - Improvement of Signal-to-noise Ratio by using Tone Burst Wave Method -”	2013年7月24日	2013 Joint UFFC, EFTF and PFM Symposium (IEEE)	Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 - (1)検出可能な欠陥の大きさおよび深さに関する検討-」	2013年9月4日	土木学会平成25年度全国大会 日大生産工学部(津田沼)	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 - (2)隙間が異なるはく離欠陥の検出に関する検討-」	2013年9月4日	土木学会平成25年度全国大会 日大生産工学部(津田沼)	北川真也, 歌川紀之, 杉本恒美 , 赤松亮, 片倉景義
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 - (3)音響探査法に用いる探査アルゴリズムの検討-」	2013年9月4日	土木学会平成25年度全国大会 日大生産工学部(津田沼)	歌川紀之, 片倉景義, 赤松亮, 杉本恒美
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 - 送波方法の工夫によるS/N比の改善-」	2013年9月27日	2013年音響学会秋季研究発表会(豊橋科学技術大学)	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
「非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 - トーンバースト波を用いたS/N比の改善」	2013年10月22日	物理探査学会第129回学術講演会(高知会館)	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義
“Study on Non-contact Inspection Method for Concrete Structures by using Air-borne Sound Wave, -SNR Improvement using Time and Frequency Gate Processing Method-”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Study on estimation of the volume water content in the culture using a sound wave. - Study on the improvement in sensitivity of the handheld type sensor-”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Kaori Yamagishi, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on the Healthy Index Value by the Korotkoff Sound Analysis, -Waveform comparison using each generation and the arm model (II)-”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Kentaro Koyama, Tsuneyoshi Sugimoto , Fumiyo Katayama
“Basic Study of Water Distribution Measurement in Soil, -Acoustic Imaging of Water Distribution in the Sand-”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Estimation of Volume Water Content in Culture Soil using Handheld Sound Source and Sensors”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Toshiaki Sugihara, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Non-contact Inspection Method for Concrete Structures by using Air-borne Sound Wave, -The defective detection experiment using a real steel girder bridge-”	2013年10月26日	8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME)	Ituski Uechi, Tsuneyoshi Sugimoto

“Non Contact Acoustic Inspection Method using High-Power Directional Sound Source and Scanning Laser Doppler Vibrometer”	2013年11月21日	Asian Pacific Conference on Non-Destructive Testing 2013 (APCNDT2013) Renaissance Convention Centre Hotel, Mumbai, India	Tsuneyoshi Sugimoto , Ryo Akamatsu, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Non-contact Inspection Method for Structure using High Power Sound Source, - Improvement of S/N Ratio by Time and Frequency Gating Method-”	2013年11月21日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2013 Kyoto (Kanbai-kan, Doushisha Univ.)	Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Non-contact Inspection Method for Structure using High Power Sound Source, - Examination of Detectable Size and Depth-”	2013年11月21日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2013 Kyoto (Kanbai-kan, Doushisha Univ.)	Kageyoshi Katakura, Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Utagawa Noriyuki
“1Study on the Estimation of the Volume Water Content in the Culture Soil during Plant Cultivation using Sound Vibration”	2013年11月21日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2013 Kyoto (Kanbai-kan, Doushisha Univ.)	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Toshiaki Sugihara, Kaoru Yamagishi, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
“Study on Health Condition Monitoring Method of the Plant by Vibration Measurement of Leaf using Acoustic Radiation Force”	2013年11月21日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2013 Kyoto (Kanbai-kan, Doushisha Univ.)	Motoaki Sano, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Takashi Shirakawa, Toshiaki Sugihara, Kaoru Yamagishi, Motoyoshi Ohaba, Sakae Shibusawa
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する研究 -剥離欠陥検出の検討-」	2013年11月26日	平成25年度秋季講演大会 RCC文化センター(広島)	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート表層部の欠陥映像化に関する研究、一時間・時間周波数ゲート法によるS/N比の改善」	2014年2月21日	アコースティック・イメージング研究会 JAXA 調布航空宇宙センター 飛行場分室、研究総合C1号館4階 大会議室	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
「音響放射圧を用いた葉および茎の振動計測による植物健康状態の評価に関する検討」	2014年2月22日	アコースティック・イメージング研究会 JAXA 調布航空宇宙センター 飛行場分室、研究総合C1号館4階 大会議室	杉本恒美 , 中川裕, 佐野元昭, 白川貴志, 山岸香, 杉原敏昭, 大幅元吉, 澁澤栄
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -検出可能な欠陥の平面規模および深さの検討-」	2014年3月10日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 (日本大学)	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -アスファルト供試体を用いた音響探査の適用実験-」	2014年3月12日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 (日本大学)	上地 樹, 赤松 亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
「音響振動による作物吸水ニーズの推定に関する研究 -ハイスピードカメラを用いた同時多点計測-」	2014年3月12日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 (日本大学)	佐野元昭, 杉原敏昭, 杉本恒美 , 中川裕, 白川貴志, 山岸香, 大幅元吉, 澁澤 栄
「音響振動による植物の作物吸水ニーズの推定に関する研究 -レーザ変位計を用いた長期間連続計測に関する検討-」	2014年3月12日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 (日本大学)	中川裕, 杉本恒美 , 佐野元昭, 白川貴志, 杉原敏昭, 山岸香, 大幅元吉, 澁澤 栄
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究 -地中縦挿し型送受信器を用いた植物根圏土壌水分把握-」	2014年3月12日	日本音響学会 2014年 春季研究発表会講論集 (日本大学)	白川貴志, 杉本恒美 , 佐野元昭, 杉原敏昭, 山岸香, 中川裕, 大幅元吉, 澁澤 栄
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 -トーンバースト波加振法を用いたS/N比の改善-」	2014年3月14日	土木学会関東支部 第41回技術研究発表会	赤松亮, 杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義
「(招待講演)空中放射音波とレーザードップラ振動計を用いた遠距離非接触音響探査法」	2014年3月17日	第61回応用物理学会春季学術講演会	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義
「(招待講演)コンクリート非破壊検査のための遠距離非接触音響探査法」	2014年3月19日	超音波による非接触センシング・先進評価技術研究会	杉本恒美 , 赤松 亮, 歌川紀之, 片倉景義

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法」	2014年2月6日	テクニカルショウヨコハマ2014	セミナー会場D
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
「植物の健康状態の評価方法および評価装置ならびに植物の栽培方法」	2013年12月13日	特願2013-258011号	桐蔭学園 (杉本恒美、佐野元昭、中川裕)
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「優秀講演賞」	2014年3月14日	土木学会 第41回技術研究発表会	赤松亮, 杉本恒美, 歌川紀之, 片倉景義
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
政策領域8「道路資産の保全」 「非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発」	2010年度～2013年度	国土交通省「道路政策の質の向上に資する技術開発研究」 政策領域8「道路資産の保全」 研究代表者: 杉本恒美	
研究領域名「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」 研究課題名「超節水精密農業技術の開発」	2010年度～2014年度	JST(独)科学技術振興機構 CREST(戦略的創造研究推進事業) 研究代表者: 東京農工大 澁澤栄教授 総事業費約2億円(5年間)	
基盤研究(C)「コトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究」	2011年度～2013年度	文部科学省科研費、研究代表者: 片山富美代、分担研究者: 杉本恒美	
基盤研究(C)「葉の振動計測による植物の水ストレスの評価に関する研究」	2013年度～2015年度	文部科学省科研費、研究代表者: 佐野元昭、分担研究者: 杉本恒美	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
2013 International Congress on Ultrasonics (ICU2013) 出席・発表	2013年5月01日～06日	Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore, (Singapore)	
5th Asian Conference on Precision Agriculture 出席・発表	2013年6月24日～29日	Hotel Ocean Suites, Jeju Island, (Republic of Korea)	
9th European Conference on Precision Agriculture (ECPA)出席・発表	2013年7月5日～12日	Lleida University, Lleida, Spain	
2013 Joint UFFC, EFTF and PFM symposium 出席・発表	2013年7月20日～29日	Prague Congress Centre, Czech Republic	
Asia Pacific Conference on Non-Destructive Testing (APCNDT 2013)出席・発表	2013年11月15日～23日	Renaissance Convention Centre Hotel, Mumbai, India	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「桐蔭横浜大、音波でコンクリ劣化検査-保守作業を効率化」	2013年7月22日	日刊工業新聞 第21679号 1面	
(その他特記事項)			
「第34回超音波シンポジウム運営委員」(2013年4月2日) 超音波シンポジウム(第34回超音波エレクトロニクス基礎と応用に関するシンポジウム)の運営委員に3年連続で選出			
「Session Chair (ICU2013, NDT: Industrial Applications IV)」(2013年5月4日) International Congress on Ultrasonic 2013 (Singapore, 2nd-5th May 2013) 2013/05/04 Sa33 NDT: Industrial Applications IV (Riverfront3, Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore, Singapore) Chairs: Tsuneyoshi Sugimoto , Toin University of Yokohama Zdenek Prevorsevsky, Institute of Thermomechanics AS CR			

「物理探査学会第128回学術講演会・座長(防災2セッション)」 物理探査学会第128回学術講演会 6月5日 第2会場 [防災2]セッション 座長:杉本恒美 (13:00-15:20)
「国土交通省委託研究「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」採択」(2013年7月10日) 研究題目「非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発」(3年目) 研究代表者:杉本恒美(桐蔭横浜大学) 研究分担者:歌川紀之(佐藤工業株)、片倉景義(明篤技研) 研究期間:平成25年7月10日-平成26年3月19日 助成金額:2100万円
「Presider, Oral presentation 1 (8th Toin International Symposium on BME)」(2013年10月26日) Presider, Oral presentation 1 (8th Toin International Symposium on BME) 2013.10.26 9:00am-11:00am, Paulownia Hall, Toin Memorial Academium B2F
「日本音響学会 ポスターセッション座長」 超音波・水中音響・アコースティックイメージング・熱音響技術部門 2014年3月12日 9:30-12:00(日本大学)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、日本文化財科学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員

宮坂 力 (みやさか つとむ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2001(平成13)年12月～
 最終学歴：東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位：工学博士
 学位論文：光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野：光電気化学、環境エネルギー科学
 前職：富士写真フイルム足柄研究所主任研究員
 留学：カナダ・ケベック大学トリビエール校生物物理学科 (1979～1980)
 資格：危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰：2002年 (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」
 2004年 横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」
 2005年 Scientific American 50 selection (2005)
 2009年 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞
 2012年 日本写真学会 学術賞
 2013年 日本学術振興会175委員会 イノベティブPV賞

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

最先端研究開発支援プログラム(FIRST)「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」はプロジェクトの最終年度に当たり、研究全体の成果をまとめて、複数の公開シンポジウムで発表した。また経済産業省NEDOによる次世代高性能光発電プロジェクトにおいては、グンゼ(株)と産学連携で進めてきたプラスチック色素増感太陽電池の高効率化開発は本年度で終結となり、これに替わって、早稲田大学との共同研究として蓄電型ハイブリッド太陽電池に関する新たなテーマを開始した。10月からは、新しくプロジェクトとして採択された科学技術振興機構(JST)の先端的低炭素化研究(ALCA)の研究受託テーマである有機無機ハイブリッド太陽電池の高効率化研究がスタートし、本学において2009年に世界初の光発電材料として論文発表した有機無機ペロブスカイト結晶を用いる高効率太陽電池の研究開発に着手した。このペロブスカイト太陽電池の研究が世界に加速的に広がる中で、国内、海外の学会で技術紹介と最新データを報告する活動を行った。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「太陽電池と蓄電池との融合による光蓄電素子の開発」	単著	2013年4月	Material Stage	宮坂 力	
「高効率で進化する有機無機ペロブスカイト太陽電池」	単著	2014年2月10日	応用物理, 83巻	宮坂 力	92-97頁
「ペロブスカイト型太陽電池の開発」	単著	2014年3月	現代化学, 3月号	宮坂 力	24-32頁
(学術論文)					
“Efficiency enhancement of ZnO-based dye-sensitized solar cells by low-temperature TiCl ₄ treatment and dye optimization”	共著	2013年4月22日	J. Phys. Chem. C, 117	N. Sakai, T. Miyasaka, and T. N. Murakami	pp.10949-10956
「銀インクを電極作製に用いる有機/無機ハイブリッド太陽電池」	共著	2013年6月	桐蔭論叢, 28	酒井誠弥、池上和志、宮坂 力	197-203頁
「有機色素の共増感酸化チタン電極における吸着制御の検討と高効率化」	共著	2013年6月	桐蔭論叢, 28	森田紗織、池上和志、宮坂 力	237-242頁
「有機系太陽電池の現状とプラスチック色素増感太陽電池の応用展開」	共著	2013年6月	桐蔭論叢, 28	池上和志、宮坂 力	99-105頁

“Plastic based dye-sensitized solar cells using Co9S8 acicular nanotube arrays as the counter electrode”	共著	2013年9月11日	J. Mater. Chem. A, 1	H.-Wei Chen, C. -W Kung, C. -M. Tseng, T. -C. Wei, N. Sakai, S. Morita, M. Ikegami, T Miyasaka , and K. -C. Ho	pp. 13759-13768
“Tri-functional Nb2O5 nano-islands coated on an indium tin oxide layer for a highly efficient dye-sensitized plastic photoanode”	共著	2013年10月15日	J. of Power Sources, 240	Saori Morita, Tzu-Chien Wei, Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka	pp753-768
“Highly efficient plastic-based quasi-solid-state dye-sensitized solar cells with light-harvesting mesoporous silica nanoparticles gel-electrolyte”	共著	2014年1月	J. of Power Sources, 245	H-W. Chen, Y-D. Chiang, C-W. Kung, N. Sakai, M. Ikegami, Y. Yamauchi, K. C-W. Wu, T. Miyasaka , K-C. Ho	pp.411-417
“MgO-hybridized TiO2 interfacial layers assisting efficiency enhancement of solid-state dye-sensitized solar cells”	共著	2014年2月10日	Appl. Phys. Lett. 104	N. Sakai, M. Ikegami, and T. Miyasaka	pp.063303
“Efficiency enhancement in ZnO:Al-based dye-sensitized solar cells structured with sputtered TiO2 blocking layers”	共著	2014年3月10日	J. Phys. Chem. C, 118	A. Alberti, G. Pellegrino, G. G. Condorelli, C. Bongiorno, S. Morita, A. La Magna, and T. Miyasaka	pp.6576-6585
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Development of nanostructured organic inorganic hybrid solar cells”	2013年7月1日～7月5日	The 7th International Conference on Materials for Advanced Technologies (ICMAT2013) (Singapore)	Tsutomu Miyasaka		
“Solution-printable solid-state sensitized solar cells toward next generation organic photovoltaics”	2013年7月8日～7月12日	The 2nd International Conference on Photocatalysis and Solar Energy Conversion: Development of Materials and Nanomaterials (PASEC-2), Kyoto University, Kyoto, Japan (国際学会)	Tsutomu Miyasaka		
“Solution-printable solid-state sensitized solar cells toward next generation organic photovoltaics”	2013年7月11日	The 2nd International Conference on Photocatalysis and Solar Energy Conversion: Development of Materials and Nanomaterials (PASEC-2) (京都大学)	Tsutomu Miyasaka		
「プロブスカイト型ハイブリッド太陽電池の原理と今後の展開」	2013年7月12日～7月13日	CREST有機太陽電池シンポジウム, 京都大学 宇治キャンパス, おうばくプラザ・きはまだホール	宮坂 力		
“Sensitized and hybrid organic solar cells toward printable photovoltaics”	2013年8月17日～8月19日	Solar Energy for World Peace, Istanbul Convention Center, Istanbul, Turkey (国際学会)	Tsutomu Miyasaka		
「フレキシブル色素増感太陽電池の開発とエネルギーハーベスト」(“R&D of flexible dye-sensitized solar cells for energy harvesting applications”)	2013年9月4日～9月6日	CREST有機太陽電池シンポジウム, 京都大学 宇治キャンパス, おうばくプラザ・きはまだホール	宮坂 力		
「Organo metal perovskiteハイブリッド固体太陽電池の開発(1)」	2013年9月27日～9月28日	2013年電気化学秋季大会, 東京工業大学 大岡山キャンパス, (東京都目黒区大岡山)	酒井誠弥, 池上和志, 宮坂力		

「フルプラスチック色素増感太陽電池の超薄ブロッキング層による高効率化」	2013年9月27日～9月28日	2013年電気化学秋季大会, 東京工業大学 大岡山キャンパス, (東京都目黒区大岡	宮坂力、Yu-TingHuan、池上和志
「進化する有機系の高効率太陽電池の開発」	2013年11月2日	第44回中化連秋季大会(静岡大学浜松キャンパス)	宮坂 力
“Fabrication of high efficienct full-plastic dye-sensitized solar cells by enhancement of blocking compact layer”	2013年11月23日～11月26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photovoltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan	Y Ting Huang, M. Ikegami, and T. Miyasaka
“Optimizing TiO ₂ blocking and mesoporous layers for CH ₃ NH ₃ PbI ₃ -xCl _x perovskite-based mesostructured solar cells”	2013年11月23日～11月26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photovoltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan	A. Jena, N. Sakai, and T. Miyasaka
“Development of high voltage organic-inorganic hybrid photovoltaic cells with metallocene complexes”	2013年11月23日～11月26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photovoltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan	A. Ishii and T. Miyasaka
“Evolution of perovskite-based hybrid solar cells of high voltage and efficiency”	2013年11月23日～11月26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photovoltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan	T. Miyasaka
「有機—無機ハイブリッド太陽電池の新展開」	2014年03月28日	日本化学会日本化学会第94年会、S7会場、名古屋大学 東山キャンパス	宮坂 力
「ペロブスカイト太陽電池の高効率化と課題」	2014年03月29日	日本化学会日本化学会第94年会、H5会場、名古屋大学 東山キャンパス	宮坂 力
「低温焼結白金ナノコロイドを触媒層とするフィルム型色素増感太陽電池の開発」	2014年3月27日～3月30日	日本化学会第94年春季年会、名古屋大学 東山キャンパス	小島 陽広・河瀬 弘和・小谷 淳・杉生 剛・手島 健次郎・池上和志・宮坂 力
“Solution-printed solar cell based on dope-type CH ₃ NH ₃ PbI ₃ -xCl _x perovskite nanostructured absorbers”	2014年3月30日	電気化学会第81回大会、関西大学千里山キャンパス	Ajay Jena, 石井あゆみ, 酒井誠弥, 宮坂 力
「ヨウ化鉛ペロブスカイトを用いた有機無機ハイブリッド太陽電池の高電圧化」	2014年3月30日	電気化学会第81回大会、関西大学千里山キャンパス	石井あゆみ, Ajay Jena, 宮坂 力
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「色素増感太陽電池と有機系ハイブリッド太陽電池の最新動向」	2013年4月13日	パワーエレクトロニクス学会4月定例研究会	中央電気倶楽部(大阪府大阪市)
「軽量、光透過性太陽電池パネルの開発」	2013年4月15日	公益財団法人かずさDNAシンポジウム	京都大学東京オフィス(東京都品川区)
「全固体ナノ構造ハイブリッド太陽電池」	2013年4月26日	光機能材料研究会第43回講演会有機系太陽電池の最新実用化技術、主催:光機能材料研究会	東京大学駒場キャンパス、3号館 ENEOSホール
「塗布型有機無機ハイブリッド材料を用いる太陽電池」	2013年5月23日	第10回「次世代の太陽光発電システム」シンポジウム 学振175委員会主催	石川県立音楽堂(石川県金沢市)
「色素増感太陽電池の新しい方向と印刷式製造技術」2013	2013年6月26日	フロンテクノロジー技術部会	機械振興会館 別館4階(東京都港区)

「農地での太陽光発電に使える有機太陽電池パネルの開発」	2013年7月10日	千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議、平成25年度総会・事例報告会、主催：千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議、共催：千葉県、公益財団法人かずさDNA研究所	千葉市中央区
「千葉で“農業と太陽光発電の両立について”考える」	2013年7月10日	千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議、平成25年度総会・事例報告会、主催：千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議、共催：千葉県、公益財団法人かずさDNA研究所	千葉市中央区
「色素増感型とハイブリッド型有機太陽電池の開発」	2013年7月18日	第58回高分子夏季大学	広島国際会議場(広島市)
「人工環境における農水産業」	2013年10月11日	BioJapan 2013 セミナー	パシフィコ横浜 アネックスホール(神奈川県横浜市)
「ハイブリッド太陽電池はどう変わるか」	2013年10月21日	日本化学会秋季事業 第3回CSJ化学フェスタ	タワーホール船堀・瑞雲(東京都江戸川区)
「進化する有機系の高効率太陽電池の開発」	2013年11月2日	電気化学会東海支部・中部化学会関連学会等連合検討	静岡大学 浜松キャンパス(静岡県浜松市)
「ペロブスカイト系有機無機ハイブリッド太陽電池の現状と将来展望」	2013年11月20日	有機太陽電池コンソーシアム 第5回定例研究会講演会	京都大学宇治キャンパス
「ペロブスカイト型ならびに有機無機ハイブリッド太陽電池の開発」	2013年11月22日	学振先端ナノデバイス・材料テクノロジー第151委員会第3回研究会	東京大学工学部9号館
「太陽電池研究の最前線」	2013年11月22日	学振先端ナノデバイス・材料テクノロジー第151委員会第3回研究会	東京大学工学部9号館
「有機金属系の顔料ならびにペロブスカイトを用いる光電変換」	2013年12月12日	機光エレクトロニクス部会 第57回研究会、情報科学用有機材料学振第142委員会	東京理科大学 森戸記念館 第1フォーラム
「塩素ドーブ型ペロブスカイトの光物性と光電変換」	2014年1月14日	ペロブスカイト型太陽電池講演会、応用物理学会応用電子物性分科会主催	首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス
「ペロブスカイト型太陽電池の最新研究開発動向」	2014年1月23日	光機能材料研究会第46回講演会「光を利用する一創る、造る、防ぐ」	東京大学先端科学技術研究センター4号館
「ペロブスカイト有機無機ハイブリッド太陽電池の特徴と高効率化開発」	2014年1月31日	学術振興会第166委員会透明酸化物	青山学院大学
「躍進する有機ハイブリッド型ペロブスカイト太陽電池の開発」	2014年2月5日	テクニカルショーヨコハマ2014 産学連携ワークショップ	パシフィコ横浜(神奈川県横浜市、みなとみらい)
「有機無機ペロブスカイト型ハイブリッド太陽電池の高効率化開発」	2014年2月27日	PVEXPO 2014, 専門技術セミナー	東京ビッグサイト
“Organic Inorganic Hybrid Perovskite solar cell: Current Progress and Future Potential”	2014年3月7日	学振第175委員会:第10回国際ワークショップ	東京テックフロント(東京工業大学蔵前ホール)
「ペロブスカイト型光電変換素子の実力」	2014年3月14日	エネルギーハーベスティングコンソーシアム	機械振興会館、東京
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
色素増感型太陽電池、及びその製造方法、並びにその施工方法	2012年12月14日(出願日) 2014年6月30日(公開日)	特願2012-273327 特開2014-120263	発明者:宮坂 力、池上和志、梶田直人 出願人:学校法人桐蔭学園、太陽工業株式会社
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
日本学術振興会第175委員会イノベイティブPV賞	2013年5月23日	日本学術振興会第175委員会	宮坂 力

第8回DSC-OPVアジア会議、Best Poster Award	2013年11月26日	第8回DSC-OPVアジア会議	Ajay Kumar Jena
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
色素増感太陽電池の新規技術の開発	2012年4月～2013年4月	日立造船株式会社	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「有機無機ハイブリッド太陽電池の開発」	2010年4月～2014年3月	最先端研究開発支援プログラム(FIRST) リーダー: 東京大学瀬川教授、サブテームリーダー: 桐蔭横浜大学(担当: 宮坂力)	
「NEDO太陽光発電システム次世代高性能技術の開発」	2010年4月～現在	受託テーマ「フィルム型軽量低価格色素増感太陽電池の研究開発」、産学連携型	
「有機無機ハイブリッド太陽電池の高効率化開発」	2013年10月～現在	科学技術振興機構(JST)、先端的低炭素化技術開発(ALCA)による研究助成、代表: 桐蔭横浜大学(担当: 宮坂力)	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
“Development of nanostructured organic inorganic hybrid solar cells”	2013年6月30日～7月5日	The 7th International Conference on Materials for Advanced Technologies (ICMAT2013), Suntec International Convention & Exhibition Centre, Singapore	
“Sensitized and hybrid organic solar cells toward printable photovoltaics”	2013年8月17日～19日	Solar Energy for World Peace, Istanbul Convention Center, Istanbul, Turkey	
“Fabrication of high efficient full-plastic dye-sensitized solar cells by enhancement of blocking compact layer”	2013年11月23日～26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photooltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan, Korea	
“Optimizing TiO2 blocking and mesoporous layers for CH3NH3PbI3-xClx perovskite-based mesostructured solar cells”	2013年11月23日～26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photooltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan, Korea	
“Development of high voltage organic-inorganic hybrid photovoltaic cells with metallocene complexes”	2013年11月23日～26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photooltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan, Korea	
“Evolution of perovskite-based hybrid solar cells of high voltage and efficiency”	2013年11月23日～26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photooltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan, Korea	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「日本初の新型太陽電池、効率向上世界競う、桐蔭横浜大」	2014年2月10日	日経産業新聞	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会、MRS(Material Research Society)、写真学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年4月～現在	(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 技術委員(若手研究ナノテクノロジー分野評価委員)
2009年4月～現在	(独) 科学技術振興機構(JST) 国際科学技術協力推進委員、審査委員
2010年4月～現在	研究開発支援プログラム(FIRST) サブテームリーダー
2010年4月～現在	(社) 電気化学会評議員
2012年～現在	日本学術振興会、科学研究補助金評価委員

三浦 康弘 (みうら やすひろ) 准教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：1996(平成8)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程
 学位：博士(理学)
 学位論文：Studies on Structure and Properties of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films Based on Metal(dmit)₂
 専門分野：物理学、分子エレクトロニクス
 前職：University of Houston, Department of Chemistry
 Postdoctoral Research Fellow, State Employee of Texas
 留学：University of Houston(米国)(1994年7月～1996年3月)
 非常勤講師：埼玉大学工学部非常勤講師(2011～2013)
 明治大学理工学部 電気電子生命学科 非常勤講師(2012～現在)
 受賞・表彰：東京理科大学理事長賞(1992)
 1998年、2002年材料技術研究会討論会ポスター賞
 Award of Excellence, Oral Session Award, Toin International Symposium on Biomedical Engineering, “Fabrication of Highly Conductive Patterns in Molecular Thin Films”
 財団法人 池谷科学技術振興財団 研究助成 受賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育方法の実践例	平成8年4月～現在	<p>「工学へのステップ」、「フレッシュマンセミナーI, II」、「化学総合演習」等の実験を伴わない授業に於いては、毎回20分テストの小テストを実施し、学生の予備知識の程度やそれまでの講義内容の理解度を確認し、講義内容に反映させてきた。</p> <p>実験を伴う授業に関しては、実験で扱う重要事項の歴史的な背景にまで触れる説明をプロジェクターや配布資料を用いて行い、学生の興味と理解が深まるように努めた。また、レポートの書き方の指導にも力を入れ、再提出等も含めて指導を行った。配布資料については、2011年度より、原則として、WEBで公開している。</p> <p>また、卒業研究においては、研究指導を行った四年生が、その研究成果を、材料技術研究協会討論会および応用物理学関連連合講演会等の学会に卒業研究生自身が登壇して発表するまで指導を行ってきている。</p> <p>共同研究者である大学院修士課程・博士課程の学生に対しては、国内の学会のみならず、国内外で開かれる国際シンポジウム・学会において、ポスター発表や口頭発表を英語で行うまで指導を行ってきている。国際的な舞台上、研究成果を学生自身が論文や口頭発表・ポスター発表により英語で行うことに特に力を入れており、英語の基礎学力をつけるため、週一回の自主英語セミナーを開講し、研究室の枠を越えて参加する学生の指導も行っている。</p>

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>科学研究費補助金 基盤研究(C) (2010年度～2012年度、研究代表者 三浦康弘、課題名: 分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索)で採択された研究課題で得た成果を基盤とし、分子薄膜に関する研究を進めた。その中で、文部科学省先端研究施設共用促進事業: 京都大学エネルギー理工学研究所ADMIRE計画(イオン加速器とマルチスケール材料評価装置群による産業支援)に「高導電性分子超薄膜の作製と評価」・文部科学省先端研究施設共用促進事業(イオン加速器とマルチスケール材料評価装置群の無償使用)が採択され、新たに、(1)集束イオンビーム(FIB)を用いた構造評価、(2)サブミクロンサイズの電極ギャップの作製、を手法として取り入れて研究を進めた。研究成果は、英文の原著論文1報、本人登壇による国内学会における発表を5件(一般口頭講演4件、招待講演1件)、及び、本人登壇による国際学会における招待講演1件の発表に繋がった。今後、これらの成果をもとに科学研究費補助金等の外部資金の獲得を目指す。また、外部への情報発信は、学術的会合における研究発表、及び、学術論文の出版だけでなく、以下のURLにおいて、日英両語で行った。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/miura/index.html</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Generation of disk-like domains with nanometer scale thickness in merocyanine dye LB film induced by hydrothermal treatment”	共著	2013年10月17日	Nanoscale Research Letters (NANO EXPRESS)/Vol. 8	Yasuhiro F. Miura , Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto	429(9pages)
「長鎖アルキルアンモニウム-Metal(dmit) ₂ 塩の自己組織化能と導電性分子薄膜の作製」	共著	2014年3月4日	IEICE Technical Report OME2013-95(2014-03)	三浦康弘, 秋山弘成, 杉本直樹, 長谷川裕之, 城石英伸, 高橋三男	18-20頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“The Effect of Hydrothermal Treatment on Merocyanine Dye LB Films”(招待講演)	2013年6月27日	Collaborative Conference on Materials Research (CCMR)2013 (韓国済州島/Ramada Plaza Jeju Hotel, 1255 Samdo 2-dong, Jeju City, Jeju-do 690-032, R. of Korea)	Yasuhiro F. Miura , Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto		
「メロシアン色素LB膜における光学特性の改質(IX)ー超構造生成を伴うJ-会合体の再編ー」(一般口頭講演)	2013年9月17日	第74回応用物理学会秋季学術講演会 (同志社大学京田辺キャンパス)	三浦康弘, 星野純一, 井上杏子		
「水熱処理を利用したメロシアン色素含有LB膜の会合形成制御」(一般口頭講演)	2013年12月6日	2013年材料技術研究協会討論会 (東京理科大学野田校舎セミナーハウス)	三浦康弘, 井上杏子, 星野純一		
「メロシアン色素分子超薄膜の会合形成制御 (II)」(一般口頭講演)	2013年12月14日	第13回琉球物性研究会 (琉球大学 理学部理系複合棟(沖縄県中頭郡西原町字千原1番地))	三浦康弘, 井上杏子, 星野純一		
「[招待講演] 長鎖アルキルアンモニウム-Metal(dmit) ₂ 塩の自己組織化能と導電性分子薄膜の作製」(招待講演)	2014年3月4日	電子情報通信学会・有機エレクトロニクス研究会(OME) (東京工業大学 大岡山キャンパス)	三浦康弘, 秋山弘成, 杉本直樹, 長谷川裕之, 城石英伸, 高橋三男		
「アルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ 塩のLB膜の電気化学的特性評価」(一般口頭講演)	2014年3月20日	2014年春季 第61回 応用物理学関係連合講演会 (青山学院大学相模原キャンパス(神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1))	三浦康弘, 城石英伸, 高橋三男		

○その他		
(産学協同研究)		
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称
高導電性分子超薄膜の開発に関する研究	2012年12月～現在	Global Science 株式会社
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「高導電性分子超薄膜の作製と評価」	2012年12月～2013年9月	文部科学省先端研究施設共用促進事業:京都大学エネルギー理工学研究所ADMIRE計画(イオン加速器とマルチスケール材料評価装置群による産業支援)・「高導電性分子超薄膜の作製と評価」・文部科学省先端研究施設共用促進事業(イオン加速器とマルチスケール材料評価装置群の無償使用)(研究分担者)
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」	2013年10月～2014年3月	東京大学物性研究所 平成25年度(後期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給)(研究代表者)
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2013に出席し、本人登壇による講演(招待講演)を行い、さらに、Scientific Program Committeeの一人として、会議の運営に携わるため。	2013年6月26～6月29日	Ramada Plaza Hotel Jeju, 済州島 (韓国)
(その他特記事項)		
「国内シンポジウム・組織委員」2013年12月9日～11日 第23回日本MRS年次大会—エコ・エネルギーを切り拓く先進材料研究—において、セッションL(分子性薄膜の作製・評価・応用—高度な配向制御、配向解析、および機能発現を目指して—) 組織委員		
「国内シンポジウム・座長」2013年12月9日 第23回日本MRS年次大会—エコ・エネルギーを切り拓く先進材料研究—において、セッションL(分子性薄膜の作製・評価・応用—高度な配向制御、配向解析、および機能発現を目指して—) 座長 (12月9日(月)の口頭講演)。		
「国際シンポジウム・口頭講演チェア(座長)」2013年10月26日 8th TOIN International Symposium on BME 口頭講演 座長		
「第74回応用物理学会秋季学術講演会におけるプログラム編集委員・世話人」2013年9月16日～20日 第74回応用物理学会秋季学術講演会(同志社大学京田辺キャンパス)においてプログラム編集委員として運営に参加・協力 内容:大分類12(有機分子・バイオエレクトロニクス)におけるプログラム編集、若手奨励賞、ポスター賞の審査等。特に中分類12.1(作製技術)の世話人としての業務を九州工業大学・永松博士と2名で分担。		
「国際会議におけるセッションチェア(座長)」2013年6月27日 Collaborative Conference on Materials Research (CCMR)2013(6月24日(月)～6月28日(金)、韓国済州島) セッションチェア(6月17日)。		
「2013 Collaborative Conference on 3D & Materials Research」2013年6月26日～29日 国際会議、2013 Collaborative Conference on 3D & Materials Research(韓国済州島 ラマダホテル済州島)においてScientific Program Committee Memberの一人として会議の運営に参加・協力		
「平成25年度前期 東京大学物性研究所・共同利用」2013年4月1日 平成25年度前期 東京大学物性研究所・共同利用に提案課題、「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質に関する研究」が採択。極限環境物性研究部門・上床美也教授との共同研究。		
「先端研究施設共用促進事業 京都大学 エネルギー理工学研究所 ADMIRE計画に採択」2013年4月1日 先端研究施設共用促進事業・京都大学エネルギー理工学研究所・ADMIRE計画に提案した研究課題、「高導電性分子超薄膜の作製と評価」が採択。2012年6月1日～2013年3月31日の期間で採択済みの研究課題の実施期間が、申請により、2013年9月30日まで延長。		
「2014年春季 第61回 応用物理学関係連合講演会におけるプログラム編集委員・世話人」2014年3月17日～3月20日 第61回応用物理学関係連合講演会(青山学院大学相模原キャンパス)においてプログラム編集委員として運営に参加・協力 内容:大分類12(有機分子・バイオエレクトロニクス)におけるプログラム編集、若手奨励賞、ポスター賞の審査等。特に中分類12.1(作製・構造制御)の世話人としての業務を九州工業大学・永松博士と2名で分担。		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
応用物理学会、応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会、日本化学会、日本化学会 コロイド及び界面部会、材料技術研究協会、日本MRS、高圧力学会、電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1997年4月1日～現在	材料技術研究協会 『材料技術』誌 編集委員	
2005年～現在	Transaction of Materials Research Society of Japan誌 特別編集委員	
2007年4月1日～現在	東京都狛江市水泳協会 監事	
2012年4月1日～現在	材料技術研究協会 理事	
2013年1月15日～現在	公益社団法人 応用物理学会・プログラム編集委員	
2013年6月	国際会議, Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2013), Scientific Program Committee Member	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
桐蔭学園高校理数科課題研究 指導 (化学実験)、課題名:「細胞膜を真似た膜(人工脂質膜)の作製」	2014年3月～7月(全4回)	桐蔭学園高校 50期理数科

池上 和志 (いけがみ まさし) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修士
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ペクセル・テクノロジーズ(株) 研究開発部博士研究員
 資格：甲種危険物取扱者
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特開2008-198488

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
色素増感太陽電池の実用化に向けて、プラスチック上への低温成膜できる酸化チタンナノ多孔膜の光電気化学特性に関する研究を進めた。特に、作製した酸化チタン電極の、電子密度、電子寿命を、ポテンシオスタットとオシロスコープを組み合わせた装置で計測できる装置を研究室内で構築し、計測を進めた。その結果、酸化チタン電極の光電気化学的特性は、電極の焼成温度に大きく依存することを明らかにした。特に、焼成温度300度を境に、電子寿命と電子密度が大きく異なることを明らかにした。現在は、この結果をいかして、150度以下の低温焼成においても高効率を実現できる酸化チタン電極の作製方法の研究を進めている。研究成果については、電気化学会のセミナーなどで、その測定手法などの普及活動を行った。また、7月と8月には、産総研その他におけるサイエンスイベントに参加し、色素増感太陽電池のデモンストレーションを行った。7月には、太陽光発電の国際展示会PVJ APANでの展示発表を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「2013 色素増感太陽電池の全貌★徹底解説」	単著	2013年10月29日	電子ジャーナル	-	158頁
(総説・論説)					
第7節[3] 色素増感太陽電池における電気化学インピーダンス測定・解析のポイント	単著	2013年5月31日	電気化学/インピーダンス測定のノウハウと正しい解釈、技術情報協会	池上和志	
第8章 目的・用途に最適な光学薄膜の作製技術と欠陥対策、第19節 色素増感太陽電池における透明導電膜の作製と低抵抗化	単著	2013年6月28日	光学薄膜の最適設計・成膜技術と膜厚・膜質・光学特性の制御、技術情報協会	池上和志	
第14章 プリントアブルエレクトロニクス応用技術と課題 [1] フレキシブル色素増感太陽電池の印刷製造プロセスの課題	単著	2013年11月29日	“ウェブ”ロールtoロールの搬送、巻取り技術、そのトラブル発生メカニズムと対策、技術情報協会	池上和志	

(学術論文)					
「銀インクを電極作製に用いる有機/無機ハイブリッド太陽電池」	共著	2013年6月	桐蔭論叢, 28	酒井誠弥、池上和志、宮坂 力	197-203頁
「有機色素の共増感酸化チタン電極における吸着制御の検討と高効率化」	共著	2013年6月	桐蔭論叢, 28	森田紗織、池上和志、宮坂 力	237-242頁
「有機系太陽電池の現状とプラスチック色素増感太陽電池の応用展開」	共著	2013年6月	桐蔭論叢, 28	池上和志、宮坂 力	99-105頁
「教材としての色素増感太陽電池」	共著	2013年6月	化学と教育, 61	手島健次郎、池上和志	230-231頁
“Aqueous Colloidal Stability Evaluated by Zeta Potential Measurement and Resultant TiO ₂ for Superior Photovoltaic Performance”	共著	2013年8月	J. Am. Cer Soc., 96	Fargol Hasani, Bijarbooneh, Yue Zhao,*, Jung Ho Kim,*, Ziqi Sun, Victor Malgras, Seyed Hamed Aboutalebi, Yoon-Uk Heo, Masashi Ikegami , and Shi Xue Dou	pp.2636-2643
“Plastic based dye-sensitized solar cells using Co9S8 acicular nanotube arrays as the counter electrode”	共著	2013年9月	J. Mater. Chem. A, 1	H.-Wei Chen, C. -W Kung, C. -M. Tseng, T. -C. Wei, N. Sakai, S. Morita, M. Ikegami , T Miyasaka, and K. -C. Ho	pp.13759-13768
“Tri-functional Nb ₂ O ₅ nano-islands coated on an indium tin oxide layer for a highly efficient dye-sensitized plastic photoanode”	共著	2013年10月15日	J. of Power Sources, 240	Saori Morita, Tzu-Chien Wei, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	pp.753-768
“MgO-hybridized TiO ₂ interfacial layers assisting efficiency enhancement of solid-state dye-sensitized solar cells”	共著	2014年1月	Appl. Phys. Lett. 104	N. Sakai, M. Ikegami , and T. Miyasaka	pp.063303
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
フレキシブル色素増感太陽電池の開発とエネルギーハーベスト(招待講演)		2013年9月4日～6日	日本セラミックス協会秋季シンポジウム信州大学 長野キャンパス。(長野県長野市)	池上和志、宮坂力	
「Organo metal perovskiteハイブリッド固体太陽電池の開発(1)」		2013年9月27日～9月28日	2013年電気化学秋季大会, 東京工業大学 大岡山キャンパス。(東京都目黒区大岡山)	酒井誠弥、池上和志、宮坂力	
「フルプラスチック色素増感太陽電池の超薄ブロッキング層による高効率化」		2013年9月27日～9月28日	2013年電気化学秋季大会, 東京工業大学 大岡山キャンパス。(東京都目黒区大岡山)	宮坂力、Yu-TingHuan、池上和志	
“Fabrication of high efficient full-plastic dye-sensitized solar cells by enhancement of blocking compact layer”		2013年11月23日～11月26日	The 8th Aseanian Conference on Dye-sensitized and Organic Solar Cells (DSC-OPV8), Global Photovoltaic Conference (GPVC), Convention Center in Busan (BEXCO), Busan	Y Ting Huang, M. Ikegami , and T. Miyasaka	
「低温焼結白金ナノコロイドを触媒層とするフィルム型色素増感太陽電池の開発」		2014年3月27日(木)～30日(日)	日本化学会第94春季年会(名古屋大学)	小島 陽広・河瀬 弘和・小谷 淳・杉生 剛・手島 健次郎・池上和志・宮坂 力	
「フィルム色素増感太陽電池モジュールの産業開発」(依頼講演)		2014年3月27日(木)～30日(日)	日本化学会第94春季年会(名古屋大学)	池上和志	

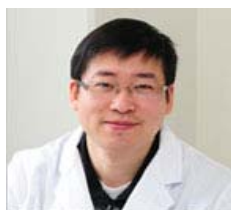
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「親子工作教室 色素太陽電池を作ってみよう！」	2013年6月22日	第1回 青葉区クールアース講座	たまプラーザテラス
「色素増感太陽電池の性能評価」	2013年8月28日	電気化学会主催 電気化学セミナー3	慶応大学
「2013 色素増感太陽電池の全貌★徹底解説」	2013年9月4日	Electronic Journal 第1856回 Technical Seminar	連立会館(旧名称:総評会館)(東京・御茶ノ水)
「複素インピーダンスの基礎と応用」	2013年12月12日	色素増感太陽電池の測定法 とその評価 セミナー	東陽テクニカ本社 東京都中央区八重洲
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
色素増感太陽電池における対向電極の製造方法、色素増感太陽電池の製造方法および色素増感太陽電池	2013年4月11日	特許公開2013-65418	学校法人 桐蔭学園 宮坂力、池上和志 日立造船株式会社 奥村拓郎、杉生 剛、井上鉄也
色素増感型光電変換素子	2014年2月21日	特許第5479327号	ペクセル・テクノロジーズ株式会社、学校法人 桐蔭学園 宮坂 力、池上和志

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2013年1月1日～12月13日	2013年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員	
2014年1月1日～12月13日	2014年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジーズ株式会社

(2014年度 新任教員)

シャオフェン ワン 特任助教



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：関西学院大学大学院理工学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(理学) 理学修士
 学位論文：「Dye-sensitized solar cells based on principles and materials of photosynthesis」(博士論文)
 専門分野：化学、物理学、生物化学
 前職：山形大学工学部助教
 受賞・表彰：2005年中国政府優秀留学生奨学金

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>今年度は初めてクロロフィル誘導体を用いた有機薄膜太陽電池の構築を行った。具体的には最初にクロリン骨格を持つ二種類のクロロフィル誘導体の太陽電池性能に対するアルキル基の影響を調べた。アルキル基を持つ色素に対して、アルキル基なしの色素のほうが高い性能を示した。この結果に基づいて、色素の中心金属の影響を学んだ。色んな金属の中で、銅クロロフィルは1.3%程度の最も高い光電変換効率を達成した。更にクロリン骨格の上に化学的に化学効能団を導入することにより、現在の最高変換効率は2.5%に達成した。これはクロロフィル誘導体を用いた有機薄膜太陽電池の中で世界一の光電変換効率となる。一方、最後の目標となる色素増感バークヘテロジャクション太陽電池を作るために、長波長吸収を持つ増感色素の開発も行った。900ナノメートルまで吸収を持つ色素を利用した色素増感太陽電池は5.1%の光電変換効率を達成した。色素増感太陽電池の色素と有機薄膜用色素の構造的な区別を理解するために、色素増感用のクロロフィル色素のCOOH基を取って、有機薄膜太陽電池にも活用した。結論として、電荷分離にいいクロロフィル色素は両方でもいい変換効率がでるとことが分かった。この研究は色素増感太陽電池と有機薄膜太陽電池の繋がりを作って、両方の太陽電池の原理をもっと深く理解できるようになった。更に面白い現象も観察できた。色素増感太陽電池の色素をそのまま有機薄膜太陽電池のドナー分子として利用しても3%以上の光電変換効率を達成した。これらの研究は何れも世界中で初めて行ったのだ。これからの有機太陽電池の研究にとって非常に重要な一方だと言える。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の 年 月 日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Fullerene derivatives as electron donor for organic photovoltaic cells”	共著	2013年	Appl. Phys. Lett. 103	T. Zhuang, X-F. Wang , T. Sano, Z. Hong, Y. Yang, J. Kido	pp.203301-203304
“Molecular engineering on a chlorophyll derivative, chlorin e6, for significantly improved power conversion efficiency in dye-sensitized solar cells”	共著	2013年	J. Power Sources 242	X-F. Wang , H. Tamiaki, O. Kitao, I. Toshitaka, S. Sasaki	pp.860-864

沼田 陽平 (ぬまた ようへい) 特任助教



出生年：1979(昭和54)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：総合研究大学院大学 物理科学研究科 博士後期課程修
 学位：博士(理学)
 学位論文：Magnetic Properties of Low-dimensional Molecule-based Magnets Consisting of Transition Metals and Organic Radicals
 専門分野：物理化学、有機化学、無機(錯体)化学、電子物性
 前職：独立行政法人 物質・材料研究機構 ポストドク研究員

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

色素増感太陽電池とは酸化チタンや酸化亜鉛などのバンドギャップの広い(無色の)無機半導体に可視光を吸収出来る分子、いわゆる色素を吸着させる事で光に対する応答を向上させた(増感)光電変換デバイスの一種である。私は色素増感太陽電池に用いられる各種の色素、特にルテニウムを含む金属錯体色素と有機色素の合成、それらを用いた太陽電池の開発を行いました。様々な置換基を有する、Ru-ターピリジン錯体を合成し、その光応答、光電変換特性、キャリア移動過程を詳細に調査することによって金属錯体に導入する置換基の種類による電子の影響と光電変換特性に与える影響を明らかにしました。その後、ハロゲン化鉛とアンモニウムカチオンをベースとしたペロブスカイト材料を用いた太陽電池の開発にも着手しており、現在一般に用いられているSi太陽電池に匹敵する光電変換特性と耐久性の実現に向けて研究を進めています。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
“Co-sensitization of Ru-polypyridyl dyes and organic dyes in dye-sensitized solar cells”	共著	2013年8月	Chem. Lett., 2013, 42, 1328-1335.	Youhei Numata , Shufang Zhang, Xudong Yang, and Liyuan Han*	pp.1328-1335
“Interfacial Engineering for Dye-sensitized Solar Cells”	共著	2013年12月	J. Mater. Chem. A, 2014, 2, 5167-5177.	Shufang Zhang, Xudong Yang, Chuanjing Qin, Youhei Numata , and Liyuan Han	pp.5167-5177
(学術論文)					
“Substitution effects of Ru-terpyridyl complexes on photovoltaic and carrier transport properties in dye-sensitized solar cells”	共著	2013年7月	J. Mater. Chem. A, 2013, 1, 11033-11042.	Youhei Numata , Ashraful Islam, Keitaro Sodeyama, Zhenhua Chen, Yoshitaka Tateyama, and Liyuan Han	pp.11033-11042
“Enhanced Light-Harvesting Capability of a Panchromatic Ru(II) Sensitizer Based on π -Extended Terpyridine with a 4-Methylstyryl Group for Dye-Sensitized Solar Cells”	共著	2013年4月	Adv. Funct. Mater., 2013, 23, 1817-1823.	Youhei Numata , Surya Prakash Singh, Ashraful Islam, Munetaka Iwamura, Atsushi Imai, Koichi Nozaki, and Liyuan Han	pp.1817-1823
“Circle Chain Embracing Donor-Acceptor Organic Dye: Simultaneous Improvement of Photocurrent and Photovoltage for Dye-Sensitized Solar Cells”	共著	2013年4月	Chem. Commun., 2013, 49, 7587-7589.	Jian Liu, † Youhei Numata , † Chuanjiang Qin, Ashraful Islam, Xudong Yang, and Liyuan Han († First and second authors contributed)	pp.7587-7589
“Novel Near-Infrared Squaraine Sensitizers for Stable and Efficient Dye-Sensitized Solar Cells”	共著	2014年5月	Adv. Funct. Mater., 2014, 24, 3059-3066.	Chuanjiang Qin, Youhei Numata , Shufang Zhang, Xudong Yang, Ashraful Islam, Kun Zhang, Han Chen, and Liyuan Han	pp.3059-3066

“Efficient Metal-free Sensitizers Bearing Circle Chain Embracing π -Spacer for Dye-sensitized Solar Cells”	共著	2013年7月	J. Mater. Chem. A, 2013, 1, 10889-10897.	Jian Liu, Xudong Yang, Ashraful Islam, Youhei Numata , Shufang Zhang, Noviana Tjitra Salim, and Liyuan Han	pp.10889-10897
“A Near-Infrared cis-Configured Squaraine Co-Sensitizer for High Efficiency Dye-Sensitized Solar Cells”	共著	2013年8月	Adv. Funct. Mater., 2013, 23, 3782-3789.	Chuanjiang Qin, Youhei Numata , Ashraful Islam, Xudong Yang, Keitaro Sodeyama, Yoshitaka Tateyama, and Liyuan Han	pp.3782-3789
“Band alignment by ternary crystalline potential-tuning interlayer for efficient electron injection in quantum dot-sensitized solar cells”	共著	2014年2月	J. Mater. Chem. A, 2014, 2, 7004-7014.	Zhenhua Chen, Wenqin Peng, Kun Zhang, Jing Zhang, Xudong Yang, Youhei Numata and Liyuan Han	pp.7004-7014
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(ポスター)“Influences of substituent on photovoltaic properties of pi-expanded terpyridine-Ru complexes”	2013年6月	2nd Tsukuba OPV workshop (つくば大学/茨城県つくば市)	Youhei Numata , Ashraful Islam, and Liyuan Han		
(ポスター)“Substituent effect of Ru-dctpy dyes on photovoltaic properties”	2013年9月	応用物理学会第74回 秋季講演会(同志社大学/京都府)	Youhei Numata , Ashraful Islam, and Liyuan Han		
(ポスター)「色素増感太陽電池用の新規高性能色素の開発」	2013年10月	NIMS フォーラム(東京国際フォーラム/東京都)	沼田陽平		
○その他					
(特許申請等)					
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)		
「ロタキサン型ピチオフェン誘導対、色素増感酸化半導体電極及び色素増感太陽電池太陽電池」	2013年	特願2013-082206	沼田 陽平, 劉 建, イスラム アシュラフル, 韓 礼元		

法科大学院 (Law School)

江口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2007(平成19)年4月～
最終学歴：神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：企業の社会的責任について—フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史の変遷を通じて
専門分野：商法、金融商品取引法
前職：平成国際大学法学部助教授
学内役職等：法科大学院 教務委員長
留学：ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)
非常勤講師：大宮法科大学院大学

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2013年度	商法、会社法等の法制度の細部のみにとらわれるのではなく、常に各法における制度の位置づけ、趣旨、論理を重視し、制度を根本から理解させることに努める。試験等においても導き出された結果ではなくむしろ「なぜそうなるか」という論理性を重視する。また、実例を用いながら、これらの法が現実社会でいかに運用されているかという実務的側面からのアプローチも行うことで、理解を深める試みを行っている。教室では講義形式を基本として、双方向の対話形式を用いながら授業を進めている。またSyllabusnet(学習支援システム)を利用しながら、教室外における学生との双方向の対話を行うよう努めている。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略
EU公開買付指令の中心的内容である買収防衛策の発動のお現実およびその効果について検証するとともに、それが我が国における会社法上の規定に基づいて行われる買収防衛策と比較検討し、フランスにおける法制度が我が国のそれに与える示唆について検討を続けた。また、商法の期限とされるJacques Savary著Le Parfait negociantの翻訳および検討を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本経済法学会

大澤 恒夫 (おおさわ つねお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：「弁護士業務における対話の理念と技法—法と対話の専門家をめざして」
 専門分野：法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR論、(弁護士としての主要業務)IT分野における知的財産法、競争法、企業再建
 学内役職等：ミディエイション・交渉研究所センター長 (2014～)
 資格：弁護士(1981年～現在)
 非常勤講師：中央大学法科大学院客員教授(裁判外紛争解決)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ケースメソッド	2005年4月～	裁判例(特に第1審判決)等により、具体的事実やそこから伺われる現実の複雑さ、法実践での事実の切り出し方、自分自身の取り組みとしてどのように考えるか、などを検討する。
実演、ロールプレイと振り返り	2005年4月～	人と人が話し合うプロセスについて、台詞を用意して行う実演やケースを設定して行うロールプレイを実施し、参加者全員で振り返りを行うことにより、法運用をめぐる実践知の内面化への契機をつかむ。
プレゼンテーションとファシリテーション	2005年4月～	プレゼンテーション(発表)とファシリテーション(議論の支援)について、その技法を理解し、実践してみることを通じて、コミュニケーション力の向上への契機をつかむ。
授業ごとの短時間小レポート課題	2005年4月～	各授業の最後の15～20分程度を使い、その日の授業(または前回の授業)の復習になる事項について、設問を示して(あるいは自由に課題を設定させ)その場で、ミニレポートを書かせることにより、授業内容の理解の促進と短時間での手書き文章力の向上を図る。
学生自身の紛争体験から紛争プロセスを振り返る	2005年4月～	学生自身の紛争体験(大小や種類は問わない)を振り返り、そのプロセスを丁寧に辿ることにより、紛争の発生から解決・克服への過程の中に含まれる重要な実践知に気付くとともに、これからの法律学習への動機付けを高める。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
ソフトウェア情報センター「ソフトウェアの知的財産権入門講座」講師	2001年2月～現在	IT関連の法務担当者や若手弁護士等を対象に、ITに関連する知的財産と独占禁止法上の諸問題について解説。
大学間交渉コンペティション審査員	2004年12月～現在	大阪大学・上智大学「平成16年度・特色ある教育支援プログラム(特色GP)」事業(住友グループ広報委員会・日本仲裁人協会等後援)により、国際的に活躍する交渉者の育成を目指して、毎年2日間にわたる模擬仲裁、模擬交渉による競技会が行われ、その審査員を務めている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	法とコンピュータ学会理事
2006年4月～現在	司法アクセス学会理事
2005年4月～現在	財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員
	ソフトウェア紛争解決センター運営委員
	「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員
	日本仲裁人協会会員、日弁連業務改革委員会幹事
	インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法(使用者側)
 前 職 : 桐蔭横浜大学客員教授
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2014～)
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの配布	2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した(科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。
4.法律実務教育に関する特記事項		
研修「社会人としてソーシャルメディアとどのように付き合っていくべきか～具体的なSNS不祥事を概観しながら」	2013年4月3日	独立行政法人都市再生機構 主催
研修:「ポイントに関わる法的諸問題について～O2Oツールとしてのポイント～」	2013年4月23日	株式会社イーウェル 主催
講演:「ネット選挙運動解禁について」	2013年5月23日	株式会社電通 主催
研修「SNSがコモディティとなった新時代において、企業や社員はSNSどのように付き合っていけばよいか」	2013年8月23日	独立行政法人都市再生機構 主催
研修「執行役員の法的性格・職務内容・責任他」	2013年9月6日	株式会社ティーガイア 主催
研修:「バイトテロ等のSNSを使った従業員不祥事にどう対処するか」	2013年10月22日	株式会社イーウェル 主催
研修「近時のビッグデータを巡る議論について」	2014年1月23日	ジー・プラン株式会社 主催

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員

小林 学 (こばやし まなぶ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：自律的規範構造モデルの構築による民事訴訟法学の学問的復権—実体法と訴訟法の規範的連関論—
 専門分野：民事手続法学
 前職：桐蔭横浜大学法学部教授
 学内役職等：学務部副部長(2013年4月～)
 非常勤講師：亜細亜大学法学部

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2) SyllabusNetによるレジュメの公開	2012年度～2013年度	法学部科目の「民法Ⅲ(不法行為法)」および「民法Ⅴ(債権法)」に関して、レジュメをSyllabusNet上にアップロードした。なお、2013年度は、受講者が各自でダウンロードして教室に持参するようにした。
(3) SyllabusNetによるレジュメの公開と課題出題	2012年度～2014年度	法科大学院科目の「民事法総合演習3」のレジュメ(課題含む)をSyllabusNet上にアップロードしたうえ、受講者が各自でダウンロードして教室に持参するよう指示した。なお、2013年度は、法科大学院科目の「民事訴訟法」についても同様の方法によった。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
1. 民事訴訟法に関して、初学者向けの教科書として、小島武司編著『よくわかる民事訴訟法』(ミネルヴァ書房、2013年)が出版された(共著も含めて12項目を執筆した)。 2. 司法アクセスの分野において、全方位を概観する包摂的な研究を進めるとともに、司法アクセス学会内に設置されたプログレスレポート研究会において、事務局として枠組み設定すると同時に2項目を担当して研究を深めた。前者については、小島武司=小林学「司法アクセスの新たな地平—法テラスの波紋、弁護士業務モデルの刷新、プログレス年次報告—」総合法律支援論叢4号(2014年)1-23頁に掲載されている。 3. 司法アクセス研究の一環として、法学教育および法曹養成を司法アクセスの視座から研究を試み、上記の全体俯瞰とも相まって、一定の試論を桐蔭法学研究会編『法の基層と展開—法学部教育の可能性—』(信山社、2014年)313頁-333頁に掲載した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『ケースメソッド民事訴訟法(第3版)』	共著	2013年6月5日	不磨書房	池田彗男、小野寺忍、齋藤哲、田尻泰之、 小林学	第5章(267-293頁)担当
『よくわかる民事訴訟法』	共著	2013年10月15日	ミネルヴァ書房	小島武司(編著)、 小林学	2頁～11頁、18頁～37頁、40頁～53頁、64～65頁、70頁～79頁、94頁～95頁、108頁～113頁、122頁～125頁、140頁～143頁、148頁～149頁、160頁～163頁、186頁～189頁

(総説・論説)					
「民事訴訟における争点整理テンプレートの作成に向けて」	単著	2013年7月1日	白門65巻7号	—	56-74頁
(学術論文)					
「司法アクセスの新たな地平—法テラスの波紋、弁護士業務モデルの刷新、プログレス年次報告—」	共著	2014年3月	総合法律支援論叢4号	小島武司、小林学	1-23頁
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル		掲載日		雑誌・新聞等名称	
【コメント掲載】 ネット普及で相談減…弁護士会「攻め」のPR		2014年3月29日 (YOMIURI ONLINE)		読売新聞(YOMIURI ONLINE(兵庫版))	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本私法学会、情報ネットワーク法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、東北アジア民事訴訟法国際学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年10月～現在	東北アジア民事訴訟法国際学会日本事務局
2010年12月～現在	司法アクセス学会事務局

小林 幸夫 (こばやし ゆきお) 教授



出生年：1954(昭和29)年6月7日
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学法学部法律学科卒業
 学位：法学士
 専門分野：知的財産権法, 特に特許法, 著作権法, 商標法
 学内役職等：知的財産本部長(2014～)
 資格：弁理士(1979年登録), 弁護士(1995年登録, 小林・弓削田法律事務所)
 受賞・表彰：2011年日本弁理士会会務貢献にて表彰

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2004年～	知的財産権法を教えるに際して、実際の訴訟となった商品を持参すること、著作権侵害訴訟において対象となった書籍、写真、映像を実際にロースクール生にみせるなどして、授業への興味が沸くような工夫をしている。特に、特許などは抽象的な概念であることからわかりやすいような授業になるよう工夫している。よって、当方の研究室には様々な商品がおいてある。また、見学実習として、2年次には特許庁、3年次の夏期特別講義では、東京地方裁判所の知的財産権部の事件傍聴、担当部長の講話をお願いして実施している。知財高裁への見学も行っている。これらの見学により、合格後の仕事に対するイメージとモチベーションを高めることになれればと考えている。 エクスターンシップの事務所として平成17年に1人より、毎年年に1人を受け入れ、指導をしている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジメや独自の教材を作成		レジメや独自の教材を作成しているが、教科書はまだ出版していない。教材としては、授業の終了のたびに行う小テストとその講評をするのが当方の授業の特徴である。これにより、あやふやな知識を地についた知識として身につけさせるようにしている。

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「弁理士のための知的財産契約のチェックの勘所」	2013年7月23日	日本弁理士会関東支部	日本弁理士会館

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会、司法アクセス法学会

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2008年～	日本知的財産仲裁センター仲裁人候補者
2012年4月～	独立行政法人 工業所有権情報・研修館 契約監視委員

鈴木 純 (すずき じゅん) 教授



出生年：1949(昭和24)年
 籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部
 専門分野：一般民事事件
 資格：弁護士

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2005年4月～	<p>小職が担当する主要な課目は民事法総合演習Ⅰである。</p> <p>本学では、仕事を持ちながら新司法試験受験を目指す学生の教育に力を入れており、小職が担当するクラスの学生も大半が、仕事を持ちながら、勉学に励む学生達であった。</p> <p>民事法総合演習Ⅰにおいては、現実が生じる具体的なケースを設問化した課題(全30問)を素材として、1年次に習得した民法・商法・民訴法の基礎理論を、いかに適用し、妥当な結論を導くか、そのための思考訓練を繰り返した。換言すれば、民事法総合演習Ⅰの目的は①民法・商法・民訴法の基礎理論を徹底的に身に付けさせ、体得させること、②応用能力の鍛錬にある。</p> <p>民事法総合演習Ⅰにおいて使用した課題の多くは、判例を素材とするものである。</p> <p>学生は、課題を読めれば、その課題が、どの判決を素材としたものか、おおよその見当が付く。従って、学生は、当該判決を検索し、当該判決の判決理由に即して、意見を述べる(後記するとおり、小職は事前配布された課題について、予め簡単なレポートを提出させ、事前提出されたレポートを基礎に授業を進めた)。</p> <p>しかしながら、多くの学生は、当該判決の判決理由を知ることをもって、「事足れり」とし、当該判決の判決理由が民法・商法・民訴法の基礎理論とどのように関連し、基礎理論からどのような思考経路を辿ってそのような判決理由に至るのか、その過程についてまで突きつめて考えていない。</p> <p>従って、小職の授業においては、「当該判決の判決理由が、民法・商法・民訴法の基礎理論と、どのように関連するのか」、「基礎理論からどのような思考経路を辿って、そのような判決理由に至ったのか」を考えさせることに重点を置いた。そのための具体的方法は下記のとおりである。</p> <p>ア 民事法総合演習Ⅰについては、4人の教師が4つのクラスを分担する関係上、各教師間の共通見解を形成する必要があるため、各課題について、ティーチャーズ・マニュアルが作成されている。しかしながら、各課題について作成されたティーチャーズ・マニュアルは優れたものが多いものの、各教師間の共通見解を示すという性格上、最大公約教的なものになりがちである。</p> <p>特に小職が担当したクラスの学生は大半が職業を持ちながら、勉学に励む方であったため、必ずしも十分に民法・商法・民訴法の基礎理論が身に付いていない学生も少なくなかった。このため、事前に用意されたティーチャーズ・マニュアルどおりに授業を進めたのでは、単に知識を伝えるだけに終始し、「基礎理論から考える」という最も重要な要素が欠落してしまう危険があった。</p> <p>そのような難点を克服するため、各課題すべてについて、事前に用意されたティーチャーズ・マニュアルを基礎としつつ、小職独自の授業マニュアルを作成した。小職独自の授業マニュアル作成にあたって、最も留意した要素は、「民法・商法・民訴法の基礎理論から考える」という点である。</p>

		<p>イ 各課題について、学生に事前にレポートを提出させた。前記したとおり、小職が担当したクラスの学生の大半は職業を持っているため、レポートの内容は、各課題の素材になっている判決の判決理由をそのまま引用した簡潔なものが多かった。それでも、事前に各課題の素材となった判決に目を通してもらうという意味では、メリットがあったと思う。</p> <p>ウ 現実の授業においては、各課題の素材となった判決の判決理由が、民法・商法・民訴法の基礎理論とどのように関連し、基礎理論からどのような思考経路を辿ってそのような判決理由に至るのかについて、徹底的に議論した。議論の方法は、所謂「ソクラテス・メソッド」(対話方式)である。このやり方により、学生は、当該判決の判決理由がどのような基礎理論に基づくものなのかを理解するとともに、民法・商法・民訴法の基礎理論それ自体を体得することができたのではないかと自負している。</p> <p>エ 民事法総合演習Ⅰにおいて用いられている課題は、各々かなり複雑な事案を内容としている。各課題が、かなり複雑な事案を内容としているだけに、各課題に即して授業を進めると、民法・商法・民訴法の基本原則が看過されてしまうおそれがある(たとえば、不法行為に関する課題について言えば、事例解析に相当のエネルギーを要し、「契約法と不法行為法の相異」という不法行為法の基本問題への考察が抜け落ちてしまう危険がある)。</p> <p>このため、必要と思われる課題については、小職独自に基本問題を作成し、これも小職独自の基本問題に関するマニュアルを作成した。この方法により、学生は、どんな複雑な事案であっても、基本原則に立ち帰って考えるならば、適切な結論が導き出せるということを体得できたのではないかと考えている。</p>
2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書、参考書は作成していない。作成した教材の概要は右記のとおりである。	2005年4月～	<p>(1)1記載のとおり、30課題すべてについて小職独自の授業マニュアルを作成した(学生には配布していないので、厳密な意味では教材とは言えないかもしれない)。</p> <p>(2)各課題の素材となっている判決の判決理由を、より深く理解してもらうため、判例解説(最高裁判所判例解説を用いることが多かった)、関連する論文等を教材として配布した。</p> <p>(3)1記載のとおり、課題によっては、小職独自に基本問題を作成し、学生に配布し、基本問題ごとに小職独自の授業マニュアルを作成し、学生に解説した。</p> <p>(4)課題によっては、当該課題に関連する関連問題を作成し、学生に配布し、学生に解説した。</p>
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2005年4月～	<p>教育方法・教育実践に関する発表、講演は特段に行っていない。ただし、平成17年4月1日以降平成18年3月31日までは、毎月1日開催される教員研修会において、民事法総合演習Ⅰ及びⅢに関する課題の作成、ティーチャーズ・マニュアルの作成等に当たってきた(平成18年4月1日以降平成19年3月31日までは、後記するとおり、小職が第二東京弁護士会副会長の職にあったため、教員研修会には参加できなかった)。</p> <p>平成18年4月1日以降は、民事法総合演習Ⅰについて新規の課題を作成するため、随時、担当教員と合議を重ね、新規の課題及びティーチャーズ・マニュアルを作成してきた。</p> <p>また、平成21年3月以降は民法の基礎理論を体得させるべく、任意参加のゼミを開催している。</p>

5.その他教育活動上特記すべき事項		
	2005年4月～	<p>(1) 1ないし3においては、民事法総合演習Ⅰについて述べたので、本項においては小職が担当するもう一つの課目であるエクスターンシップについて述べる。</p> <p>(2-1) 小職はエクスターンシップにおいては民事手続、刑事手続の概要を体得してもらうことに主眼を置いている。民事訴訟法、刑事訴訟法の教課書を読み、また授業を受けるだけでは、民事訴訟手続、刑事訴訟手続を完全に理解することは困難だからである。</p> <p>(2-2) このため、小職はエクスターンシップにおいては学生に実際の民事法廷、刑事法廷を必ず傍聴させるようにしている。民事法廷、刑事法廷を傍聴することにより、教課書を読むだけでは理解できなかった訴訟手続を簡単に理解することが可能になるからである。また、特に刑事法廷の傍聴については、刑事手続の理解に資するだけでなく、実際に発生した刑事事件に触れることにより、事件それ自体に対する興味を抱かそう、実務家法曹への意欲をかきたてる効果も期待できるからである。</p> <p>(3) エクスターンシップにおいては、法廷傍聴以外に、小職の事務所において、係属中の事件、既済の事件について記録(ほとんどが民事事件の記録)を読んでいたことが多く、訴状、答弁書、準備書面等の書き方を学んでいただくとともに、実際に発生した民事事件の姿に触れていただき、紛争解決のため、弁護士、裁判所がどのような努力をしているのかを知っていただくためである。</p> <p>(4) その他、数は多くはないが、法律相談への立ち会い、簡単な文書(たとえば内容証明郵便)の起案などをしていただくこともある。</p> <p>(5) いずれにせよ、エクスターンシップにおいては、実務家法曹の仕事に興味を抱いていただくことを主眼に行っている。</p>

IV法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2002年1月～	東京地方裁判所鑑定委員

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955(昭和30)年
 在 籍 : 2007(平成19)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学法学部
 専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前 職 : 東京高等裁判所判事

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験審査委員(商法)	
	全農福岡パルライス株式会社不適正取引調査委員会・委員長	
	事業再生研究機構(理事長・多比羅誠)会員研究員	
	地方自治法務研究会(座長・交告尚史東大教授)監事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
参議院情報後悔苦情審査会委員	2011年4月～現在	参議院事務局
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

行方美彦 (なめかた よしひこ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
在籍：2010(平成22)年4月～
最終学歴：中央大学法学部
専門分野：民事法(特に不動産取引法)
前職：いちょう坂法律事務所
資格：弁護士(第二東京弁護士会)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	東京簡易裁判所民事調停委員
2008年～現在	(財)全国中小企業取引振興協会下請適正取引推進センター調停人候補者
2009年～現在	災害復興まちづくり支援機構代表委員

早川 和宏 (はやかわ かずひろ) 教授



出生年：1971(昭和46)年
 在籍：2013(平成25)年4月～
 最終学歴：成城大学大学院法学研究科博士課程後期単位取得退学
 学位：修士(法学)
 学位論文：社会裁判制度—ドイツにおける成立と発展—
 専門分野：行政法、情報公開法、公文書管理法
 前職：大宮法科大学院大学准教授
 学内役職等：法務研究科専攻長(2014～)
 資格：弁護士(法律事務所フロンティア・ロー)
 非常勤講師：大宮法科大学院大学、学習院大学大学院人文科学研究科

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
		講義を主体とする科目については、受講生に対して質問をすることにより、双方向となるよう心掛けている。質問については、①予習をすれば答えられるもの、②テキスト等を予習するだけでは対応できず、法的思考を要するもの、③既に学習済みであり復習が必要なもの等を織り交ぜるようにしている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
		講義を主体とする科目については、1週間前までにレジュメを作成・提示している。レジュメには、「Q」を付し、講義で答えられるように準備しておくことを要求している。

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
2013年度も、公文書管理法に関する研究を継続している。 外部機関との関係では、人間文化研究機構国文学研究資料館平成25年度共同研究員として「民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究」に取り組むとともに、学習院大学人文科学研究科共同研究プロジェクト研究スタッフとして「情報基盤としてのアーカイブズ制度を構築する戦略的研究(代表:保坂裕興教授)」に取り組んでいる。 研究成果に係る外部発信としては、国文学研究資料館、全国市町村国際文化研修所、北海道、東京都、鎌倉市、川口市において講演を行った。 また、論文等として、「V 法とアーカイブズ」上代庸平編『アーカイブズ学要論』(平成26年・尚学社)94頁～117頁、「公文書管理法の現状と課題」桃山法学23号131～171頁を公表した。 公文書管理法に関する研究を行政実務に還元すべく、平成25年10月から藤沢市「公文書等管理に関する有識者会議」委員長を務め、答申の作成に当たった。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
論点体系 判例憲法2～裁判に憲法を活かすために～	共著	2013年6月10日	第一法規	戸松秀典、今井功	63-84頁 119-147頁
新基本法コンメンタール 情報公開法・個人情報保護法・公文書管理法	共著	2013年9月	日本評論社	右崎正博・多賀谷一照・田島泰彦・三宅弘	481-484頁 502-506頁
アーカイブズ学要論	共著	2014年2月	尚学社	上代庸平	94-117頁
(学術論文)					
公文書管理法の現状と課題	単著	2014年3月	桃山法学23号		131-171頁

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「アーカイブズと法概念」	2013年7月26日	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 平成25年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)	国文学研究資料館
「公文書管理条例の意義と策定上の留意点」 「自治体公文書管理の今後の展開と課題」	2013年7月30日・31日	全国市町村国際文化研修所 平成25年度政策実務系研修「自治体公文書管理」	全国市町村国際文化研修所
「公文書管理の新時代—役所の論理から住民の論理へ—」	2013年8月26日	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・北海道立文書館 公文書館機能普及セミナー 2013 in 北海道「自治体アーカイブズのすすめ～仕組みづくりのための理論と実例～」	北海道庁赤れんが庁舎2階2号会議室
「地方公共団体の公文書管理～なぜ、なにを、どのように～」	2013年9月4日	東京都公文書館・公益財団法人特別区協議会 第4回 東京都公文書館・公益財団法人特別区協議会共催セミナー「公文書管理法と地方公共団体の課題 ～住民の知的資源を住民にひらくために」	東京区政会館20階会議室
「文書管理に関する研修会」	2013年11月8日	鎌倉市	鎌倉市役所
「情報公開制度をめぐる最近の動向」	2013年11月12日	川口市情報公開制度研修会	川口市役所本庁舎5階大会議室

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本公法学会、日本財政法学会、日本自治学会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2009年4月～2013年3月	埼玉県情報公開審査会委員	
2009年4月～2013年3月	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会調査・研究委員会委員	
2010年4月～現在	草加市情報公開・個人情報保護審査会委員	
2010年4月～現在	高エネルギー加速器研究機構史料委員会委員	
2010年4月～現在	地方公共団体公文書管理条例研究会座長	
2012年4月～現在	日本アーカイブズ学会委員(平成26年4月～副会長)	
2012年5月～現在	相模原市情報公開・個人情報保護・公文書管理審議会委員	
2012年11月～現在	川口市情報公開・個人情報保護運営審議会委員(副会長)	
2013年4月～現在	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会役員	
2013年10月～2014年9月	藤沢市公文書等管理に関する有識者会議委員長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
公益財団法人日弁連法務研究財団 法科大学院認証評価事業評価員	2012年10月1日～2014年9月30日	公益財団法人日弁連法務研究財団
人間文化研究機構国文学研究資料館 平成25年度共同研究員(研究課題「民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究」)	2013年4月1日～2014年3月31日 2014年4月1日～2015年3月31日	人間文化研究機構国文学研究資料館
学習院大学人文科学研究共同研究プロジェクト 情報基盤としてのアーカイブズ制度を構築する戦略的研究(代表:保坂裕興教授) 研究スタッフ	2013年7月～	

IV法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年2月～現在	弁護士(第二東京弁護士会)

福井康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2012(平成24)年4月～
最終学歴：学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
学位：博士(法学)
学位論文：「国民投票の研究」(博士論文)
専門分野：直接民主制・憲法訴訟・選挙運動規制
前職：大宮法科大学院教授
学内役職等：法務研究科法務専攻長(2012～2014)
非常勤講師：大宮法科大学院大学

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
憲法15条に係る判例を分析し、選挙に係る判例理論を抽出する。また、政治資金と選挙運動に係る米国判例を研究し、当該研究の成果は、日本の選挙運動規制に係る研究につながる予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の 年月日(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
論点大系 判例憲法1	共著	2013年5月20日	第一法規	今井功、戸松秀典	192-280頁
論点大系 判例憲法3	共著	2013年5月20日	第一法規	今井功、戸松秀典	11-30, 33-42 頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
憲法理論研究会、比較憲法学会

宮 島 里 史 (みやじま さとし) 教授



出 生 年 : 1951(昭和26)年
在 籍 : 1994(平成6)年4月～
最 終 学 歴 : 中央大学大学院博士後期課程終了+A147
学 位 : 法学修士(中央大学)
Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)
学 位 論 文 : 弁護権の意味と機能(中央大学)
Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the
Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)
専 門 分 野 : 憲法、刑事訴訟法、少年法
留 学 : Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日米法学会、第二東京弁護士会懲戒委員会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年2月～現在	第二東京弁護士会懲戒委員会委員

廣 江 健 司 (ひろえ けんし) 特任教授



出 生 年 : 1948(昭和23)年
 在 籍 : 1993(平成5)年4月～
 最 終 学 歴 : 早稲田大学大学院法学研究科修士課程
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : 植物新品種の国際的保護
 専 門 分 野 : 国際私法、国際取引法、国際民事手続法
 前 職 : 東京大学助手、九州国際大学法経学部助教授
 資 格 : 弁護士(第一東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫		国際私法・国際取引法・国際民事手続法の各講義において、レジュメを事前に配布し、双方向の授業形式により、学生の知的好奇心を喚起しつつ、議論の深化を図っている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの作成		国際私法・国際取引法・国際民事手続法の各講義用に、毎回、1200字詰め約20枚の参考文献を列挙しつつ、図示するなどの工夫を施したレジュメを作成し、これを事前に配布した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
FD		学内のFDにおいて、積極的に意見交換をした。
4.法律実務教育に関する特記事項		
その他		実定法上の解釈論について学説上の論争の概要を講義し、判例の原文を読解し、そのうえで、判例が学説に対してどのように応説しているかを検討の中心的課題とした。

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
在籍：2010(平成22)年4月～
最終学歴：慶應義塾大学法学部法律学科
専門分野：刑事法、労働法、会社商事関係全般等
資格：弁護士(第二東京弁護士会)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	(財)金融情報システムセンター検討部会委員
2006年4月～現在	司法修習委員会委員
2006年6月～現在	(社)全国民営職業紹介事業協会 理事
2006年6月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2007年6月～現在	(株)フェイス 監査役
2007年8月～現在	メディアステック(株) 監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会 常務理事

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963(昭和38)年
在籍 : 2010(平成22)年4月～
最終学歴 : 東京大学法学部
専門分野 : 会社法・商法
前職 : 三菱商事株式会社勤務(1987～1999)
資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的で開催されるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上のための議論に参加した。		

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

中野邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスマソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。
(2)法学検定対策	2005年度～2013年度	法学検定3級に合格できるよう、授業時間およびそれ以外の時間帯を使用して、法学検定の予想問題集を使い、指導している。
(3)レジュメ・レポートの指導	2005年度～2013年度	担当するゼミの報告前に、授業時間外で(毎週10時間程)、報告する学生一人一人に対し、個別にレジュメの作成方法、教科書の読み方、まとめ方等を指導している。
(4)基本六法の論証集・定義集の作成	2006年度・2007年度	法科大学院進学希望の学生を対象に、憲法、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法の基本となる定義をそれぞれまとめ、各法における典型論点につき、論証例作成の指導をした。
(5)資格試験対策(答案指導等)	2006年度～2010年度	公務員試験・法科大学院進学希望の学生を対象に、授業時間内外で、各種資格試験の択一問題、論述問題等につき、指導をしている。
(6)大学対抗模擬裁判	2011年度	私法に関する諸問題につき、三大学(桐蔭、駒澤、東海)対抗の模擬裁判を行うことを通じて、実践的な法的思考方法を身につけ、より深く、かつ、立体的に法律学を理解することができるよう指導している。なお、これは、他大学の学生との知的交流を通じて、学生相互に刺激しあい、これまで習得してきた知見と経験を、より広く、豊かなものにするための授業でもある。
(7)最高裁判所見学	2013年度	法学部1年生に、法律に興味を持ってもらうとともに、フレッシュマン・ゼミのメンバー同士で親睦を図るべく、最高裁判所に行き、大法廷などを見学した。
(8)インゼミ討論会・LSGへの参加	2013年度	法学部3年生を対象とするインゼミ討論会に、1年次からプレゼンテーション能力を向上させるべく参加するとともに、LSGへも参加し、1年次からの少人数教育を生かすような指導を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)民法Ⅰ(全体像・総則)	2005年4月～2007年7月、2013年	全120頁からなる民法総則の講義用レジュメ。
(2)民法Ⅱ(債権総論)	2005年4月～2008年2月	全110頁からなる債権総論の講義用レジュメ。
(3)民法Ⅲ(債権各論)	2008年10月～2011年3月	全80頁からなる債権各論の教材。
(4)民法Ⅲ(不法行為法)	2011年4月～2012年	全50頁からなる事務管理・不当利得・不法行為の教材。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・「論理的思考能力とプレゼン力を養う 大学対抗模擬裁判ゼミって？」	2011年11月	2011年度の法律演習(学部3・4年)にて行った大学対抗模擬裁判(駒澤大学・東海大学)の趣旨・狙いと、法学教育の意義についてインタビューを受け、その内容がまとめられたもの(キリコ2011秋号 Vol.11掲載。要旨については、 http://www.cc.toin.ac.jp/ouen/kiriko/kiriko11.html 参照)

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>法律行為論の本質論]についての体系的・原理的研究 上記の研究テーマのもと、2011年度～2013年度の3年間、科研費(代表)の受給を受けることになった最終年度の年として、これまでの研究成果をまとめつつ、研究の全体像・問題意識・今後の研究の方向性につき検討し、研究全体を一書にまとめるさいの「1 問題の所在」に相当する部分の論文を執筆し、公表した。</p> <p>日本民法典財産法編・担保法の改正に向けた立法論的研究 2013年度から2017年度の5年間、これまでの民法典財産法編の改正に向けた立法論的研究に続き、担保法を含めた財産法全体の改正条文案を研究することになった。初年度は、担保法の研究会の運営と、これまで行ってきた総則編の条文案・理由書の原案作成を研究代表者とともに行うとともに、担保法制の比較法的調査として、アメリカの法状況についてヒアリング調査を行った。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
篠津安恕先生追悼論文集『法思想史の新たな水脈—私法の源流を求めて—』	共著	2013年11月7日	昭和堂	竹下賢=宇佐見誠編	「カントによる「自由の体系」の基礎づけ—啓蒙期自然法論からの哲学的転回」187-217頁執筆
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
「法律行為論の本質論]についての体系的・原理的研究(課題番号:23730111)	2011年4月～2014年3月	科学研究費補助金(若手研究(B)) 研究代表者			
日本民法典財産法・担保法編の改正(課題番号:25245011、代表:加藤雅信)	2013年4月～2018年3月	科学研究費補助金(基盤研究(A)) 研究分担者			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
アメリカ担保法制・ヒアリング調査	2014年3月23日～3月28日	ワシントン大学ロースクール(アメリカ)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会、日本法哲学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
あやめコンサート(横浜総合病院)	2013年6月22日	ボランティアサークルArch顧問として
青葉区民祭り(青葉区役所)	2013年11月3日	
青葉台マルシェ(青葉台商店街)	2013年12月1日	
クリスマスコンサート(横浜総合病院)	2013年12月21日	

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年 : 1974(昭和49)年1月9日
在籍 : 2010(平成22)年4月～
最終学歴 : 明治大学法学部
学位 : 法学士
専門分野 : 知的財産法, 企業法務, 広告規制法
資格 : 弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
講義レジュメの作成		教科書を使用する科目でもすべてオリジナルレジュメを作成しているが、特に「債権回収と担保」では、教科書を指定せず、講義に耐える自作レジュメを作成し、それのみでの講義を行っている。

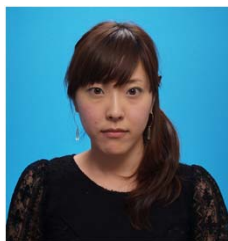
III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
社外監査役	2007年 6月～現在	株式会社ゼンリン

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年2月～現在	日本弁理士会 能力担保研修講師

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月～
最終学歴 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
学位 : 法務博士
学内役職等 : 法科大学院教育助手
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)

(2014年度 新任教員)

上野 保 (うえの たもつ) 教授



出生年 : 1968(昭和43)年
在籍 : 2014(平成26)年4月～
最終学歴 : 東京大学法学部卒
学位 : 学士(法学)
専門分野 : 倒産処理法
前職 : 大宮法科大学院大学教授
資格 : 弁護士(元木・上野法律会計事務所)

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「詳説倒産と労働」	共著	2013年8月17日	商事法務	「倒産と労働」実務研究会	254-277頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
パネルディスカッション「建築請負契約と倒産」	2013年11月23日	第12回全国倒産処理弁護士ネットワーク金沢大会(石川県金沢市)	司会・小堀秀行 パネリスト・鹿子木康, 本多俊雄, 中西正, 上野保, 三浦久徳		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会倒産法研究会, 事業再生実務家協会, 事業再生研究機構, 全国倒産処理弁護士ネットワーク	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2011年11月～現在	全国倒産処理弁護士ネットワーク理事
2013年4月～現在	第二東京弁護士会倒産法研究会幹事

熊田 彰英 (くまだ あきひで) 教授



出生年：1969(昭和44)年12月25日
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部
 学位：法学士
 専門分野：刑事法, 刑事実務, 国際司法, 韓国法制
 前職：法務省大臣官房秘書課(検事)
 資格：弁護士(のぞみ総合法律事務所)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実際の事件・実務を意識した教育	2014年4月～	毎回、判例・時事問題のほか、自らが実務で担当した事件等について適宜言及し、現在習得しようとしている理論・知識が将来実務においてどのような形で役立つか、また、いかなる場面で必要か、学生が具体的なイメージを持てるよう適宜工夫している。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
講義「日本における告訴・告発の実情」	2014年5月	ソウル弁護士会	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
講演「再犯防止総合対策について」	2013年7月	法と経済学会全国大会	北海道大学
○その他			
(その他特記事項)			
ドラマ「HERO」リーガルアドバイザー (2014年7月～)			
「スーパーニュース」コメンテーター (2014年7月～)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
平成26年4月～現在	非弁護士取締役委員会幹事

IV 法律実務に関する活動

会の名称	年月日	場所	内容等
法務省大臣官房秘書課(検事)	2012年4月～2014年3月	法務省	法務行政、秘書、国会、渉外、広報、危機管理等

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井 理 予 (おくい みちよ) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学 位 : 博士(薬学)
 学 位 論 文 : ダウン症関連領域からクローニングされたMNB遺伝子の発現解析
 専 門 分 野 : 分子生物学、細胞生物学
 前 職 : 慶応義塾大学医学部助手
 留 学 : St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資 格 : 薬剤師免許

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略

2013年度は、マウス髄芽腫細胞を用い、PARP阻害剤によって発現上昇するmicroRNAとそのターゲットについて解析を行った。その結果、上皮間葉転換(Epithelial-Mesenchymal Transition: EMT)に関与するmicroRNAとそのターゲットを同定した。

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(口頭発表) 酸化ストレスによるATMキナーゼの活性制御	2013年10月	日本放射線影響学会第56回大会(青森)	小林純也、藤本浩子、加藤竹雄、Martin Lavin、松浦伸也、小松賢志

○その他

(補助金・助成金等)

事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
基盤研究(B) nucleolinによるクロマチンリモデリングを介したゲノム安定性維持機構の解明	2012年4月～2015年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)

(その他特記事項)

京都大学放射線生物研究センター重点領域研究(2011～2014年度) マウス脳腫瘍におけるDNA修復経路と効果的化学療法剤の検討

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会(American Association for Cancer Research)

吉田 薫 (よしだ かおる) 専任講師



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員

II 研究活動

○2013年度の研究活動概略					
<p>受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、カタユウレイボヤ精子誘引物質の受容体同定候補の同定、機能解析を行い、またマウス精嚢分泌タンパク質の機能に関しては因子のノックアウトマウス作成に成功し表現系解析が終了し、論文採択の目処がたった。精子無力症の基礎研究に関しては臨床検体の免疫染色による検査症例について、予後調査を行い、検査結果との関連性について解析を行った。学内共同研究のTZFノックアウトマウスの表現系解析については、精子形成不全について引き続き検討し、論文投稿を試みたが、現在のところ受理に至っていない。しかし、このノックアウトマウスについてはオーストラリア大学との共同研究が進行し、論文掲載の目処がたった。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Establishment of adult mouse Sertoli cell lines by using the starvation method”	共著	2013年4月29日	Reproduction. 145(5)	Sato Y, Yoshida K , Nozawa S, Yoshiike M, Arai M, Otoi T, Iwamoto T	pp.505-516
“Apigenin Inhibits Osteoblastogenesis and Osteoclastogenesis and Prevents Bone Loss in Ovariectomized Mice”	共著	2014年2月6日	Cytotechnology・Published online	Tadashi GOTO, Keitaro HAGIWARA, Nobuaki SHIRAI, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA	DOI 10.1007/s10616-014-9694-3
“Seminal vesicle protein SVS2 is required for sperm survival in the uterus”	共著	2014年3月4日	Proc. Natl. Acad. Sci. USA 111(11)	Natsuko Kawano, Naoya Araki, Kaoru Yoshida , Taku Hibino, Naoko Ohnami, Maako Makino, Seiya Kanai, Hidetoshi Hasuwa, Manabu Yoshida, Kenji Miyado, Akihiro Umezawa	10.1073/pnas.1320715111
“Zinc-finger protein ZFP318 is essential for expression of IgD, the alternatively spliced Igh product made by mature B lymphocytes”	共著	2014年3月10日	Proc. Natl. Acad. Sci. USA・Published online	Anselm Enders, Alanna Short, Lisa A. Miosge, Hannes Bergmann, Yovina Sontani, Edward M. Bertram, Belinda Whittle, Bhavani Balakishnan, Kaoru Yoshida , Geoff Sjollema, Matthew A. Field, T.Daniel Andrews, Hiromi Hagiwara, Christopher C. Goodnow	PNAS Early Edition 1-6

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Apigenin promotes bone remodeling in mouse”	2013年10月26日	8th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 2013, Toin University of Yokohama	Keitaro HAGIWARA, Tadasu GOTO, Nobuaki SHIRAI, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
「精漿タンパク質SEMGの精子の受精能評価マーカーとしての検討」	2013年11月15日～16日	第58回日本生殖医学会学術講演会 神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル	吉田 薫 , 山崎 一恭, 吉池 美紀, 岩本 晃明
「脂肪細胞の分化制御におけるフラボノールとフラバノンの構造相関」	2013年11月23日	第17回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 千里ライフサイエンスセンター	萩原啓実, 飯塚俊介, 吉田 薫
“Plasma membrane Ca ²⁺ /ATPase concerning sperm chemotaxis in the ascidian Ciona intestinalis”	2013年12月4日	第36回日本分子生物学会年会 神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル	Kaoru Yoshida , Ayako Sakamoto, Kazuo Inaba, Manabu Yoshida
「補体制御因子C4b-binding proteinのノックアウトマウス作成と精巣上体における機能解析」	2013年12月4日	第36回日本分子生物学会年会 神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル	野中真弓, Rick A. Wetsel, 宮東昭彦, 川上速人, 吉田薫 , 吉田学, 河野菜津子, 宮戸健二, 野中勝
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金	2010年度～2013年度	若手研究(B)、精囊分泌タンパク質による精子膜構造の制御を介した受精能抑制機構の解明22791502、研究代表者	
科学研究費補助金	2011年度～2013年度	基盤研究(C)、ARTにおける適切な治療方針決定のための新しい精液検査法に関する研究23592383、研究分担者	
科学研究費補助金	2012年度～2014年度	萌芽研究、ホヤ精子誘引物質の合成・分泌経路からみた誘引物質の種特異的分化機構の解明24651240、研究分担者	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本プロテオーム学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年9月～現在	日本動物学会男女共同参画委員
2012年10月～2013年10月	男女共同参画学協会連絡会運営委員

2013年度 退職教員

(法学部・法律学科)

鈴木直志(すずき ただし) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：1997(平成9)年4月～2014(平成26)年3月
 最終学歴：中央大学大学院文学研究科博士後期課程
 学位：博士(史学)
 学位論文：近世ドイツにおける軍隊・国家・社会とその変容
 専門分野：ドイツ近世史、ヨーロッパ軍事史
 前職：大妻女子大学社会情報学部非常勤講師
 学内役職等：学生部副部長(2012～)
 留学：ドイツ連邦共和国ヴェルツブルク大学
 非常勤講師：中央大学文学部、東京大学教養学部
 受賞・表彰：戦略研究学会研究奨励賞(小野賞)受賞(2006年)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「近代ドイツ・スイス・ネーデルラント」	単著	2013年5月20日	『史学雑誌』第122編第5号	-	343-349頁
(学術論文)					
「ドイツ歴史学における戦争研究—戦争の経験史研究補遺」	単著	2013年7月10日	福間良明他編『戦争社会学の構想—制度・体験・メディア』	-	279-299頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
「常備軍と近世国家—プロイセン史を中心に」		2013年9月22日	ヨーロッパ近世史研究会 第20回例会(駒澤大学)	-	
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「(文献紹介)山内進著『文明は暴力を超えられるか』筑摩書房、2012年」	2013年8月31日	『戦略研究』第13号 166-167頁			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本西洋史学会、法文化学会、戦略研究学会、Arbeitskreis Militär und Gesellschaft in der Frühen Neuzeit	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年4月～現在	戦略研究学会編集委員

原 口 伸 夫 (はらぐち のぶお) 教授



出 生 年 : 1968(昭和43)年
在 籍 : 2002(平成14)年9月～2014(平成26)年3月
最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : 不能未遂に関する一考察——危険性は未遂犯のメルク
マールたり得るのか?——
専 門 分 野 : 刑法
前 職 : 中央大学法学部兼任講師、駒澤大学法学部非常勤講師
学 内 役 職 等 : 学生部副部長(2012～)、キャリア情報センター長(2013～)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本刑法学会

山城 崇夫 (やましろ たかお) 教授



出生年 : 1951(昭和26)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～2014(平成26)年3月
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程退学
学位 : 法学修士
学位論文 : アメリカ合衆国の民事訴訟における除斥・忌避制度の展開
専門分野 : 民事訴訟法、裁判法、民事紛争処理法
前職 : 山口大学経済学部経済法学科教授
学内役職等 : 副学長、法律プロフェッショナルセンター長 (2012～2013)
資格 : 弁護士

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)私立大学協会教育充実協議会委員	2005年4月～現在	毎年、春と秋の協議会に参加。大学を取り巻く教育環境の動向について研修。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
民事訴訟法学会、日本交渉学会、仲裁ADR学会、司法アクセス学会 日本法律家協会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	日本交渉学会理事
2006年～現在	司法アクセス学会理事

河部 裕子 (かわべ ひろこ) 教授



出生年 : 1947(昭和22)年
 在籍 : 1988(昭和63)年4月～2014(平成26)年3月
 最終学歴 : 東京大学理学系大学院修士課程
 学位 : 理学博士(理学)
 学位論文 : On the Conjugation of Local Diffeomorphisms Infinitely Tangent to the Identity
 専門分野 : 微分位相幾何学
 前職 : 東京工業大学理学部数学科助手、フーリエ研究所(グルノーブル)客員教授(1985.1～6)
 研究推進部副部長 (～2012)
 留学 : M.S.R.I.(カリフォルニア・バークレー・数理科学研究所) (1988.8～9)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
数学Ⅰ・数学Ⅱ(工学系学部)	2005年～	大学入学時において基礎的数学の習得が不十分な学生を対象に、基礎数学の習得を支援する課目を設置。必修科目として、半数の学生が履修している。少人数対応で演習中心の授業を実施。さらに集団での講義についていけない学生のために、特別に講師の個人指導を実施している。
微分方程式(工学系学部)	2005年～2009年 2010年～	工学部の学生を対象に、物理現象・化学現象において考えられる典型的な微分方程式を紹介し、その解法を学ぶことを中心課題とする。到達度別のクラス分けをし、それぞれに適した講義をしている。 工学部廃部に伴い受講者が減少し、クラス分けを中止。
線形代数学(工学系学部)	2005年～2009年 2010年～	工学部においての必須の科目であるが、講義が半期で終了するため後半の固有値の計算は、希望者だけの特別補習となる。到達度別にクラス分けをし、それぞれに適した講義をしている。 工学部廃部に伴い受講者が減少し、クラス分けを中止。
算数概論(スポーツ健康政策学部)	2008年～ 2010年～	小学校教員養成のための講義。将来、小学校教員として教壇に立つ学生のための講義で、講義と演習の形式で進めている。半期のため、内容は詰め込み過ぎるくらいはあるが、必要と思われる内容は提示しようと思う。 学芸大付属竹早小学校より、現任教諭2名に算数の授業を依頼。学生に現場の大変さ・興味深さを体験してもらう。
数学概論(スポーツ健康政策学部)	2010年～	数学の基礎に不安のある学生が受講。演習の形式をとるため、それぞれが自分のペースで進められる良さがある。
数学Ⅱ(スポーツ健康政策学部)・数学概論Ⅱ(新カリキュラムの名称)	2011年～	数学概論の続編・数学基礎を演習形式で修得する。
身近な数学	2011年～	データ処理・分析などで必要になる、統計学の基礎を、授業内容とする新設の科目である。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
学生会文化部所属A.V.C.部(Audio Visual Computer部)顧問	2005年～	

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
"A Space of Harmonic Maps from a Sphere into the Complex Projective Space"	単著	2013年	Canadian Journal of Mathematics 65(2013),No.4	Hiroko Kawabe	pp.879-904

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本数学会、日本数学教育学会

清水 麗 (しみず うらら) 教授



出生年：1967(昭和42)年
在籍：2008(平成20)年4月～2014(平成26)年3月
最終学歴：筑波大学大学院博士課程国際政治経済学研究所 単位取得満期退学
学位：修士(地域研究)、修士(学術)、博士(国際政治経済学)
学位論文：「戦後日中台関係とその政治力学-台湾をめぐる国際関係-」(博士論文)
専門分野：日台関係、東アジアの国際関係論、地域研究、日中台関係
前職：国士舘大学21世紀アジア学部教授
非常勤講師：愛知大学大学院

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「台湾研究専著著者との対話」シリーズ第7回 評者)『「二つの中国」と日本方式』著者との対話	2013年6月21日	日本台湾学会定例研究会(歴史・政治・経済部会)第83回 於早稲田大学	
(コメンテーター)「進展する戦後日台関係史 研究」	2013年7月2日	第7回東アジア国際関係史研究会ワークショップ 於東京大学駒場キャンパス	

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
20世紀中国の政策決定過程における「世論」 要因の分析 (研究分担者)	2012年度～2014年度	科研〔基盤研究(B)〕

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
アジア政経学会、日本国際政治学会、日本台湾学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年6月～現在	日本台湾学会論文編集委員

(工学研究科)

大塚 雅人 (おおつか まさと) 准教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2004(平成16)年4月～2014(平成26)年3月
 最終学歴：岡山大学医学部
 学位：医学博士
 学位論文：Otsuka M, Itagane H, Haze K：“Clinical significance of improved persistent defect by thalium-201 reinjection imaging in the subacute phase of myocardial infarction.” J Cardiol 33; 67-74, 1999
 専門分野：循環器病学、心血管カテーテルインターベンション、血管内イメージング、冠動脈CT
 前職：大阪市立総合医療センター循環器内科医長
 留学：Erasmus Medical Center, Rotterdam(2005.11-2007.3)
 資格：医師免許、日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定内科医、日本心血管インターベンション治療学会専門医
 非常勤講師：横浜総合病院ハートセンター循環器科部長(兼任)
 受賞・表彰：日本冠疾患学会賞(1999)
 日本心臓病学会Cardiovascular Imaging Award (2003)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「下肢救済のためのチーム医療とストラテジー —付加療法の役割—」	共著	2013年8月20日	創傷 4(3)	東田隆治, 菊池恭太, 藤本雅史, 大塚雅人	140-148頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Impact of coronary calcium score as gatekeeper for coronary CT angiography”	2013年9月3日	European Society of Cardiology Congress 2013	M. Otsuka, I. Kokura, T. Nakashima, T. Gunji, Y. Ozaki, S. Takenaka, M. Nakamura, Y. Tsurumi		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「循環器診療における冠動脈CTの役割」	2013年4月23日	第2回横浜北部循環器診療連携会	横浜		
「PCI Bailout Seminar—備えあれば憂いなし—」	2013年10月19日	Complex Cardiovascular Therapeutics 2013	神戸		
「ハズオンセミナー【実技】IVUSスタックへの対処」	2013年10月25日	TOKYO LIVE DEMONSTRATION 2013,,第43回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会	東京		
「狭心症と心筋梗塞」	2014年2月22日	横浜総合病院 第86回生活習慣病教室	横浜		
○その他					
(その他特記事項)					
「第22回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・座長」(2013年7月12日) メディカル一般演題(口演)43 CT 2					
「第85回神奈川PTCA研究会学術集会・座長」(2013年8月2日) 症例検討					

「第43回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会・座長」(2013年10月26日)一般演題 口演7 スtent・合併症
「第24回日本心血管画像動態学会・座長」(2014年1月24日)一般演題5 「CT 2」

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本内科学会, 日本心血管インターベンション治療学会, 日本心血管画像動態学会, 日本冠疾患学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年～現在	日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会運営委員
2004年～現在	日本心血管画像動態学会評議員
2004年～現在	関東甲信越IVUS研究会世話人

石井 あゆみ (いしい あゆみ) 助教



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2011(平成23)年2月～2014(平成26)年3月
最終学歴：青山学院大学大学院理工学研究科機能物質創成コース博士後期課程修了
学位：博士(理学)
学位論文：「フェナントロリンを配位子とするPr(III)錯体の配位子-金属間のエネルギー移動に関する研究」(修士論文)
「発光性ランタノイド錯体の構造制御と機能に関する研究」(博士論文)
専門分野：分子分光学、有機光エレクトロニクス、錯体化学
前職：ソニー(株)先端マテリア研究所研究員
受賞・表彰：第1回SPring-8萌芽的研究アワード 優秀賞 (2008年)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、光化学協会、電気化学会、錯体化学会、複合系の光機能研究会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～現在	電気化学会関東支部幹事

(法務研究科)

井口 寛二 (いぐち かんじ) 教授



出生年：1945(昭和20)年
在籍：2005(平成17)年4月～2014(平成26)年3月
最終学歴：東京教育大学
専門分野：労働法
資格：弁護士(第二東京弁護士会所属)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
受講生に授業に積極的に参加させること	2005年以降	講義方式の講義において、3分の1の時間だけ1人または2人の院生にメモを作成させて、自ら講義させた。そして疑問点、問題点を教員が質問して、担当院生、受講者に答えさせた。これは、院生の授業参加のほか、受講者に講義に興味を抱かせた。更に、院生に発表させることによって、院生一般が理解出来ないところ、共通の弱点が明らかになった。
受講生に数多く起案させること	2006年以降	ゼミ方式の講義において、可能な限り毎回課題を出して、講義前までに起案として提出させる。講義前に添削して院生に返した。講義において院生は戻された起案を参考にして講義を聴くこと、また講義内容は主として起案において、理解不足であること、重要な論点であることに説明の時間を割いた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
労働法講義		論点、考え方が判るように作成
労働法主要判例綴り(3部)		事実関係、論点が判るように判例を編集

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1975年4月～	第二東京弁護士会所属弁護士
1998年4月～	警察大学校講師
2003年4月～	財団法人トステム建材産業振興財団評議員
2003年4月～	財団法人日弁連法務研究財団所属評価委員
2006年4月～	財団法人労災年金福祉協会理事
2006年4月～	日本弁護士連合会 法科大学院センター委員
2006年4月～	財団法人労災保険情報センター理事
2007年6月～	財団法人民事法務協会理事

岡田 泰亮 (おかだ やすあき) 教授



出生年 : 1945(昭和20)年
在籍 : 2004(平成16)年4月～2014(平成26)年3月
最終学歴 : 早稲田大学法学部
専門分野 : 取引法、民事法
資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
弁護士法5条研修講師		
司法書士の簡裁代理権付与の能力担保研修講師		

吉田 宣之 (よしだ のぶゆき) 教授



出生年：1945(昭和20)年
 在籍：1993(平成5)年4月～2014(平成26)年3月
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：違法性の本質と行為無価値
 専門分野：刑法
 前職：武蔵野短期大学国際教養学科 専任教授
 留学：ルードウィッヒ・マクシミリアン大学法学部刑事法研究所、
 レーゲンスブルク大学法学部刑事法研究室、ヴェリツブルク
 大学ヒルゲンドルフ研究室
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学問と実務の融合 既修者と未修者の知識差の克服		ロースクールの講義には、左記のような克服されるべき諸問題がある。これを克服するために、種々工夫、例えば、講義の前半を基礎、後半を応用と区分する等試みている。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
オフィスアワーの活用 論文特別指導		我校には未修者(完全な意味での)が多いので、日頃の問題点については、オフィスアワーを利用して、又、特別の時間を作り、論文作成について直接指導している。

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
刑法の基礎理論	2013年6月19日、 同26日、7月1日	財務省税関研修所	財務省税関柏研修所

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日本生命倫理学会、東京大学刑事判例研究会、中央大学刑事判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	神奈川県学生柔道連盟会長
2009年4月～現在	自由民主党かながわ政治大学校校長
1975年～現在	財務省税関研修所講師

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2012年3月～2013年4月	東京地方裁判所立川支部原告訴訟代理人(民事系)

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(公開研究会)

桐蔭横浜大学ミディエイション交渉研究所 公開研究会

日時: 2013年9月22日(日)13:20~17:00

場所: 桐蔭法科大学院(302号教室)

プログラム概要

個別報告

特別講演 I

梅谷 真人(富士ゼロックス株式会社知的財産部渉外グループ長、元・首都大学東京非常勤講師)
テーマ「企業間における契約交渉」

特別講演 II

小山 香 (弁護士、埼玉弁護士会・人権のための法教育委員会委員長、朝霞市市議会議員)
倉橋 りえ子 (さいたま市立蓮沼小学校教諭)
テーマ「埼玉弁護士会の法教育実践-『問題解決の糸口-表現の自由の意義を体験して』」

パネルディスカッション

国際公開研究会

日時: 2014年3月7日(金)14:50~17:30

場所: 桐蔭横浜大学法学部棟J521会議室

司会: 河合 幹雄 (桐蔭横浜大学法学部長・教授)

通訳: 韓 寧 (桐蔭横浜大学法学部准教授)

基調報告 I

劉 敏 (南京師範大学法学部長・教授)
テーマ「中国の司法実務における刑事罰と民事賠償の関係の処理」

基調報告 II

陳愛武 (南京師範大学法学部教授)
テーマ「中国の刑事附帯民事訴訟制度」

ディスカッション

(特別企画)

法学部創設20年記念懇親会

日時: 2013年11月30日(土)17:00~19:00

場所: 法曹会館 (東京都千代田区霞が関)

概要: 法学部創設20周年を記念する事業の一環として、法学部卒業生と教員の集う懇親会が、大学同窓会の協賛・支援のもと行われた。参加者は卒業生124名、教員33名の計157名にのぼった。

(公開講座)

桐蔭横浜大学 医用工学部 ジュニア公開講座 -TOIN OPEN COLLEGE 2012-

日時: 2012年9月29日~11月24日(全3回) 各回14:00~16:00

場所: 桐蔭横浜大学先端医用工学センター棟2階 カンファレンスルーム

概要: 本学の専門教員が中心に、現代医療に用いられているさまざまな理工学技術について高等学校などで学ぶ物理学、化学、生物学などと結びつけながら、わかりやすく紹介する。

(第1回・9月29日)講師:医用工学部 助手 山内 忍

テーマ:「医療を支える工学技術」

(第2回・10月13日)講師:医用工学部 助手 蓮沼 裕也

テーマ:「微生物とヒトの世界」

(第3回・11月24日)講師:医用工学部 専任講師 大辻 希樹

テーマ:「からだを守る免疫の不思議な世界」

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2013(第8回)

The 8th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2012

日時:2013年10月26日(土)9:00~18:00

場所:桐蔭メモリアルアカデミウム

Program Over View

1) Oral presentation

Presentation 1 : Mr. Ryo AKAMATSU, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 2 : Mr. Toshinobu ABE, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 3 : Mr. Kazuki Hirose, Faculty of Biomedical Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 4 : Ms. Sakino IWASHIRO, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 5 : Mr. Daisuke KAMAYAMA, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 6 : Mr. Kazuma SASAKI, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 7 : Mr. Naoya SHIMAZAKI, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 8 : Dr. Yoshinori HAYAKAWA, Part-time Lecturer, Faculty of Biomedical Engineering,
TOIN University of Yokohama

2) Plenary session —invited speakers—

Session1: “Human Birthing Tissues: Biomaterial Applications in Wound Healing”

Dr. Peter S. McFetridge

Assistant Professor, Department of Biomedical Engineering, University of Florida

Session2: “Osteoporosis in Indonesia: Epidemiology and Research Activity”

Dr. Agung Pranoto

Professor, Faculty of Medicine, University of Airlangga

Session3: “Control of Mitochondrial Morphology by Ubiquitination and Deubiquitination”

Dr. Nobuhiro Nakamura

Associate Professor, Graduate School of Bioscience and Biotechnology,

Tokyo Institute of Technology

Session4: “Functional Reconstitution of Olfactory Receptor Complex on Baculovirus”

Dr. Kenichi Mitsui

Specially-appointed Research Associate, Department of Molecular Biology and Medicine

Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo

3) Oral presentation

Presentation 8 : Ms. Kumi HARADA, Graduate School of Bioscience and Biotechnology,
Tokyo Institute of Technology

Presentation 10 : Ms. Hisano MIYAGI, Graduate School of Bioscience and Biotechnology,
Tokyo Institute of Technology

Presentation 11 : Mr. Naoto HOSAKA, Graduate School of BASE,
Tokyo University of Agriculture and Technology

Presentation 12 : Mr. Yosuke UCHIDA, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

Presentation 13 : Mr. Keiichi YORIZUMI, Graduate School of Engineering,
TOIN University of Yokohama

4) Authors Present at Poster

BIOMEDICAL ENGINEERING — 24 posters

GENETIC ENGINEERING — 10 posters

LIFE and ENVIRONMENTAL SCIENCE — 8 posters

INFORMATICS and MECHANICAL ENGINEERING — 9 posters

(イベント／学内)

生活習慣改善プロジェクト講演会

日時： 2013年7月3日(火)18:00～19:45

場所： 桐蔭横浜大学中央棟C307

主催： 桐蔭学園スポーツ教育振興本部

講師： 小澤治夫(東海大学教授)

内容： 現代の生活環境が生活習慣を崩し、これにより体力、学力が低下し、心身発達の妨げになっていると指摘し、学生、生徒にとって、「朝食をとる」「朝排便をする」「遅刻をしない」「授業中寝ない」「適度な運動」「家でも勉強」「入浴する」「7時間以上の睡眠」の8項目が特に重要とし、実体験や裏付けデータの映像を使い話をした。

第14回おもしろ理科教室

日時： 2013年8月21日(水)10:00～16:00

場所： 桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象： 小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

「じゃんぼシャボン玉に挑戦」

「立体画像を楽しもう」

「葉っぱの笛を鳴らしてみよう」

「壺の笛を鳴らしてみよう」

「脳を知ろう！！脳を作ろう！！」

「生物の「光」をつくってみよう」

「君も名探偵！みどりのしみのなぞ？」

「礼儀作法」

「なりきり裁判官」

「社交ダンス&車いすダンス」

「電気のでコインを飛ばそう」

「あなたのバランスは！？」

「天才になれる？新そろばん数字とコンピューター数字！九九を覚えなくともすぐ掛け算割り算ができる」

「「力」を実感してみよう」

「さわれない黒いかべ！偏光って何だ？」

「風も吹いていないのに葉っぱが揺れる？」

「サボテンのふしぎ発見」

「わくわく病院ごっこ」

「ミクロの世界を探検しよう」

「ペットボトルで遊ぼう」

「ブーメランを飛ばそう」

「体育館遊園地化計画」

特別授業「ふしぎかわいいおもしろ～い！サボテンの形のなぜ？」

特別授業「気象キャスターによる天気のおもしろ～い！サボテンの形のなぜ？」

2020東京オリンピック パラリンピック 招致シンポジウム

日時: 2013年8月24日(土)14:00～16:00
場所: 桐蔭横浜大学中央棟C307
パネリスト: 二宮清純(スポーツジャーナリスト、(株)スポーツコミュニケーションズ代表取締役)
秋山里奈(ロンドンパラリンピック水泳日本代表背泳100m金メダリスト)
天野美沙(桐蔭学園スポーツ教育振興本部職員)
加藤知生(桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部教授)
コーディネーター: 田中暢子(桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部准教授)
総合司会: 並木浩一(桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部教授)
テーマ: オリンピック・パラリンピックの将来像
～スポーツの力でつくる私達の未来～

暴力根絶シンポジウム

日時: 2013年12月10日(火)17:00～19:00
場所: 桐蔭横浜大学中央棟C307
パネリスト: 菊 孝一(筑波大学大学院教授)
山口 香(筑波大学准教授)
佐藤宣践(桐蔭横浜大学副学長)
コーディネーター: 田中暢子(桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部准教授)
概要: 「スポーツ現場における暴力「体罰」「ハラスメント」を考える」

(イベント/学外)

「第1回青葉区クールアース講座～みんなで楽しく学べるエコイベント～」

日時: 2013年6月22日(土)10:30～12:00
場所: たまプラーザテラスプラザホールbyイツコム(ゲートプラザ2階)
内容: 「色素太陽電池を作ってみよう」
キットを使い、ゼロから太陽電池を組み立てることで、光発電の面白さを体験できる。

「第16回大学で学ぼう～生涯学習フェア～」

日時: 2013年6月29日(土)、30日(日)10:00～16:00
場所: 昭和音楽大学
主催: かながわ大学生涯学習推進協議会
内容: 専門的、系統的な学習を希望する社会人を対象に、大学や短期大学、大学院を紹介し、学習機会の情報を広く提供するため、ブースを設置し、講座内容等の説明や資料配布を行う。

「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」

日時： 2013年7月13日(土)10:00～17:30

場所： 新都市ホール(そごう横浜店9階)

主催： かながわ発・中高生のための大学セミナー実行委員会

(神奈川県、神奈川県教育委員会、神奈川大学、神奈川工科大学、関東学院大学
北里大学、慶應義塾大学、湘南工科大学、桐蔭横浜大学、東海大学、東京工芸大学
東京農業大学、日本大学生物資源科学部、明治大学、横浜国立大学、横浜市立大学
(財)神奈川科学技術アカデミー)

内容： 医療技術体験<カラダを治す>

手術で使われている電気メスを使って、模擬手術体験をする。その他、呼吸器やカテーテルなどの医療機器を展示し、医療機器について学ぶことができる。

「サイエンスフェスタ」

日時： 2012年8月10日(金)、11日(土)9:30～15:30

場所： 東芝科学館

主催： 神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会、川崎市幸区役所、
神奈川県青少年科学体験活動推進協議会、財団法人神奈川科学技術アカデミー

内容： 生物の光を作ってみよう

ルミノール、ヘミンを使った発光の体験。

ヘミン溶液で半紙に絵や字を書いて、暗箱の中でルミノールをかけると・・・？

「ヨコハマ大学まつり2013」

日時： 2013年9月28日(土)、29日(日)11:00～17:00

場所： みなとみらい21地区 クイーンズスクエア横浜周辺

主催： ヨコハマ大学まつり実行委員会

共催： 大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市

内容： 音楽部による「音楽教室」

来場している子供たちや一般の方々に楽器にふれていただき、最後には一緒に演奏に参加。
光を作ろう！

半紙に書いた絵や文字が、暗箱の中で光ります。不思議な世界を体験。

「テクニカルショウヨコハマ2014」

日時： 2014年2月5日(水)～7日(金)

場所： パシフィコ横浜 (展示ホールC・D)

主催： 横浜市

内容： 「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法と音波を用いた植物根域の土壤水分計測および
葉の振動計測」

「躍動する有機ハイブリッド型ペロブスカイト太陽電池の開発」

**2013年度 第I期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月25日(木) ～ 6月27日(木)	10:30 ～ 12:00	10	15,000
02	パウロと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月26日(木) ～ 7月5日(木)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	5月7日(火) ～ 6月25日(火)	13:15 ～ 14:45	8	12,000
04	続日本紀を読む(13)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	5月13・27日、6月3・ 10・24日(月)	10:30 ～ 14:30	10	15,000
05	イスラームとキリスト教の対話 —日本人としてアラブ中東世界の宗教文化の核心に触れる—	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	5月15日(水) ～ 6月26日(水)	10:00 ～ 12:00	7	10,500
06	基礎スペイン語講座① —文化と共に学ぶ—	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	5月8日(水) ～ 7月3日(水)	10:30 ～ 12:00	9	13,000
07	スペイン語会話 —ネイティブの先生と共に学ぶ—	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	5月8日(水) ～ 7月3日(水)	13:00 ～ 14:30	9	18,000
08	初級フランス語	岡部 杏子 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月27日、5月11・25 日、6月8・22日(土)	10:30 ～ 14:30	10	15,000
09	中級フランス語	照木 健(元桐蔭横浜大学教授) 岡部 杏子(桐蔭横浜大学非常勤講師)	5月7日(火) ～ 7月9日(火)	14:40 ～ 16:10	10	15,000
10	ブルースの 『失われた時を求めて』を読む④	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	5月7日(火) ～ 7月9日(火)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
11	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月1日(水) ～ 7月3日(水)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
12	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月1日(水) ～ 7月3日(水)	14:50 ～ 16:20	10	15,000
13	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	5月1日(水) ～ 7月3日(水)	10:15 ～ 11:45	10	15,000
14	簡単だけれど、お洒落な英語の読み 書き-Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月30日(火) ～ 7月2日(火)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
15	学びなおす英語 - 中級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月26日(金) ～ 7月12日(金)	13:00 ～ 14:30	11	16,500
16	学びなおす英語 - 上級程度 -	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月26日(金) ～ 7月12日(金)	14:50 ～ 16:20	11	16,500
17	English is fun ! - 初級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月25日(木) ～ 7月4日(木)	13:30 ～ 15:00	10	15,000
18	You Can Do it in English ! - 中級英会話A -	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	5月13日(月) ～ 7月1日(月)	10:50 ～ 12:20	8	12,000
19	Broaden Your Horizons ! - 中級英会話B -	アンドリュウ・パーク (桐蔭学園講師)	4月30日(火) ～ 6月25日(火)	10:50 ～ 12:20	8	12,000
20	Advanced English Conversation - 上級英会話 -	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月25日(木) ～ 7月4日(木)	10:40 ～ 12:10	10	15,000
21	特許翻訳講座 -訳語選択の「なぜ」を考える-(午前クラス)	水野 麻子 (翻訳コンサルタント)	5月8日(水) ～ 7月3日(水)	10:40 ～ 12:10	9	13,500
22	特許翻訳講座 -訳語選択の「なぜ」を考える-(午後クラス)	水野 麻子 (翻訳コンサルタント)	5月8日(水) ～ 7月3日(水)	13:30 ～ 15:00	9	13,500
23	朗読基礎コース	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	5月9日(木) ～ 7月11日(木)	10:30 ～ 12:00	10	20,000
24	朗読を楽しむ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	5月9日(木) ～ 7月11日(木)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
25	初めての写真講座 -一眼レフ入門-	玄 一生 (写真家)	4月30日(火) ～ 7月9日(火)	10:30 ～ 12:00	10	22,000
26	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	4月30日(火) ～ 7月9日(火)	13:00 ～ 14:30	10	22,000
27	たのしいフルーツアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月10日(金) ～ 7月12日(金)	10:30 ～ 12:00	9	18,000

2012年度 第I期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月10日(金) ～7月12日(金)	13:30 ～15:00	9	18,000
29	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	5月10日(金) ～7月12日(金)	15:15 ～16:45	10	15,000
30	ちょこっとSALSA！！	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	5月10日(金) ～7月12日(金)	18:00 ～19:30	10	15,000
31	健康体操 -リズム&ストレッチ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	5月10日(金) ～7月12日(金)	13:15 ～14:15	10	10,000
32	身近な脳科学① -脳を知って健康な生活を-	須藤 昭一 (桐蔭横浜大学教授)	6月3日(月) ～7月1日(月)	13:00 ～14:30	5	7,500
33	今から始める！美と健康の薬膳	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	5月24日、6月7・21 日、7月5日(月)	13:00 ～14:30	4	8,000
34	Let's Talk:Life in Japan and Abroad! - 中級英会話B -	マイケル・リッチ (桐蔭横浜大学講師)	4月25日(木) ～7月4日(木)	13:00 ～14:30	10	15,000

**2013年度 第Ⅱ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月26日(木) ～11月28日(木)	10:30 ～ 12:00	10	15,000
02	パウロと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	9月26日(木) ～11月28日(木)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	10月1日(火) ～12月3日(火)	13:15 ～ 14:45	10	15,000
04	続日本紀を読む(14)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	9月5日(木)、6日(金) 11日(水)、12日(木)	10:30 ～ 14:30	7	10,500
05	イスラームとキリスト教の対話 —日本人としてアラブ中東世界の宗教文化の核心に触れる—	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	9月25日(水) ～ 12月11日(水)	10:30 ～ 12:00	12	18,000
06	基礎スペイン語講座② —文化と共に学ぶ—	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	10月2日(水) ～ 11月27日(水)	10:30 ～ 12:00	9	13,500
07	スペイン語会話 —ネイティブの先生と共に学ぶ—	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	10月2日(水) ～ 11月27日(水)	13:00 ～ 14:30	9	18,000
08	初級フランス語	岡部 杏子 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月28日(土) ～11月30日(土)	10:30 ～ 14:30	10	15,000
09	中級フランス語	照木 健(元桐蔭横浜大学教授) 岡部 杏子(桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月8日(火) ～ 12月10日(火)	14:40 ～ 16:10	10	15,000
10	ゼロからはじめる中国語 —入門編—	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	10月7日(月) ～12月9日(月)	10:00 ～ 11:30	8	12,000
11	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	10月2日(水) ～12月4日(水)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
12	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	10月2日(水) ～12月4日(水)	14:50 ～ 16:20	10	15,000
13	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	10月2日(水) ～12月4日(水)	10:15 ～ 11:45	10	15,000
14	ゼロからはじめる韓国語 —入門編—	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月11日(金) ～12月6日(金)	10:40 ～ 12:10	9	13,500
15	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き-Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月24日(火) ～12月10日(火)	13:30 ～ 15:00	12	18,000
16	学びなおす英語 —中級程度—	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月27日(金) ～12月13日(金)	13:00 ～ 14:30	12	18,000
17	学びなおす英語 —上級程度—	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	9月27日(金) ～12月13日(金)	14:50 ～ 16:20	12	18,000
18	English is fun! —初級英会話A—	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月26日(木) ～12月12日(木)	13:30 ～ 15:00	12	18,000
19	Let's Talk:Life in Japan and Abroad! —中級英会話B—	マイケル・リッチ (ウエストゲイト講師)	10月1日(火) ～12月3日(火)	13:00 ～ 14:30	10	15,000
20	You Can Do it in English! —中級英会話A—	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	9月9日(月) ～12月9日(月)	10:50 ～ 12:20	10	15,000
21	Broaden Your Horizons!(自分の視野を広げる) —中級英会話B—	アンドリュウ・バーク (桐蔭学園講師)	10月1日(火) ～12月3日(火)	10:50 ～ 12:20	10	15,000
22	Advanced English Conversation —上級英会話—	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月26日(木) ～12月12日(木)	10:40 ～ 12:10	12	18,000
23	特許翻訳講座① —訳語選択の「なぜ」を考える—(日曜クラス)	水野 麻子 (特許翻訳者)	7月21・28日(日) 8月3日(土)	10:30 ～ 16:10	10	15,000
24	特許翻訳講座② —訳語選択の「なぜ」を考える—(午前クラス)	水野 麻子 (特許翻訳者)	10月9日(水) ～12月11日(水)	10:40 ～ 12:10	10	15,000
25	特許翻訳講座② —訳語選択の「なぜ」を考える—(午後クラス)	水野 麻子 (特許翻訳者)	10月9日(水) ～12月11日(水)	13:30 ～ 15:00	10	15,000
26	朗読を楽しむⅠ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月26日(木) ～11月28日(木)	10:30 ～ 12:00	10	15,000
27	朗読を楽しむⅡ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	9月26日(木) ～11月28日(木)	13:00 ～ 14:30	10	15,000

2013年度 第Ⅱ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	初めての写真講座 -一眼レフ入門-	玄 一生 (写真家)	9月24日(火) ～12月10日(火)	10:30 ～ 12:00	11	24,000
29	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	9月24日(火) ～12月10日(火)	13:00 ～ 14:30	11	24,000
30	たのしいフルートアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月27日(金) ～12月13日(金)	10:30 ～ 12:00	10	20,000
31	たのしいフルートアンサンブル (午後クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	9月27日(金) ～12月13日(金)	13:30 ～ 15:00	10	20,000
32	飛鳥から奈良時代の仏教美術 ～仏像を中心に～	小栗 淑之 (日本美術書編集者)	9月26日(木) ～12月5日(木)	13:00～ 14:30	10	15,000
33	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	9月27日(金) ～12月13日(金)	15:15 ～ 16:45	12	18,000
34	ちょこっとSALSA！！	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	9月27日(金) ～12月13日(金)	18:00 ～ 19:30	12	18,000
35	健康体操 -リズム&ストレッチ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	9月27日(金) ～12月13日(金)	13:15 ～ 14:30	12	15,000
36	身近な脳科学② -脳を知って健康な生活を-	須藤 昭一 (桐蔭横浜大学教授)	9月30日(月) ～11月11日(月)	13:00～ 14:30	5	7,500
37	ヘルシーエイジング「美しく歳を重ねるために」 -「変えられる」より「変えていこう」-	相原 康二 (首都大学東京名誉教授)	10月8日(火) ～10月29日(火)	10:30 ～ 12:00	4	6,000
38	今から始める！おうちでできる薬膳	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	10月4日(金) ～12月6日(金)	13:00～ 14:30	5	7,500

**2013年度 第Ⅲ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表**

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月16日(木) ～3月6日(木)	10:30 ～ 12:00	8	12,000
02	パウロと現代	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月16日(木) ～3月6日(木)	13:00 ～ 14:30	8	12,000
03	短歌 実作の楽しみ	宇都宮 とよ (歌誌「心の花」選歌委員)	2月4日(火) ～3月4日(火)	13:15 ～ 14:45	4	6,000
04	続日本紀を読む(15)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	2月24日(月)、28日(金)、3月3日(月)、7日(金)	10:30 ～ 14:30	8	12,000
05	基礎スペイン語講座③ -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月15日(水) ～2月26日(水)	10:30 ～ 12:00	6	9,000
06	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月15日(水) ～2月26日(水)	13:00 ～ 14:30	6	12,000
07	初級フランス語	岡部 杏子 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	2月22日(土) ～3月8日(土)	10:30 ～ 14:30	6	9,000
08	中級フランス語	照木 健(元桐蔭横浜大学教授) 岡部 杏子(桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月14日(火) ～3月4日(火)	14:40 ～ 16:10	7	10,500
09	ゼロからはじめる中国語 -入門編-	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	1月20日(月) ～3月3日(月)	10:00 ～ 11:30	6	9,000
10	初級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月29日(水) ～3月5日(水)	13:00 ～ 14:30	6	9,000
11	中級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月29日(水) ～3月5日(水)	14:50 ～ 16:20	6	9,000
12	上級中国語会話	曾 雪 (中国語講師)	1月29日(水) ～3月5日(水)	10:15 ～ 11:45	6	9,000
13	ゼロからはじめる韓国語 -入門編-	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月10日(金) ～3月7日(金)	10:40 ～ 12:10	6	12,000
14	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き-Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月14日(火) ～3月4日(火)	13:30 ～ 15:00	7	10,500
15	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月31日(金) ～3月7日(金)	13:00 ～ 14:30	4	6,000
16	学びなおす英語 -上級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月31日(金) ～3月7日(金)	14:50 ～ 16:20	4	6,000
17	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月16日(木) ～3月6日(木)	13:00 ～ 15:00	8	12,000
18	Let's Talk:Life in Japan and Abroad! -中級英会話B-	マイケル・リッチ (ウエストゲイト講師)	1月7日(火) ～1月23日(木)	13:00～14:30 14:40～16:10	6	9,000
19	You Can Do it in English! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	1月20日(月) ～3月3日(月)	10:50 ～ 12:20	6	9,000
20	Broaden Your Horizons!(自分の視野を広げる) -中級英会話B-	アンドリュウ・バーク (桐蔭学園講師)	1月14日(火) ～3月4日(火)	10:50 ～ 12:20	7	10,500
21	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月16日(木) ～3月6日(木)	10:40 ～ 12:10	8	12,000
22	特許翻訳講座③ -訳語選択の「なぜ」を考える-(午前クラス)	水野 麻子 (特許翻訳者)	1月15日(水) ～2月26日(水)	10:40 ～ 12:10	6	9,000
23	特許翻訳講座③ -訳語選択の「なぜ」を考える-(午後クラス)	水野 麻子 (特許翻訳者)	1月15日(水) ～2月26日(水)	13:30 ～ 15:00	6	9,000
24	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月16日(木) ～3月6日(木)	10:30 ～ 12:00	8	12,000
25	朗読を楽しむ II	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月16日(木) ～3月6日(木)	13:00 ～ 14:30	8	12,000
26	初めての写真講座 -一眼レフ入門-	玄 一生 (写真家)	1月14日(火) ～3月11日(火)	10:30 ～ 12:00	6	12,000
27	楽しい写真講座	玄 一生 (写真家)	1月14日(火) ～3月11日(火)	13:00 ～ 14:30	6	12,000
28	たのしいフルートアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月10日(金) ～3月7日(金)	10:00 ～ 12:00	6	16,000

2013年度 第Ⅲ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
29	たのしいフルートアンサンブル (午後クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月10日(金) ～3月7日(金)	13:00 ～ 15:00	6	16,000
30	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	1月10日(金) ～2月21日(金)	15:15 ～ 16:45	4	6,000
31	健康体操 -リズム&ストレッチ-	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	1月10日(金) ～2月21日(金)	13:15 ～ 14:30	4	6,000
32	今から始める！おうちでできる薬膳	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	1月31日、2月28日 3月7日(金)	13:00～ 14:30	3	6,000

桐蔭横浜大学学術交流レポート2013

2015年2月発行

発行人：小島武司

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 大学事務局

〒225-8503

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://toin.ac.jp/univ/>
